



IBM Systems - iSeries

i5/OS コマンド

DSPAPPNINF (APPN 情報表示) での開始～

バージョン 5 リリース 4





IBM Systems - iSeries

i5/OS コマンド

DSPAPPNINF (APPN 情報表示) での開始～

バージョン 5 リリース 4

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、387ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、i5/OS (プロダクト番号 5722-SS1) のバージョン 5、リリース 4、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： IBM Systems - iSeries
i5/OS Commands
Starting with DSPAPPNINF (Display APPN Information)
Version 5 Release 4

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2006.2

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2006. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2006

目次

APPN情報表示 (DSPAPPNINF)	1
パラメーター	1
情報のタイプ (INFATYPE)	2
ノード (NODES)	2
セッション・タイプ (SSNTYPE)	2
ジョブ名 (JOB)	3
制御装置記述 (CTL)	3
出力 (OUTPUT)	3
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	4
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	4
例	5
エラー・メッセージ	5
ASP状況の表示 (DSPASPSTS)	7
パラメーター	7
ASP装置 (ASPDEV)	7
出力 (OUTPUT)	7
例	8
エラー・メッセージ	8
監査ジャーナル項目の表示 (DSPAUDJRNE)	9
パラメーター	9
ジャーナル項目タイプ (ENTTYP)	10
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	11
検索されたジャーナル・レシーバー (JRNRCV)	11
開始日および時刻 (FROMTIME)	12
終了日および時刻 (TOTIME)	13
出力 (OUTPUT)	13
例	13
エラー・メッセージ	14
権限の表示 (DSPAUT)	15
パラメーター	15
オブジェクト (OBJ)	15
シンボリック・リンク (SYMLNK)	16
出力 (OUTPUT)	16
例	16
エラー・メッセージ	17
権限ホルダー表示 (DSPAUTHLR)	21
パラメーター	21
出力 (OUTPUT)	21
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	22
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	22
例	23
エラー・メッセージ	23
権限リスト表示 (DSPAUTL)	25
パラメーター	25

権限リスト (AUTL)	25
出力 (OUTPUT)	26
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	26
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	26
例	27
エラー・メッセージ	27
権限リストDLO表示 (DSPAUTLDLO)	29
パラメーター	29
権限リスト (AUTL)	29
出力 (OUTPUT)	29
例	30
エラー・メッセージ	30
権限リスト・オブジェクト表示 (DSPAUTLOBJ)	31
パラメーター	31
権限リスト (AUTL)	31
出力 (OUTPUT)	32
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	32
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	32
例	33
エラー・メッセージ	33
認可ユーザー表示 (DSPAUTUSR)	35
パラメーター	35
順序 (SEQ)	35
出力 (OUTPUT)	36
例	36
エラー・メッセージ	36
バックアップ状況の表示 (DSPBCKSTS)	37
パラメーター	37
出力 (OUTPUT)	37
例	37
エラー・メッセージ	37
バックアップ・オプション表示 (DSPBCKUP)	39
パラメーター	39
バックアップ・オプション (BCKUPOPT)	39
出力 (OUTPUT)	39
例	40
エラー・メッセージ	40
バックアップ・リスト表示 (DSPBCKUPL)	41
パラメーター	41
バックアップ・リスト (BCKUPL)	41
出力 (OUTPUT)	41

例	42
エラー・メッセージ	42
停止点表示 (DSPBKP)	43
パラメーター	43
出力 (OUTPUT)	43
プログラム (PGM)	43
例	44
エラー・メッセージ	44
バインド・ディレクトリーの表示 (DSPBNDDIR)	45
パラメーター	45
ディレクトリーのバインド (BNDDIR)	45
出力 (OUTPUT)	46
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	46
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	47
例	47
エラー・メッセージ	47
コード化フォントの表示 (DSPCDEFNT)	49
パラメーター	49
コード化フォント (CDEFNT)	49
出力 (OUTPUT)	50
フォント文字セット (FNTCHRSET)	50
例	50
エラー・メッセージ	51
構成リスト表示 (DSPCFGL)	53
パラメーター	53
構成リスト (CFGL)	53
出力 (OUTPUT)	53
例	53
エラー・メッセージ	54
クラス表示 (DSPCLS)	55
パラメーター	55
クラス (CLS)	55
出力 (OUTPUT)	55
例	56
エラー・メッセージ	56
クラスター情報の表示 (DSPCLUINF)	59
パラメーター	59
クラスター (CLUSTER)	59
詳細 (DETAIL)	59
出力 (OUTPUT)	60
例	60
エラー・メッセージ	60
表示コマンド (DSPCMD)	61
パラメーター	61
コマンド (CMD)	61
出力 (OUTPUT)	62
例	62
エラー・メッセージ	62

接続リスト表示 (DSPCNL)	65
パラメーター	65
接続リスト (CNL)	65
出力 (OUTPUT)	65
例	65
エラー・メッセージ	66
接続状況の表示 (DSPCNNSTS)	67
パラメーター	67
装置 (DEV)	67
出力 (OUTPUT)	67
例	68
エラー・メッセージ	68
サービス・クラス記述表示 (DSPCOSD)	69
パラメーター	69
サービス・クラス記述 (COSD)	69
出力 (OUTPUT)	69
例	69
エラー・メッセージ	70
CHKPND制約の表示 (DSPCPCST)	71
パラメーター	71
ファイル (FILE)	71
制約名 (CST)	72
出力 (OUTPUT)	72
例	72
エラー・メッセージ	72
CRG情報の表示 (DSPCRGINF)	73
パラメーター	73
クラスター (CLUSTER)	74
クラスター資源グループ (CRG)	74
出力 (OUTPUT)	74
例	74
エラー・メッセージ	74
通信サイド情報の表示 (DSPCSI)	77
パラメーター	77
サイド情報 (CSI)	77
出力 (OUTPUT)	78
例	78
エラー・メッセージ	78
制御装置記述の表示 (DSPCTLD)	81
パラメーター	81
制御装置記述 (CTLD)	81
出力 (OUTPUT)	81
オプション (OPTION)	82
例	82
エラー・メッセージ	82
現行ディレクトリーの表示 (DSPCURDIR)	85
パラメーター	85
出力 (OUTPUT)	85

例	85	ファイル (FILE)	115
エラー・メッセージ	86	フィールド名 (FLD)	116
デバッグ表示 (DSPDBG)	87	出力 (OUTPUT)	116
パラメーター	87	例	116
出力 (OUTPUT)	87	エラー・メッセージ	116
例	88	DLO監査レベルの表示 (DSPDLOAD)	117
エラー・メッセージ	88	パラメーター	117
デバッグ監視の表示 (DSPDBGWCH)	89	文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)	117
パラメーター	89	フォルダー (FLR)	118
例	89	システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	118
エラー・メッセージ	89	出力 (OUTPUT)	118
データベース関係表示 (DSPDBR)	91	オブジェクトのタイプ (TYPE)	119
パラメーター	92	リストのレベル (LEVEL)	119
ファイル (FILE)	92	出力を受け取るファイル (OUTFILE)	119
出力 (OUTPUT)	93	出力メンバー・オプション (OUTMBR)	120
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	94	例	120
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	94	エラー・メッセージ	120
メンバー (MBR)	95	DLO権限の表示 (DSPDLOAUT)	123
レコード様式 (RCDFMT)	95	パラメーター	123
例	95	文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)	123
エラー・メッセージ	96	フォルダー (FLR)	124
DDMファイル表示 (DSPDDMF)	99	出力 (OUTPUT)	124
パラメーター	99	システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	124
ファイル (FILE)	99	例	125
出力 (OUTPUT)	100	エラー・メッセージ	125
例	101	DLO名の表示 (DSPDLONAM)	127
エラー・メッセージ	101	パラメーター	127
装置記述の表示 (DSPDEVD)	103	文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)	127
パラメーター	103	フォルダー (FLR)	128
装置記述 (DEVD)	103	文書識別コード (DOCID)	128
出力 (OUTPUT)	103	LADNタイム・スタンプ (LADNTSP)	129
オプション (OPTION)	103	システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	129
例	104	オブジェクト・クラス (OBJCLS)	129
エラー・メッセージ	104	出力 (OUTPUT)	129
ディレクトリー項目の表示 (DSPDIRE)	107	例	130
パラメーター	107	エラー・メッセージ	130
ユーザー識別コード (USRID)	108	文書表示 (DSPDOC)	131
ユーザー・プロファイル (USER)	108	パラメーター	131
出力 (OUTPUT)	109	文書 (DOC)	131
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	109	フォルダー (FLR)	131
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	110	印刷可能 (ALWPRT)	132
詳細 (DETAIL)	110	例	132
出力ファイル形式 (OUTFILFMT)	111	エラー・メッセージ	132
出力するデータ (OUTDTA)	111	配布リスト表示 (DSPDSTL)	135
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	112	パラメーター	135
例	112	リスト識別コード (LSTID)	135
エラー・メッセージ	113	所有者 (OWNER)	136
DLファイル属性の表示 (DSPDLFA)	115	出力 (OUTPUT)	136
パラメーター	115	出力を受け取るファイル (OUTFILE)	137
		出力メンバー・オプション (OUTMBR)	137
		詳細 (DETAIL)	138

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	138
例	139
エラー・メッセージ	140
配布ログ表示 (DSPDSTLOG)	141
パラメーター	142
ログ出力の期間 (PERIOD)	142
機能タイプ (FNCTYP)	144
項目タイプ (ENTTYP)	144
起点ユーザーID (ORGUSRID)	145
起点システム名 (ORGSYSNAME)	145
ジョブ名 (JOB)	146
ジャーナル・レシーバーの範囲 (RCVRNG)	146
出力 (OUTPUT)	147
例	147
エラー・メッセージ	147
配布サービス表示 (DSPDSTSRV)	149
パラメーター	149
メニュー・オプション (OPTION)	149
出力 (OUTPUT)	150
例	150
エラー・メッセージ	150
データの表示 (DSPDTA)	153
エラー・メッセージ: DSPDTA	153
パラメーター	153
DFUプログラム (DFUPGM)	153
データベース・ファイル (FILE)	154
メンバー (MBR)	154
例	154
エラー・メッセージ	154
データ域表示 (DSPDTAARA)	157
パラメーター	157
データ域 (DTAARA)	157
出力 (OUTPUT)	158
出力形式 (OUTFMT)	158
システム (SYSTEM)	158
例	159
エラー・メッセージ	159
データ・ディクショナリー表示 (DSPDTADCT)	161
パラメーター	161
データ・ディクショナリー (DTADCT)	161
定義 (DFN)	161
定義タイプ (DFNTYPE)	162
出力 (OUTPUT)	162
ファイル情報 (FILEINF)	162
レコード様式情報 (RCDFMTINF)	163
フィールド情報 (FLDINF)	163
作成日 (CRTDATE)	164
例	165
エラー・メッセージ	165

編集記述表示 (DSPEDTD)	167
パラメーター	167
編集記述 (EDTD)	167
出力 (OUTPUT)	167
例	168
エラー・メッセージ	168
EWCバーコード項目の表示 (DSPEWCBCDE)	169
パラメーター	169
バーコード・グループ (BCDGRP)	169
初期設定ソース・メンバー (INZMBR)	169
初期設定ソース・ファイル (INZFILE)	169
例	170
エラー・メッセージ	170
無線CTLメンバー表示 (DSPEWCM)	171
パラメーター	171
初期設定ソース・メンバー (INZMBR)	171
初期設定ソース・ファイル (INZFILE)	171
例	172
エラー・メッセージ	172
EWC PTC項目の表示 (DSPEWCPTCE)	173
パラメーター	173
PTCグループ (PTCGRP)	173
初期設定ソース・メンバー (INZMBR)	173
初期設定ソース・ファイル (INZFILE)	173
例	174
エラー・メッセージ	174
無線回線メンバーの表示 (DSPEWLM)	175
パラメーター	175
初期設定ソース・メンバー (INZMBR)	175
初期設定ソース・ファイル (INZFILE)	175
例	176
エラー・メッセージ	176
満了スケジュールの表示 (DSPEXPSCD)	177
パラメーター	177
出力 (OUTPUT)	177
例	177
エラー・メッセージ	178
ファイル表示 (DSPF)	179
パラメーター	179
ストリーム・ファイル, または (STMF)	179
データベース・ファイル (FILE)	180
ファイル・メンバー (MBR)	180
例	180
エラー・メッセージ	180
機能使用法の表示 (DSPFCNUSG)	183
パラメーター	183
機能ID (FCNID)	183
出力 (OUTPUT)	183

例	184
エラー・メッセージ	184
ファイル記述表示 (DSPFD)	185
パラメーター	185
ファイル (FILE)	186
情報のタイプ (TYPE)	187
出力 (OUTPUT)	188
ファイル属性 (FILEATR)	188
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	189
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	190
システム (SYSTEM)	191
例	191
エラー・メッセージ	191

ファイル・フィールド記述表示 (DSPFFD)	195
パラメーター	196
ファイル (FILE)	196
出力 (OUTPUT)	197
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	198
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	198
システム (SYSTEM)	199
例	199
エラー・メッセージ	199

フォルダー表示 (DSPFLR)	203
パラメーター	203
フォルダー (FLR)	203
オブジェクトのタイプ (TYPE)	204
出力 (OUTPUT)	204
リストのレベル (LEVEL)	204
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	204
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	205
出力ファイル形式 (OUTFILFMT)	205
例	206
エラー・メッセージ	206

フォント資源属性の表示 (DSPFNTRSCA)	207
パラメーター	207
フォント資源 (FNTRSC)	207
出力 (OUTPUT)	208
例	208
エラー・メッセージ	208

フォント・テーブルの表示 (DSPFNNTBL)	209
パラメーター	209
フォント・テーブル (FNNTBL)	209
出力 (OUTPUT)	210
例	211
エラー・メッセージ	211

ハードウェア資源の表示 (DSPHDWRSC)	213
パラメーター	213
タイプ (TYPE)	213
出力 (OUTPUT)	214
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	214
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	215
出力ファイル形式 (OUTFILFMT)	216
回線タイプ (LINETYPE)	216
例	216
エラー・メッセージ	217

階層ファイル・システムの表示 (DSPHFS)	219
パラメーター	219
出力 (OUTPUT)	219
例	219
エラー・メッセージ	220

ヘルプ文書表示 (DSPHLPDOG)	221
パラメーター	221
文書 (DOC)	221
フォルダー (FLR)	221
ヘルプ・テキストのラベル (HLPLBL)	221
例	222
エラー・メッセージ	222

DBCS変換辞書表示 (DSPIGCDCT)	223
パラメーター	223
DBCS変換辞書 (IGCDCT)	223
辞書項目 (ENTRY)	224
出力 (OUTPUT)	224
例	224
エラー・メッセージ	225

IPL属性の表示 (DSPIPLA)	227
パラメーター	227
出力 (OUTPUT)	227
例	227
エラー・メッセージ	227

IPX記述表示 (DSPIPXD)	229
パラメーター	229
IPX記述 (IPXD)	229
出力 (OUTPUT)	229
例	229
エラー・メッセージ	230

ジョブ表示 (DSPJOB)	231
パラメーター	232
ジョブ名 (JOB)	232
出力 (OUTPUT)	232
オプション (OPTION)	233
重複ジョブ・オプション (DUPIJOB OPT)	234
例	234

エラー・メッセージ	234
ジョブ記述表示 (DSPJOBDB)	237
パラメーター	237
ジョブ記述 (JOBDB)	237
出力 (OUTPUT)	238
例	238
エラー・メッセージ	238
ジョブ・ログ表示 (DSPJOBLOG)	239
パラメーター	239
ジョブ名 (JOB)	240
出力 (OUTPUT)	240
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	241
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	241
例	242
エラー・メッセージ	242
ジョブ・テーブルの表示 (DSPJOBTL)	243
パラメーター	243
出力 (OUTPUT)	243
例	243
エラー・メッセージ	243
ジャーナル表示 (DSPJRN)	245
パラメーター	246
ジャーナル (JRN)	248
ジャーナルされた物理ファイル (FILE)	249
オブジェクト (OBJ)	251
オブジェクト (OBJPATH)	253
ファイル識別コード (OBJFID)	254
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	255
名前パターン (PATTERN)	255
ジャーナル・レシーバーの範囲 (RCVRNG)	256
大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)	258
開始日および時刻 (FROMTIME)	258
大きい終了順序番号 (TOENTLRG)	259
終了日および時刻 (TOTIME)	259
ジャーナル項目の数 (NBRENT)	259
ジャーナル・コード (JRNCD)	260
ジャーナル項目タイプ (ENTTYP)	261
ジョブ名 (JOB)	261
プログラム (PGM)	261
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	262
大きいコミット・サイクルID (CCIDLRG)	262
従属項目 (DEPENT)	262
出力形式 (OUTFMT)	263
ジャーナル識別番号 (JRNID)	263
出力 (OUTPUT)	263
隠れた項目の組み込み (INCHIDENT)	264
出力ファイル形式 (OUTFILFMT)	264
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	272
出力を受け取るメンバー (OUTMBR)	272
項目データの長さ (ENTDTALEN)	273
ヌル値標識の長さ (NULLINDLEN)	275
項目の組み込み (INCENT)	277

開始順序番号 (FROMENT)	278
終了順序番号 (TOENT)	278
コミット・サイクル識別コード (CMTCYCID)	278
例	279
エラー・メッセージ	281

ジャーナル・レシーバー属性表示 (DSPJRNRCVA)	285
パラメーター	285
ジャーナル・レシーバー (JRNRCV)	285
出力 (OUTPUT)	286
例	286
エラー・メッセージ	286

JAVAプログラムの表示 (DSPJVAPGM)	289
パラメーター	289
クラス・ファイルまたはJARファイル (CLSF)	289
出力 (OUTPUT)	290
例	290
エラー・メッセージ	290

JVMジョブの表示 (DSPJVMJOB)	291
パラメーター	291
出力 (OUTPUT)	291
例	292
エラー・メッセージ	292

キーボード・マップ表示 (DSPKBDMAP)	293
パラメーター	293
例	293
エラー・メッセージ	293

LAN アダプター・プロファイルの表示 (DSPLANADPP)	295
パラメーター	295
回線記述 (LINE)	295
アダプター (ADPTNAME)	295
アダプターアドレス (ADPTADR)	296
出力 (OUTPUT)	296
例	296
エラー・メッセージ	296

LAN媒体ライブラリーの表示 (DSPLANMLB)	299
パラメーター	299
回線記述 (LIND)	299
出力 (OUTPUT)	299
例	300
エラー・メッセージ	300

LAN状況の表示 (DSPLANSTS)	301
パラメーター	301
回線記述 (LINE)	301
出力 (OUTPUT)	301

例	302	パラメーター	325
エラー・メッセージ	302	ログ (LOG)	325
ライブラリー表示 (DSPLIB)	303	ログ出力の期間 (PERIOD)	326
パラメーター	304	出力 (OUTPUT)	327
ライブラリー (LIB)	304	表示するジョブ (JOB)	328
ASP装置 (ASPDEV)	305	メッセージ識別コード (MSGID)	329
出力 (OUTPUT)	306	例	329
例	306	エラー・メッセージ	329
エラー・メッセージ	306	マウントFS情報の表示 (DSPMFSINF)	331
ライブラリー記述の表示 (DSPLIBD)	309	パラメーター	331
パラメーター	309	オブジェクト (OBJ)	331
ライブラリー (LIB)	309	出力 (OUTPUT)	332
出力 (OUTPUT)	309	例	332
例	310	エラー・メッセージ	332
エラー・メッセージ	310	メニュー属性表示 (DSPMNUA)	333
ライブラリー・リスト表示 (DSPLIBL)	311	パラメーター	333
パラメーター	311	メニュー (MENU)	334
出力 (OUTPUT)	311	出力 (OUTPUT)	334
例	311	例	334
エラー・メッセージ	312	エラー・メッセージ	334
ライセンス・キー情報の表示 (DSPLICKEY)	313	モジュールの表示 (DSPMOD)	337
パラメーター	313	パラメーター	337
プロダクト識別コード (PRDID)	314	モジュール (MODULE)	338
ライセンス条件 (LICTRM)	314	詳細 (DETAIL)	338
機能 (FEATURE)	314	出力 (OUTPUT)	339
システム製造番号 (SERIAL)	314	出力を受け取るファイル (OUTFILE)	339
出力 (OUTPUT)	315	出力メンバー・オプション (OUTMBR)	340
ライセンス・キー・ファイル (LICKEYFILE)	315	例	340
ライセンス・キー・メンバー (LICKEYMBR)	316	エラー・メッセージ	341
例	316	モード記述表示 (DSPMODD)	343
エラー・メッセージ	316	パラメーター	343
回線記述の表示 (DSPLIND)	317	モード記述 (MODD)	343
パラメーター	317	出力 (OUTPUT)	343
回線記述 (LIND)	317	例	343
出力 (OUTPUT)	317	エラー・メッセージ	344
オプション (OPTION)	317	モジュール・ソースの表示 (DSPMODSRC)	345
例	318	パラメーター	345
エラー・メッセージ	319	例	345
オブジェクト・リンクの表示 (DSPLNK)	321	エラー・メッセージ	345
パラメーター	321	モード状況表示 (DSPMODSTS)	347
オブジェクト (OBJ)	322	パラメーター	347
出力 (OUTPUT)	322	装置 (DEV)	347
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	322	モード (MODE)	347
詳細 (DETAIL)	323	出力 (OUTPUT)	348
表示オプション (DSPOPT)	323	例	348
例	323	エラー・メッセージ	348
エラー・メッセージ	324	メッセージ表示 (DSPMSG)	349
ログ表示 (DSPLOG)	325	パラメーター	349

メッセージ待ち行列 (MSGQ)	350
出力 (OUTPUT)	350
メッセージ・タイプ (MSGTYPE)	351
最初に表示するメッセージ (START)	351
重大度コード・フィルター (SEV)	352
援助レベル (ASTLVL)	352
例	353
エラー・メッセージ	353

メッセージ記述表示 (DSPMSGD) 355

パラメーター	355
メッセージ識別コードの範囲 (RANGE)	355
メッセージ・ファイル (MSGF)	356
詳細 (DETAIL)	357
メッセージ・テキストの形式 (FMTTXT)	357
出力 (OUTPUT)	357
例	357
エラー・メッセージ	358

通称の表示 (DSPNCK) 359

パラメーター	359
通称 (NCK)	360
通称のタイプ (TYPE)	360
所有者 (OWNER)	360
出力 (OUTPUT)	361
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	361
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	362
例	362
エラー・メッセージ	363

NDSコンテキストの表示 (DSPNDSCTX) 365

パラメーター	365
出力 (OUTPUT)	365
例	365
エラー・メッセージ	365

ネットワーク属性表示 (DSPNETA) 367

パラメーター	367
出力 (OUTPUT)	367
例	367
エラー・メッセージ	367

ノード・グループの表示 (DSPNODGRP) 369

パラメーター	369
ノード・グループ(NODGRP)	369
出力 (OUTPUT)	370
例	370
エラー・メッセージ	370

NETBIOS記述の表示 (DSPNTBD) 371

パラメーター	371
NETBIOS記述 (NTBD)	371
出力 (OUTPUT)	371
例	371
エラー・メッセージ	372

NETWARE認証項目の表示

(DSPNTWAUTE) 373

パラメーター	373
サーバー・タイプ (SVRTYPE)	373
NDSツリー (NDSTREE)	373
サーバー (SERVER)	373
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	374
出力 (OUTPUT)	374
例	374
エラー・メッセージ	374

NETWARE接続の表示 (DSPNTWCNN) 375

パラメーター	375
サーバー (SERVER)	375
オプション (OPTION)	375
接続番号 (CINNBR)	376
出力 (OUTPUT)	376
例	376
エラー・メッセージ	376

NETWAREボリュームの表示

(DSPNTWVOL) 377

パラメーター	377
ボリューム (VOL)	377
サーバー (SERVER)	377
出力 (OUTPUT)	377
例	378
エラー・メッセージ	378

ネットワーク・インターフェース記述の

表示 (DSPNWID) 379

パラメーター	379
ネットワーク・インターフェース記述 (NWID)	379
出力 (OUTPUT)	379
オプション (OPTION)	380
例	380
エラー・メッセージ	380

NWS属性の表示 (DSPNWSA) 383

パラメーター	383
オプション (OPTION)	383
出力 (OUTPUT)	383
例	384
エラー・メッセージ	384

NWS構成の表示 (DSPNWSCFG) 385

パラメーター	385
ネットワーク・サーバー構成 (NWSCFG)	385
オプション (OPTION)	385
出力 (OUTPUT)	386
例	386
エラー・メッセージ	386

付録. 特記事項 387

商標	388
--------------	-----

使用条件 389

APPN情報表示 (DSPAPPNINF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

APPN情報表示(DSPAPPNINF)コマンドは、問題分析の援助に使用される拡張分散ネットワーク機能(APPN)ネットワーク情報を提供します。ネットワーク・トポロジに関する情報、ローカル・ディレクトリー、またはセッション情報など、表示、印刷、または出力ファイルに保管されるネットワーク情報の1つの基本タイプを指定します。APPN 機能の詳細については、

HTTP://WWW.ISERIES.IBM.COM/INFOCENTERのISERIES INFORMATION CENTERにあるAPPNサポート情報にあります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
INFTYPE	情報のタイプ	<u>*TOPOLOGY</u> , *LCLNODE, *SSN	オプション、位置 1
NODES	ノード	<u>*ALL</u> , *ACTIVE, *INACTIVE	オプション、位置 2
SSNTYPE	セッション・タイプ	<u>*ENDPNT</u> , *INMSSN	オプション、位置 3
JOB	ジョブ名	修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
CTL	制御装置記述	名前, <u>*ALL</u>	オプション
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	<u>*REPLACE</u> , *ADD	

トップ

情報のタイプ (INFTYPE)

与えられた情報のタイプを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***TOPOLOGY**

トポロジー・データベースの内容が表示または印刷されます。ローカルトポロジー・データベースには、すべてのノードのセットとそれらの特性、および各ノードでは、結合リンクの特性と一緒にリンク宛先ノードのセットが含まれています。

***LCLNODE**

ローカル・ディレクトリーの内容が表示または印刷されます。ローカル・ディレクトリーには、ローカル・ノード、すべてのリモート制御点の名前、およびそれらのロケーションが入っています。

***SSN** 中間セッションまたはセッション終点としてローカル・ノードをもつセッションに関する情報が表示または印刷されます。

トップ

ノード (NODES)

要求されたノードのセットを指定します。このパラメーターは、**情報のタイプ**プロンプト (INFTYPEパラメーター) に***TOPOLOGY**が指定された場合にだけ有効です。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** トポロジー・データベースのすべてのノードが表示または印刷されます。

***ACTIVE**

活動状態のノードだけが表示または印刷されます。

***INACTIVE**

非活動状態のノードだけが表示または印刷されます。

トップ

セッション・タイプ (SSNTYPE)

表示されるセッション情報のタイプを指定します。このパラメーターが有効なのは、**情報のタイプ**プロンプト (INFTYPEパラメーター) で***SSN**が指定されている場合だけです。

考えられる値は次の通りです。

***ENDPNT**

ローカル・ノードがセッション終点であるセッションに関する情報が表示または印刷されます。

***INMSSN**

ローカル・ノードを介して経路指定されている中間セッションについての情報が表示または印刷されます。

トップ

ジョブ名 (JOB)

セッション情報が表示または印刷されるジョブの名前を指定します。出力プロンプト (OUTPUTパラメーター) に*が指定され、ジョブ名が指定されなかった場合には、システムの最新の初期プログラム・ロード (IPL) 以降に実行されたAPPNジョブの名のリストが表示されます。リストからジョブ名を選択することができます。出力プロンプト (OUTPUTパラメーター) に*PRINTまたは*OUTFILEが指定され、ジョブ名が指定されなかった場合には、すべてのAPPNジョブのセッション情報が印刷されるか、あるいは指定した出力ファイルに保管されます。

このパラメーターが有効なのは、セッション・タイププロンプト (SSNTYPEパラメーター) で*ENDPNTが指定された場合だけです。

ジョブ名

セッション情報が表示または印刷されるジョブ名を指定します。

[トップ](#)

制御装置記述 (CTL)

中間セッションが要求された制御装置を指定します。このパラメーターは、セッション・タイププロンプト (SSNTYPEパラメーター) に*INMSSNが指定された場合にだけ有効です。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** すべての制御装置の中間セッションが表示または印刷されます。

制御装置記述名

中間セッションが表示または印刷される制御装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*
- 出力は表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合)、あるいはジョブのプール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

[トップ](#)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。このファイルが存在しない場合には、このコマンドが指定したライブラリーにデータベース・ファイルを作成します。

注: 新しいファイルが作成された場合には、システムは情報のタイププロンプト (INFTYPEパラメーター) に指定した値に従って、モデルとして様式名QLZZZZでライブラリーQSYSのファイルQAXXXXXXを使用します。次のテーブルに、そのパラメーターで指定できる値とその値に対応する出力ファイルおよびモデルをリストします。

パラメーター値	作成される出力ファイル	
	出力ファイル	形式
*TOPOLOGY	QALSTDB	QLSTDB
*LCLNODE	QALSDIR	QLSDIR
*SSN -終点セッション	QALSEND	QLEND
*SSN -中間セッション	QALSINM	QLSINM

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

出力メンバー・オプションの可能な値は次の通りです。

***FIRST**

要求されたAPPN情報は最初のメンバーに記憶されます。OUTMBR(*FIRST)が指定され、メンバーが存在していない場合には、システムがOUTFILEパラメーターに指定されたファイルの名前でメンバーを作成します。

メンバー名

要求されたAPPN情報を保管するために使用されるメンバーの名前を指定してください。メンバー名が指定され、そのメンバーが存在していない場合には、システムがそれを作成します。有効な値の範囲は1 - 10文字です。

任意指定の値は次の通りです。

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

[トップ](#)

例

例1: リストの印刷

```
DSPAPPNINF  INFTYPE(*TOPOLOGY)  NODES(*ALL)  OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、APPNネットワークに現在存在しているすべてのノード、各ノードに関連したリンク宛先ノードのセット、および各リンクのリンク特性のリストを印刷します。

例2: PCIDのリストの表示

```
DSPAPPNINF  INFTYPE(*SSN)  SSNTYPE(*ENDPNT)  
            JOB(APPNJOB/USERPROF/000001)  OUTPUT(*)
```

このコマンドは、ジョブ名APPNJOB/USERPROF/000001に関連したプロシージャ相互関連セッション識別コード(PCID)のリストを表示します。このリストから、ユーザーは、セッションについての追加情報を表示するオプションを指定できます。

例3: ディレクトリーの内容の保管

```
DSPAPPNINF  INFTYPE(*LCLNODE)  OUTPUT(*OUTFILE)  
            OUTFILE(USERLIB/APPNFILE)  OUTMBR(*FIRST, *REPLACE)
```

このコマンドは、ローカル・ディレクトリーの内容をUSERLIB/APPNFILEという名前の出力ファイルの最初のメンバーに保管します。このメンバーに情報がすでに存在している場合には、新しい情報が既存の情報に置き換わります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

ASP状況の表示 (DSPASPSTS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ASP状況の表示 (DSPASPSTS)コマンドは、ASP装置をオンラインまたはオフラインに構成変更しているとき、そのASP装置の構成変更の進行状況を表示します。

制約事項:

- ASP装置記述に対する使用(*USE)権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ASPDEV	ASP装置	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

ASP装置 (ASPDEV)

構成変更の進行状況を表示する補助記憶域プール(ASP)装置の名前を指定してください。ASPグループ全体を処理するときは、1次ASP装置の名前を指定してください。2次ASP装置の名前を指定すると、その2次ASP装置がすでにオンラインであるASPグループに加わるために構成変更されているときのみ、詳細な構成変更状況が提供されます。

これは必須パラメーターです。

名前 構成変更状況を表示したいASPの名前を指定してください。ASPグループを構成変更しているときは、そのASPグループ内の1次ASPの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力と一緒に印刷するかを指定します。

* 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

例

例1: ASP装置の構成変更状況を表示する

```
DSPASPSTS ASPDEV(WAREHOUSE)
```

このコマンドは、WAREHOUSEという名前のASP装置の構成変更の進行状況を表示します。

例2: ASP装置の構成変更状況を印刷する

```
DSPASPSTS ASPDEV(WAREHOUSE) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、WAREHOUSEという名前のASP装置の構成変更の進行状況を印刷します。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

監査ジャーナル項目の表示 (DSPAUDJRNE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

監査ジャーナル項目表示(DSPAUDJRNE)コマンドによって、機密保護ジャーナル監査報告書を生成することができます。この報告書は、コマンドに指定された監査項目タイプおよびユーザー・プロファイルを基本にしたものです。報告書は特定の時間枠内に制限することができ、切り離されたジャーナル・レシーバーを検索することができます。報告書は活動表示装置またはスプール・ファイルに送信されます。

報告書を実行できるその監査項目は、生成できる監査項目のサブセットです。可能なすべての監査項目については、「機密保護の手引き」のマニュアルの第9章を参照してください。

制約事項:このコマンドを実行するためには、監査(*AUDIT)特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ENTTYP	ジャーナル項目タイプ	値 (最大 30 回の繰り返し): AE , CA, CD, CO, CP, CU, CV, DO, EV, GR, IP, JS, ND, NE, OM, OR, OW, PA, PG, PO, PS, PW, SF, SO, SV, VO, YC, YR, ZC, ZR	オプションナル, 位置 1
USRPRF	ユーザー・プロファイル	名前, *ALL	オプションナル, 位置 2
JRNRCV	検索されたジャーナル・レシーバー	単一値: *CURRENT , *CURCHAIN その他の値: 要素リスト	オプションナル
	要素 1: 開始ジャーナル・レシーバー	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 開始ジャーナル・レシーバー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
	要素 2: 終了ジャーナル・レシーバー	単一値: *CURRENT その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 終了ジャーナル・レシーバー	名前	
FROMTIME	開始日および時刻	単一値: *FIRST その他の値: 要素リスト	オプションナル
	要素 1: 開始日付	日付	
	要素 2: 開始時刻	時刻	
TOTIME	終了日および時刻	単一値: *LAST その他の値: 要素リスト	オプションナル
	要素 1: 終了日付	日付	
	要素 2: 終了時刻	時刻	
OUTPUT	出力	*PRINT , *	オプションナル

ジャーナル項目タイプ (ENTTYP)

報告書に組み込むジャーナル項目タイプ。

このパラメーターには30個の値を指定することができます。

AF	権限障害項目
CA	権限の変更項目
CD	コマンド・ストリング項目
CO	オブジェクトの作成項目
CP	ユーザー・プロファイルの変更項目
CU	クラスター管理操作
CV	接続検査
DO	オブジェクトの削除項目
EV	環境変数操作
GR	総称レコード
IP	プロセス間通信
JS	ジョブに対する処置項目
ND	ディレクトリー検索フィルター違反
NE	末端地点フィルター違反
OM	オブジェクト移動または名前変更
OR	オブジェクト復元項目
OW	オブジェクト所有権変更項目
PG	オブジェクトの基本グループの変更
PO	印刷出力項目
PS	プロファイル・スワップ
PW	正しくないパスワード項目
SF	スプール・ファイルでの処置項目
SO	サーバー機密保護ユーザー情報処置
SV	システム値変更項目
VO	妥当性検査リスト処置
YC	DLOオブジェクト変更項目
YR	DLOオブジェクト読み取り項目
ZC	オブジェクト変更項目
ZR	オブジェクト読み取り項目

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

ユーザー・プロファイルの処置のために作成されたジャーナル項目が報告書に入れられます。

***ALL** 報告書には、すべてのユーザー・プロファイルの項目が入れられます。

名前 ジャーナル項目を報告書に組み込むユーザー・プロファイルの名前を指定します。

トップ

検索されたジャーナル・レシーバー (JRNRCV)

ジャーナル項目が検索される開始（最初の）および終了（最後の）ジャーナル・レシーバーの名前。

注: この範囲内のレシーバーの最大数(256)を超えた場合には、エラーが起こって、ジャーナル項目は変換されません。

単一値

***CURRENT**

現在接続されているジャーナル・レシーバーのジャーナル項目が検索されます。

***CURCHAIN**

現在接続されているジャーナル・レシーバーの連鎖内のジャーナル項目が検索されます。この連鎖内に中断がある場合には、レシーバー範囲はその連鎖中の最新の中断から、ジャーナル項目の変換を開始した時に接続されたレシーバーまでとなります。

要素1: 開始ジャーナル・レシーバー

修飾子1: 開始ジャーナル・レシーバー

名前 項目が検索される最初のジャーナル・レシーバーの名前。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ジャーナル・レシーバーを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

ジャーナル・レシーバーを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーの名前を指定してください。

要素2: 終了ジャーナル・レシーバー

単一値

***CURRENT**

現在接続されているジャーナル・レシーバーが終了ジャーナル・レシーバーとして使用されます。

修飾子1: 終了ジャーナル・レシーバー

名前 項目が検索される最後のジャーナル・レシーバーの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ジャーナル・レシーバーを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

ジャーナル・レシーバーを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

開始日および時刻 (FROMTIME)

検索する最初のジャーナル項目の日付および時刻。

単一値

***FIRST**

検索がジャーナル・レシーバーの最初のレコードで開始されることを指定します。

要素1: 開始日付

日付 開始日。指定された開始日および時刻以降に発生する最初のジャーナル項目の開始日および時刻が、検索される項目の範囲の開始点になります。

要素2: 開始時刻

時刻 開始時刻。指定された開始日および時刻以降に発生する最初のジャーナル項目の開始日および時刻が、検索される項目の範囲の開始点になります。

時刻は、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4桁または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、HH =時、MM =分、SS =秒です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ジョブで指定した時刻区切り記号を時、分、および秒の区切りに使用して、5桁または8桁のストリングを指定します。このコマンドをコマンド行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

トップ

終了日および時刻 (TOTIME)

検索する最後のジャーナル項目の作成日および時刻。

単一値

*LAST

検索がジャーナル・レシーバーの最後のレコードで終了することを指定します。

要素1: 終了日付

日付 終了日。指定された終了日の指定された終了時刻以前に発生する最初のジャーナル項目の終了日および時刻が、検索される項目の範囲の終了点になります。

要素2: 終了時刻

時刻 終了時刻。指定された終了日の指定された終了時刻以前に発生する最初のジャーナル項目の終了日および時刻が、検索される項目の範囲の終了点になります。

時刻は、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4桁または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、HH =時、MM =分、SS =秒です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ジョブで指定した時刻区切り記号を時、分、および秒の区切りに使用して、5桁または8桁のストリングを指定します。このコマンドをコマンド行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

- * 出力は表示されるか（対話式ジョブで要求された場合）、あるいはジョブのプール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

[トップ](#)

例

```
DSPAUDJRNE  ENTYP(AF)  OUTPUT(*)
```

このコマンドは、現行ジャーナル・レシーバーのすべての「権限障害」監査レコードを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF304

ユーザーに必要な特殊権限がない。

[トップ](#)

権限の表示 (DSPAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

権限表示(DSPAUT)コマンドは、そのオブジェクトの認可されたユーザーのリスト、およびそのオブジェクトに対するユーザーの権限を表示します。また、オブジェクトが権限リストによって保護されている場合には、権限リストの名前も表示されます。

指定されたオブジェクトについて、次が表示されます。

- オブジェクトのパス名
- オブジェクトの所有者の名前
- オブジェクトの1次グループの名前
- オブジェクトを保護する権限リストの名前
- オブジェクトの使用が認可されているすべてのユーザーのリスト
- オブジェクトに対して各ユーザーがもっている権限

オブジェクトに対応した所有者名がない場合には、そのオブジェクトに対する権限は表示されません。

このコマンドを使用するのに必要な権限については、ISERIES機密保護解説書(SD88-5027)の付録Dを参照してください。

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iserics/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	パス名	必須, 定位置 1
SYMLNK	シンボリック・リンク	*NO, *YES	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

トップ

オブジェクト (OBJ)

認可ユーザーおよびその権限を表示するオブジェクトを指定します。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

これは必須パラメーターです。

パス名 特定権限が表示されるオブジェクトのパス名を指定します。

オブジェクト・パス名は、単純名かあるいはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

トップ

シンボリック・リンク (SYMLNK)

パス名の最後の構成要素がシンボリック・リンクの場合には、シンボリック・リンクまたはそのシンボリック・リンクで指示されるオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

***NO** シンボリック・リンク・オブジェクトは表示されません。そのシンボリック・リンクによって指示されるオブジェクトは表示されます。

***YES** オブジェクトがシンボリック・リンクの場合には、シンボリック・リンクが表示されます。そのシンボリック・リンクによって指示されるオブジェクトは表示されません。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスプール出力で印刷するかを指定します。

***** 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスプール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

トップ

例

例1:ユーザーおよび権限の表示

```
DSPAUT OBJ('/QSYS.LIB/ARLIB.LIB/PROG1.PGM')
```

このコマンドは、このコマンドを入力したユーザーに対してPROG1という名前のオブジェクトに対する許可ユーザーおよびその権限を表示します（そのユーザーにそのユーザーに対するオブジェクト管理権がある場合）。PROG1はARLIBという名前のライブラリー内にあるプログラムです。システムは、出力リストを表

示する装置には*を想定します。コマンドがバッチ・サブシステムに入力された場合は、出力はジョブの省略時出力待ち行列に入れられます。コマンドが対話式サブシステムに入力された場合は、出力はこのコマンドが入力された装置に表示されます。

例2:ユーザーのリストの印刷

```
DSPAUT OBJ('/MYDIR/MYOBJECT') OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドにより、MYDIRディレクトリー内のMYOBJECTの許可ユーザーのリストが印刷されることとなります。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPDA080

ユーザー・プロファイル名が長すぎる。

CPE3101

回復可能でない入出力エラーが起こった。

CPE3408

引き数に使用されたアドレスが正しくない。

CPE3418

考えられるAPAR条件またはハードウェア障害。

CPE3474

不明なシステム状態。

CPFA0AA

スペースを獲得しようとしている時にエラーが起こった。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0AD

機能がファイル・システムによってサポートされていない。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A2

この操作に渡された情報が正しくない。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A4

処理するにはオープンされているファイルが多すぎる。

CPFA0A5

オープンされているファイルが多すぎる。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

CPFA0C0

バッファオーバーフローが起こった。

CPFA0C1

CCSID &1は正しくない。

CPFA08B

パス名を*で始めることはできない。

CPFA08C

パス名ディレクトリーにはパターンを使用できない。

CPFA08E

複数の名前がパターンと一致した。

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA086

パス名で対応する引用符が見つからなかった。

CPFA087

パス名にヌル文字が入っている。

CPFA088

パス名パターンが正しくない。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA09E

オブジェクトが使用中。オブジェクトは&1です。

CPFA09F

オブジェクトに損傷がある。オブジェクトは&1です。

CPFA091

ユーザー名ではパターンは使用できない。

CPFA092

パス名が変換されなかった。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA094

パス名が指定されていない。

CPF1F05

ディレクトリー処理が正しくない。

CPF1F41

パラメーター・リストのアドレス指定中に重大エラーが起こった。

CPF1F4A

ディレクトリー項目の数を示す値が正しくない。

CPF1F53

データ・バッファーの長さを示す値が正しくない。

CPF2203

ユーザー・プロファイル&1が正しくない。

CPF22F0

処理時に予期しないエラーが起こりました。

CPF2225

内部システム・オブジェクトを割り振ることができない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

[トップ](#)

権限ホルダー表示 (DSPAUTHLR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

権限ホルダー表示(DSPAUTHLR)コマンドは、権限ホルダーのリストを表示します。このリストには、権限ホルダー保護、オブジェクトがあるライブラリー名、オブジェクト・タイプ、オブジェクトの所有者、およびオブジェクトの1次グループが示されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション、位置 1
OUTFILE	出力を受け取るファイル	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション、位置 2
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

注: 新しいファイルが作成される場合には、システム・ライブラリーQSYS中の様式名QSYDSHLRをもつシステム・ファイルQADSHLRがモデルとして使用されます。

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。そのメンバーがすでに存在している場合には、既存のメンバーの終わりに新しいレコードを追加するか、あるいはそのメンバーを消去して新しいメンバーを追加するオプションがあります。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

例

DSPAUTHLR OUTPUT(*PRINT)

このコマンドは、権限保有者リストの画面を印刷装置に送ります。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

トップ

権限リスト表示 (DSPAUTL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

権限リスト表示(DSPAUTL)コマンドは、権限リストを構成するユーザー（およびその権限のレベル）のリストを表示します。

権限リストが最初に表示される時に、表示される特定権限は、ユーザー・プロファイルのUSROPTパラメーターに指定された詳細説明のレベルによって決まります。

権限リストを表示するためにDSPAUTLコマンドが使用される場合には、権限リストの名前、権限リストを表示装置で表示する必要があるかまたは印刷装置に送る必要があるか、あるいは（オプションで）出力をOUTFILEに送る必要があるかどうかは、ユーザーによって指定されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
AUTL	権限リスト	修飾子リスト	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 権限リスト	名前	
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE _	オプション, 定位置 2
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

[トップ](#)

権限リスト (AUTL)

表示する権限リストを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 権限リストの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのプール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

注: 新しいファイルが作成される場合には、システム・ライブラリー(QSYS)中の様式名QSYDSAUTをもつシステム・ファイルQAOBJAUTがモデルとして使用されます。

トップ

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。そのメンバーがすでに存在している場合には、既存のメンバーの終わりに新しいレコードを追加するか、あるいはそのメンバーを消去して新しいメンバーを追加するオプションがあります。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

トップ

例

```
DSPAUTL  AUTL(DEPT48X)  OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、権限リストの画面を印刷装置に送ります。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE メッセージ**

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF2208

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1が見つからなかった。

CPF2209

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2211

&3のオブジェクト&1タイプ*&2を割り振ることができない。

CPF2216

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF9843

ライブラリー&3のオブジェクト&1タイプ&2をアクセスすることができない。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

権限リストDLO表示 (DSPAUTLDLO)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

権限リスト文書ライブラリー・オブジェクト表示(DSPAUTLDLO)コマンドにより、文書およびフォルダーのリストを表示できます。そのセキュリティは、**権限リスト (AUTL)**パラメーターに指定される権限リストによって指定されます。

制約事項:

- 排除(*EXCLUDE)以外の権限でリストが表示されている場合、またはリストが表示されていないで、共通権限が*EXCLUDE以外のものである場合には、文書およびフォルダーを表示する権限が与えられます。
- 専用認可があるために文書またはフォルダーに対して権限が認可されていない場合には、テキスト・フィールドでオブジェクトに非認可のマークが付けられます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
AUTL	権限リスト	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

権限リスト (AUTL)

表示する文書およびフォルダーのリストをもつ権限リストの名前を指定します。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
出力は、対話式ジョブによって要求された場合には、要求元のワークステーションに表示されません。これが対話式ジョブでない場合には、出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

例

```
DSPAUTLDLO  AUTL(PAYROLL)  OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、PAYROLLとい名前の権限リストの画面出力を印刷装置に送ります。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF22AF

権限リスト&1は認可されていない。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF2289

権限リスト&1を割り振ることができない。

CPF9012

&1の文書交換セッションの開始が正常に行なわれなかった。

CPF9032

文書交換セッションが開始されなかった。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

トップ

権限リスト・オブジェクト表示 (DSPAUTLOBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

権限リスト・オブジェクト表示(DSPAUTOBJ)コマンドは、**権限リスト (AUTL)**パラメーターに指定された権限リストによって保護されているオブジェクトのリストを表示します。ユーザーが*EXCLUDE以外の権限のあるリストに載っているか、あるいはリストに載っていないが共通認可が*EXCLUDE以外である場合には、そのユーザーはそのオブジェクトを表示する権限を認可されます。ユーザーが専用認可のためにオブジェクトに認可されていない場合には、そのオブジェクトはテキスト・フィールドで*NOT AUTHORIZEDとマーク付けされます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
AUTL	権限リスト	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション, 定位置 2
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

[トップ](#)

権限リスト (AUTL)

オブジェクトのリストを表示する権限リストを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 権限リストの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのプール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

注: 新しいファイルが作成される場合には、システム・ライブラリーQSYS中の様式名QSYDALOをもつシステム・ファイルQADALOがモデルとして使用されます。

トップ

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。そのメンバーがすでに存在している場合には、既存のメンバーの終わりに新しいレコードを追加するか、あるいはそのメンバーを消去して新しいメンバーを追加するオプションがあります。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

トップ

例

```
DSPAUTOBJ  AUTL(PAYROLL)  OUTPUT(*OUTFILE)
             OUTFILE(*LIBL/PAYROLL)  OUTMBR(DARL *REPLACE)
```

このコマンドは、出力をデータベース・ファイルPAYROLLのメンバー名DARLに入れます。メンバーDARLがすでに存在している場合は、システムがそれを消去して、新規レコードを追加します。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE メッセージ**

CPF22AF

権限リスト&1は認可されていない。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF2289

権限リスト&1を割り振ることができない。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

トップ

認可ユーザー表示 (DSPAUTUSR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

認可ユーザー表示(DSPAUTUSR)コマンドは、アルファベット順に認可されたシステム・ユーザーの名前を表示または印刷します。次の情報が各ユーザーに指定されています。すなわち、それらのユーザーがメンバーであるグループ・プロファイル、最も新しいパスワード変更日付、ユーザー・プロファイルのパスワードの有無、パスワード・レベル0または1のパスワードがユーザーにあるかどうか、パスワード・レベル2または3のパスワードがユーザーにあるかどうか、およびISERIES 400 SUPPORT FOR WINDOWS NETWORK NEIGHBORHOOD (ISERIES 400 NETSERVER)で使用するパスワードがユーザーにあるか、およびローカル・パスワード管理値などです。

注: このコマンドが表示するユーザー・プロファイル情報を検索している間は、別のジョブが（たとえば、ユーザー・プロファイル変更(CHGUSRPRF)コマンドによって）ユーザー・プロファイルを変更することはできません。

制約事項:

- システム・ユーザーのリストには、このコマンドのユーザーが少なくとも読み取り(*READ)権限を持っているユーザー・プロファイルの名前だけが含まれています。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SEQ	順序	*USRPRF, *GRPPRF	オプション、位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション、位置 2

[トップ](#)

順序 (SEQ)

システム・ユーザーのリストをユーザー・プロファイル名またはグループ・プロファイル名のアルファベット順にするかを指定します。

*USRPRF

リストはユーザープロファイル名のアルファベット順になります。

*GRPPRF

リストはグループ・プロファイル名のアルファベット順になります。各グループのメンバーはユーザー・プロファイル名のアルファベット順にリストされます。

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

- * 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

例

例1:許可ユーザーおよびグループ・プロファイル名の表示

```
DSPAUTUSR
```

このコマンドは、許可ユーザーおよびそのグループ・プロファイル名のリストを表示します。リストはユーザープロファイル名のアルファベット順になります。OUTPUT(*)も想定されます。コマンドがワークステーションとして投入されたか、あるいはバッチ入力ストリームの一部として投入されたかに応じて、リストは画面に表示されるか、印刷されます。

例2:出力の印刷

```
DSPAUTUSR SEQ(*GRPPRF) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドによって、許可システム・ユーザー・プロファイル名およびそのグループ・プロファイル名が印刷されることとなります。出力はグループ・プロファイル名のアルファベット順に印刷されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2225

内部システム・オブジェクトを割り振ることができない。

CPF2237

ユーザー・リストの表示は認可されていない。

トップ

バックアップ状況の表示 (DSPBCKSTS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

バックアップ状況表示(DSPBCKSTS)コマンドにより、ユーザーはバックアップに使用されたテープ・セットおよび各テープ・セットに保管されたものに関する情報を表示することができます。バックアップ・オプションを使用して実行されたバックアップに関する情報のみが表示されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション、位置 1

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力が表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

DSPBCKSTS OUTPUT(*PRINT)

このコマンドは、バックアップ状況を印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF1E6C

バックアップ・オプションは使用中である。

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

CPF7D41

オーダー援助要求のロギング時にエラーが起こった。

CPF7D42

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

バックアップ・オプション表示 (DSPBCKUP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

バックアップ・オプション表示(DSPBCKUP)コマンドにより、ユーザーは事前定義バックアップの1つにあるオプションを表示することができます。バックアップの詳細は、バックアップおよび回復の手引き (SD88-5008)にあります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
BCKUPOPT	バックアップ・オプション	*DAILY, *WEEKLY, *MONTHLY	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2

トップ

バックアップ・オプション (BCKUPOPT)

表示するバックアップ・オプションを指定します。

これは必須パラメーターです。

*DAILY

日次バックアップ・オプションが表示されます。

*WEEKLY

週次バックアップ・オプションが表示されます。

*MONTHLY

月次バックアップ・オプションが表示されます。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力が表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合)、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

例

例1:バックアップ・オプションの表示

```
DSPBCKUP    BCKUPOPT(*DAILY)
```

このコマンドは、日次バックアップ・オプションを表示します。

例2:バックアップ・オプションの印刷

```
DSPBCKUP    BCKUPOPT(*MONTHLY)  OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、月次バックアップ・オプションを印刷します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF1E6C

バックアップ・オプションは使用中である。

CPF1E67

バックアップ・オプションおよびライブラリー・バックアップ・リストに損傷がある。

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

CPF7D41

オーダー援助要求のロギング時にエラーが起こった。

CPF7D42

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

バックアップ・リスト表示 (DSPBCKUPL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

バックアップ・リスト表示(DSPBCKUPL)コマンドにより、ユーザーはバックアップするライブラリーおよびフォルダーを表示することができます。バックアップの詳細は、バックアップおよび回復の手引き (SD88-5008)にあります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
BCKUPL	バックアップ・リスト	*LIB, *FLR	オプション、位置 1
OUTPUT	出力	*, *_PRINT	オプション、位置 2

[トップ](#)

バックアップ・リスト (BCKUPL)

表示するバックアップ・リストを指定します。

***LIB** ライブラリー・バックアップ・リストが表示されます。

***FLR** フォルダー・バックアップ・リストが表示されます。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

バックアップ・リストが表示されるか印刷されるかを指定します。

*
_ 出力が表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合) , あるいはジョブのスプール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

例1:ライブラリー・バックアップ・リストの表示

```
DSPBCKUPL BCKUPL(*LIB)
```

このコマンドは、ライブラリー・バックアップ・リストを表示します。

例2:フォルダー・バックアップ・リストの印刷

```
DSPBCKUPL BCKUPL(*FLR) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、フォルダー・バックアップ・リストを印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF1EEA

ライブラリー・バックアップ・リストが認可されていない。

CPF1EEB

フォルダー・バックアップ・リストが認可されていない。

CPF1E6B

フォルダー・バックアップ・リストは使用中である。

CPF1E6D

フォルダー・バックアップ・リストに損傷があったので、新しいリストが作成された。

CPF1E67

バックアップ・オプションおよびライブラリー・バックアップ・リストに損傷がある。

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

CPF7D41

オーダー援助要求のロギング時にエラーが起こった。

CPF7D42

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

停止点表示 (DSPBKP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

停止点表示(DSPBKP)コマンドは、デバッグ・モードにある指定されたプログラム中でセットされているすべての停止点を表示します。停止点、および各停止点に関連したプログラム変数の名前が表示されます。

制約事項:

- このコマンドを使用できるのは、デバッグ・モードの時だけです。デバッグ・モードを開始するためには、デバッグ開始(STRDBG)コマンドを参照してください。
- このコマンドを使用して、バインド済みプログラムの停止点を表示することはできません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション、位置 1
PGM	プログラム	単一値: *DFTPGM, *ALL その他の値 (最大 20 回の繰り返し): 名前	オプション

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合)、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

プログラム (PGM)

デバッグ・モードのどのプログラムについて、停止点位置および関連のプログラム変数を表示するかを指定します。

単一値

***DFTPGM**

省略時のプログラムについてのみ、停止点位置が表示されます。

***ALL** 現在デバッグ・モードにあるすべてのプログラムについて、停止点位置が表示されます。

その他の値（最大20個指定可能）

名前 停止点の位置が表示されるプログラムの名前を指定してください。指定するプログラムは、すでにデバッグ・モードになっていなければなりません。

[トップ](#)

例

DSPBKP

プログラムMYPROGが対話式デバッグ・セッション中の省略時のプログラムであるとする、このコマンドは、現在MYPROGで設定されているすべての停止点位置を表示します。各停止点に関連したプログラム変数の名前も表示されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE メッセージ**

CPF1999

コマンドでエラーが起こった。

[トップ](#)

バインド・ディレクトリーの表示 (DSPBNDDIR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

バインド・ディレクトリーの表示(DSPBNDDIR)コマンドは、バインド・ディレクトリーの内容を表示します。

制約事項:

- このバインド・ディレクトリーが入っているライブラリーに対して使用(*USE)権限が必要です。
- バインド・ディレクトリーに対するオブジェクト操作(*OBJOPR)および読み取り(*READ)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
BNDDIR	ディレクトリーのバインド	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ディレクトリーのバインド	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL	
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション, 定位置 2
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

トップ

ディレクトリーのバインド (BNDDIR)

表示されるバインド・ディレクトリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ディレクトリーのバインド

名前 表示されるバインド・ディレクトリーの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*USRLIBL

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

* 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのプール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、OUTFILEパラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

このコマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。指定されたファイルが存在していない場合には、このコマンドは指定したライブラリーの中にデータベース・ファイルを作成します。このファイルの一般ユーザー権限は、ファイルを作成するライブラリーに指定した作成権限と同じです。出力ファイルのレコード様式は、弊社提供のデータベース・ファイルQABNDBNDおよびレコード様式QBNDSPBDで使用されるものと同じです。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 画面の出力を受け取るデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*USRLIBL

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

画面の出力の送信先のデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。このメンバーがすでに存在していて、*REPLACEが指定されている場合には、システムはこれを消去して、新しいレコードを追加します。このメンバーが存在しないで、メンバー名が指定されない場合には、システムは出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前でメンバーを作成します。このメンバー名は指定されているが、そのメンバーが存在しない場合には、システムがこれを作成します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

*FIRST

ファイル内の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、ファイル・メンバーが存在していない場合には、システムがOUTFILEパラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。このメンバーが存在していない場合には、システムがそれを作成します。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

*REPLACE

システムは既存のメンバーを消去して新しいレコードを追加します。

*ADD システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

トップ

例

DSPBNDDIR BNDDIR(STORE)

このコマンドは、STOREという名前のバインド・ディレクトリーを表示します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF5D01

ライブラリー&2のバインド・ディレクトリー&1は使用不能である。

CPF980F

ライブラリー&2にバインド・ディレクトリー&1が見つからない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

[トップ](#)

コード化フォントの表示 (DSPCDEFNT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

コード化フォントの表示(DSPCDEFNT)コマンドは、指定されたライブラリーからコード化フォントを表示します。フォント文字セット(FCS)とコード・ページの対が、印刷装置に常駐としてマークされるか、あるいはシステムによってダウンロードされる必要があるかどうかの指示と一緒に表示されます。

フォント文字セット (FNTCHRSET)パラメーターによって、中に特定のフォント文字セットが入っているすべてのコード化フォントを見つけることができます。このパラメーターは、FCSが変更されてFCSがどのコード化フォントを参照しているかわからない時に指定します。この情報を表示するためには、CDEFNT(*FNTCHRSET)およびFNTCHRSET (フォント文字セット) を指定する必要があります。

3130印刷装置に常駐としてフォント文字セットとコード・ページにマークを付けることについては、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

制約事項

- このコマンドを使用するためには、印刷サービス機能(PSF)フィーチャーが必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CDEFNT	コード化フォント	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: コード化フォント	名前, *FNTCHRSET	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR, *DBCSFNTLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション
FNTCHRSET	フォント文字セット	名前	オプション

トップ

コード化フォント (CDEFNT)

表示されるコード化フォントを指定します。

修飾子1: コード化フォント

*FNTCHRSET

フォント文字セット (FNTCHRSET)パラメーターによって指定されたフォント文字セットが入っているすべてのコード化フォントが表示されます。

名前 表示するコード化フォントの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーを検索します。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーだけを検索します。ジョブの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合には、QGPLが使用されます。

*USRLIBL

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にリストされたライブラリーだけを検索します。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーを検索します。

***ALL** QSYSを含むシステム上のすべてのライブラリーを検索します。

*DBCSENTLIB

2バイト文字セット(DBCS)のフォント・ライブラリーQFNT61, QFNT62, QFNT63, QFNT64,およびQFNT65を検索します。

名前 指定したライブラリーを検索します。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は表示（対話式ジョブで要求された場合）またはジョブのスパール出力で印刷（バッチ・ジョブで要求された場合）されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

フォント文字セット (FNTCHRSET)

コード化フォント・オブジェクトで検索するフォント文字セットを指定します。指定したフォント文字セットが入っているすべてのコード化フォントが表示または印刷されます。コード化フォント (CDEFNT)パラメーターに*FNTCHRSETを指定した場合には、このパラメーターの値を指定しなければなりません。

名前 検索するフォント文字セットの名前を指定します。

トップ

例

例1:コード化フォントの表示

```
DSPCDEFNT CDEFNT(QFNT61/X0G16B)
```


このコマンドは、ライブラリーQFNT61中のコード化フォントX0G16Bを表示します。この表示には、コード化フォント内のフォント文字セットとコード・ページの対、およびこれらが常駐としてマーク付けされているかどうかが表示されます。

例2:フォント文字セットを含むコード化フォントの表示

```
DSPCDEFNT CDEFNT(*ALL/*FNTCHRSET) FNTCHRSET(C0G16F60)
```

このコマンドは、フォント文字セットC0G16F60が入っているすべてのコード化フォントを表示（すべてのライブラリーを検索）します。これはCPU集中検索となる場合があるので、バッチ・モードで実行することをお勧めします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

構成リスト表示 (DSPCFGL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

構成リスト表示(DSPCFGL)コマンドにより、構成リストが表示されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CFGL	構成リスト	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

構成リスト (CFGL)

表示される構成リストの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

DSPCFGL CFGL(CONFIG01)

このコマンドは、CONFIG01という名前の構成リストを表示します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF260F

構成リスト&1は見つからなかった。

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF2663

構成リスト&1は前に削除されている。

クラス表示 (DSPCLS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラス表示 (DSPCLS)コマンドは、クラスの属性を表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLS	クラス	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: クラス	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

クラス (CLS)

属性が表示されるクラスの名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: クラス

名前 クラスの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 クラスが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

例

```
DSPCLS CLS(CLASS1) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、クラスCLASS1の属性を印刷のためにジョブの出力スパールリング待ち行列に送ります。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1029

ライブラリー&1に対する権限がない。

CPF1039

クラス・ライブラリー&1が見つからない。

CPF1065

ライブラリー&2にクラス&1が見つからない。

CPF1067

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF1068

ライブラリー&2のクラス&1を割り振ることができない。

CPF1098

ライブラリー&2のクラス&1に対する権限がない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

クラスター情報の表示 (DSPCLUINF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラスター情報表示(DSPCLUINF)コマンドは、クラスターに関する情報を表示または印刷するために使用されます。これはクラスター内のノードから起動されなければなりません。状況が「非活動状態」または「障害」になっているノードでこのコマンドを呼び出す場合は、表示または印刷される情報は最新でない場合があります。この場合は、表示または印刷される情報は、そのノードが最後に活動状態であったときのクラスターの状態を反映することになります。このコマンドは、クラスター・メンバーシップ・リストを記述している基本情報を表示または印刷するか、あるいはクラスターに関する構成情報を完了するかのいずれかに使用することができます。このコマンドは、クラスター資源グループ出口プログラムから呼び出すことができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLUSTER	クラスター	名前, * _	オプション、位置 1
DETAIL	詳細	*BASIC, *FULL	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション

[トップ](#)

クラスター (CLUSTER)

情報を表示または印刷する対象のクラスターを指定します。

* このシステムで現在定義されているクラスターの情報を表示または印刷することを指示します。

名前 クラスターの名前を指定してください。

[トップ](#)

詳細 (DETAIL)

表示または印刷する情報のタイプを指定します。

*BASIC

クラスター内の全ノードに関する基本情報を表示することを指示します。

*FULL

クラスターの完全な構成情報を表示することを指示します。

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力が要求元のワークステーションに表示されるか、あるいはジョブのプール出力で印刷されるかを指定します。このパラメーターの詳細は、共通に使用されるパラメーターに記載されています。

- * 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。コマンドがバッチ・ジョブの一部として実行される場合には、出力はジョブのプール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

例

```
DSPCLUINF CLUSTER(MYCLUSTER) DETAIL(*FULL) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、クラスターMYCLUSTERに関する完全セットの情報を印刷します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF1999

コマンドでエラーが起こった。

表示コマンド (DSPCMD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

コマンド表示(DSPCMD)コマンドは、コマンド作成(CRTCMD)コマンドのパラメーターに指定された値のいくつかを表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMD	コマンド	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: コマンド	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

コマンド (CMD)

情報を表示するコマンドを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: コマンド

名前 表示するコマンドの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

コマンドを見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 コマンドが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

*
- コマンド属性が表示装置に表示されます。コマンドをバッチ・モードで実行している場合には、属性は印刷されません。

*PRINT

コマンド属性が印刷されます。

トップ

例

DSPCMD CMD(PAYROLL)

このコマンドは、ユーザー定義のコマンドPAYROLLに対する現行のユーザー割り当てのパラメーター値のすべてを表示します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2150

オブジェクト情報機能に障害。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF6210

ライブラリー&2のコマンド&1が見つからない。

CPF6250

ライブラリー&2のコマンド&1を表示または検索することができない。

CPF7D41

オーダー援助要求のロギング時にエラーが起こった。

CPF7D42

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

CPF8103

&9のコマンド&4に損傷がある。

CPF8122

ライブラリー&4に&8の損傷がある。

CPF8123

ライブラリー&4のオブジェクト情報に損傷がある。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9805

ライブラリー&3のオブジェクト&2が壊れている。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9824

ライブラリー&2のコマンド&1は認可されていない。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

接続リスト表示 (DSPCNL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

接続リスト表示(DSPCNL)コマンドは、接続リストおよびその項目を表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CNNL	接続リスト	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

接続リスト (CNNL)

接続リストの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

* 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

DSPCNL CNNL(MYCNNL)

このコマンドは、MYCNLという名前の接続リストについての情報を表示します。情報は、このコマンドが投入されたワークステーションに表示されます。コマンドがバッチ・ジョブから入力された場合には、画面からの出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。接続リストと関連したすべての項目が表示されず。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF266C

接続リスト&1が見つからない。

CPF266D

システム・ライブラリーにプログラム名&1が見つからない。

CPF266E

接続リスト&1に損傷がある。

[トップ](#)

接続状況の表示 (DSPC>NNSTS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

接続状況表示(DSPC>NNSTS)コマンドは、ネットワーク装置で使用されている接続型プロトコルおよび指定されたすべての受け入れ可能インバウンド経路指定データに関する情報を表示します。1つまたは複数の活動接続があった場合には、各活動接続ごとに接続特性が表示されます。

制約事項:

- 装置プロンプト (DEVパラメーター) に指定された装置に対する操作権限が必要です。
- このコマンドはすべてのネットワーク装置に有効ですが、接続型の状況は、リンク・タイプがX.25の装置についてのみ提供されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT -	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

装置 (DEV)

ネットワーク装置の名前を指定します。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合)、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

DSPCNNSTS DEVD(PRTR48X) OUTPUT(*PRINT)

このコマンドは、装置PRTR48Xのための活動接続のすべての状況を印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2603

装置記述&1が見つかりません。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF7D41

オーダー援助要求のロギング時にエラーが起こった。

CPF7D42

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

CPF87B0

装置&1はネットワーク装置でない。

CPF87B1

装置&1は接続状況を表示する正しい状態になっていない。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

サービス・クラス記述表示 (DSPCOSD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス・クラス記述表示(DSPCOSD)コマンドにより、サービス・クラス記述が表示されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
COSD	サービス・クラス記述	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

サービス・クラス記述 (COSD)

表示されるサービス・クラス記述名を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

DSPCOSD COSD(COSD1) OUTPUT(*PRINT)

このコマンドは、サービス・クラス記述COSD1を印刷します。情報は、このコマンドが投入されたワークステーションに表示されます（ただし*PRINTが指定されている場合は除きます。この場合には、情報は、ユーザーのジョブと関連したスプール印刷装置ファイルに送られます）。コマンドがバッチ・ジョブから入力された場合には、画面からの出力は、ジョブのスプール出力で印刷装置で印刷されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF2670

サービス・クラス記述&1が見つからない。

CPF2671

サービス・クラス記述&1は前に削除された。

CPF2675

サービス・クラス記述&1に損傷がある。

[トップ](#)

CHKPND制約の表示 (DSPCPCST)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

検査保留制約表示(DSPCPCST)コマンドは、確立された制約の違反の可能性があるレコード（検査保留）を表示するために使用することができます。

制約事項:

- 使用不可の参照制約および検査制約だけを表示することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
CST	制約名	文字値	必須, 定位置 2
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

ファイル (FILE)

参照制約に参照制約が定義されている従属ファイルを指定するか、あるいは検査制約にファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ファイル

名前 物理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

制約名 (CST)

ファイルに定義されている制約を指定します。

これは必須パラメーターです。

文字値 制約の名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

* 対話式ジョブで要求された出力は画面上に表示されます。バッチ・ジョブで要求された出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

```
DSPPCST FILE(ADMN/PERSONNEL) CST(1994HIRES)
        OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、ADMNライブラリー中の従属ファイルPERSONNELで1994HIRESという名前の参照制約で検査保留となっているレコードのリストを印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

*ESCAPEメッセージ

CPF32B6

ファイル&1の制約を表示することができない。

[トップ](#)

CRG情報の表示 (DSPCRGINF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラスター資源グループ情報表示(DSPCRGINF)コマンドは、クラスター資源グループに関する情報を表示または印刷するために使用されます。これはクラスター内のノードから起動されなければなりません。状況が「非活動状態」または「障害」になっているノードでこのコマンドを呼び出す場合は、表示または印刷される情報は最新でない場合があります。この場合は、表示または印刷される情報は、そのノードが最後に活動状態であったときのクラスターの状態を反映することになります。このコマンドは、クラスター資源グループのリストまたはクラスター資源グループに関する完全な情報を表示または印刷するために使用することができます。

CRG(*LIST)が指定されていると、情報の要求はクラスター内の他のノードには配布されません。クラスター資源グループに関する情報には、このコマンドを実行中のノードから得られる値が表示されます。幾つかの条件（たとえば、クラスター資源サービスがコマンドを実行中のノードで活動状態でない）により、クラスター内のクラスター資源グループに関する矛盾する情報が生成される可能性があります。

特定のクラスター資源グループの情報を要求すると、クラスター資源グループの基本情報が常に表示されます。さらに、回復ドメインおよび弾力的な装置のリストを含む追加明細を要求することができます。クラスター資源サービスが開始された場合は、少なくとも1つの回復ドメイン・ノードが活動状態であれば、このコマンドは、クラスター資源グループに関する情報がコマンドの呼び出し元のノードに存在していない場合でも、その情報を戻します。

クラスター資源サービスがまだ開始されていない場合は、次の通りです。

1. 戻される情報が最新でない場合があります
2. コマンドを実行中のノードに存在しているクラスター資源グループの情報だけが戻されます

このコマンドは、クラスター資源グループ出口プログラムから呼び出すことができます。しかし、クラスター資源グループ出口プログラムがクラスター資源グループ作成(CRTCRG)コマンドの結果として呼び出され、そのクラスター資源グループについての情報を要求している場合は、このコマンドは失敗します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLUSTER	クラスター	名前	必須, 定位置 1
CRG	クラスター資源グループ	文字値, *LIST	オプション, 定位置 2
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

クラスター (CLUSTER)

情報を表示または印刷する対象のクラスター資源グループが含まれているクラスターを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 クラスターの名前を指定してください。

[トップ](#)

クラスター資源グループ (CRG)

情報を表示または印刷するクラスター資源グループを指定します。

***LIST** 指定されたクラスター内で現在定義されているクラスター資源グループのリストを表示または印刷することを指示します。各クラスター資源グループに関する記述情報も印刷されます。この情報は、たとえコマンドを実行中のノード上に存在していなくても、クラスター内のクラスター資源グループのすべてについて戻されます。オブジェクト処理(WRKOBJ) CLコマンドは、このノード上にしか存在していないクラスター資源グループのリストを提供するために使用することができます。このコマンドを呼び出しているユーザーの権限とは無関係に、クラスター資源グループのすべてについての情報が印刷されます。

名前 クラスター資源グループの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力が要求元のワークステーションに表示されるか、あるいはジョブのスプール出力で印刷されるかを指定します。このパラメーターの詳細は、共通に使用されるパラメーターに記載されています。

* 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。コマンドがバッチ・ジョブの一部として実行される場合には、出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

```
DSPCRGINF CLUSTER(MYCLUSTER) CRG(*LIST) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、クラスターMYCLUSTERに定義されているすべてのクラスター資源グループに関する基本構成情報を印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

CPF1999

コマンドでエラーが起こった。

[トップ](#)

通信サイド情報の表示 (DSPCSI)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

通信サイド情報表示(DSPCSI)コマンドを使用して、指定したサイド情報オブジェクトを表示または印刷します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CSI	サイド情報	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サイド情報	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

サイド情報 (CSI)

表示するサイド情報オブジェクトの名前を指定します。オブジェクト名を指定しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

サイド情報オブジェクトを見つけるために、現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

サイド情報オブジェクトが入っているライブラリーの名前を指定してください。

サイド情報名

サイド情報オブジェクトが入っているオブジェクトの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのプール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

トップ

例

例1:オブジェクトの検出

```
DSPCSI  CSI(SIDEOBJ)
```

このコマンドはライブラリー・リスト中でSIDEOBJという名前の最初のサイド情報オブジェクトを見つけ、サイド情報を表示します。

例2:サイド情報の印刷

```
DSPCSI  CSI(QGPL/SIDEOBJ) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、ライブラリーQGPL中のオブジェクトSIDEOBJに含まれるサイド情報をジョブのプール出力で印刷します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

[トップ](#)

制御装置記述の表示 (DSPCTL D)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

制御装置記述の表示(DSPCTL D)により, 制御装置記述が表示されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTL D	制御装置記述	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2
OPTION	オプション	*ALL, *BASIC, *SWTLINLST, *DEV, *RMTID, *APPN, *TMRRTY	オプション, 定位置 3

トップ

制御装置記述 (CTL D)

制御装置記述の名前を指定します。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を, 要求元のワークステーションに表示するか, あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
-

出力は表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合), あるいはジョブのスパール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

オプション (OPTION)

このパラメーターによって、この制御装置の情報を選択して表示することができます。すべての情報(*ALL)または特定の情報の表示を選択することができます。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** 制御装置に関するすべての情報が表示されます。すべての情報は、この制御装置タイプに適用される*BASIC情報およびすべての詳細説明から構成されています。

***BASIC**
制御装置の基本特性だけが表示されます。

***SWTLINLST**
この制御装置と関連した交換回線のリストだけが表示されます。

***DEV** この制御装置と関連した装置のリストだけが表示されます。

***RMTID**
BSC交換回線のリモートIDと関連した情報だけが表示されます。

***APPN**
拡張対等通信ネットワーク機能(APPN)に関する情報だけが表示されます。

***TMRRTY**
制御装置タイマーおよび再試行オプションと関連した情報だけが表示されます。

[トップ](#)

例

DSPCTLD CTLD(CONTROL01)

このコマンドは、CONTROL01という名前の制御装置記述についての情報を表示します。情報は、このコマンドが投入されたワークステーションに表示されます。コマンドがバッチ・ジョブから入力された場合には、画面からの出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2602
制御装置&1が見つかりません。

CPF2625
オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2627
制御装置記述は前に削除されている。

CPF2634
オブジェクト&1は認可されていない。

CPF268B

制御装置&2には&1は正しくない。

CPF2778

制御装置記述&1に損傷がある。

[トップ](#)

現行ディレクトリーの表示 (DSPCURDIR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

現行ディレクトリーの表示 (DSPCURDIR)コマンドは、現行の作業ディレクトリーの名前を表示するために使用されます。

制約事項:

1. 現行ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
2. パス内の各ディレクトリーに対する読み取り、実行(*RX)権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション、定位置 1

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

例1: 現行ディレクトリーの表示

DSPCURDIR

このコマンドは、現行作業ディレクトリーの名前を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA0CF

現行ディレクトリーの決定中にエラーが起こった。

[トップ](#)

デバッグ表示 (DSPDBG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

デバッグ表示(DSPDBG)コマンドは、デバッグ・モードの現在の状況を表示します。表示される情報は次の通りです。

- 現在デバッグ中のプログラムを示す呼び出しスタック
- 呼び出し側の命令の命令番号、またはプログラムが停止した各停止点の命令番号
- プログラム反復レベル

デバッグ・モードになっているがまだ呼び出されていないプログラムも表示されます。

制約事項:

- このコマンドを使用できるのは、デバッグ・モードの時だけです。デバッグ・モードを開始するためには、デバッグ開始(STRDBG)コマンドを参照してください。
- 別のジョブをサービス中で、そのジョブがジョブ待ち行列上にあるか、あるいは保留、延期、または終了中の場合には、このコマンドを使用することはできません。
- このコマンドを使用して、スタック上のバインド済みプログラムのプロシージャを表示することはできません。それらのプロシージャを表示するためには、ジョブ表示(DSPJOB)コマンドを使用してください。
- このコマンドを使用して、デバッグ中のバインド済みプログラムを表示することはできません。
- *SRCDBGまたは*LSTDBGコンパイラー・オプションでコンパイルされ、バインドされていないプログラムが、OPMSRC(*YES)オプションを指定したSTRDBGコマンドで開始されたデバッグ・モードになっている場合には、そのバインドされていないプログラムを表示するのに、このコマンドを使用できません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション、位置 1

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスプール出力で印刷するかを指定します。

*
出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

例

DSPDBG

対話式で入力された場合に、このコマンドは、デバッグ・モードの現在の属性を表示装置で表示します。また、デバッグ中のいずれかのプログラムが停止される停止点、現在活動状態のプログラムの反復レベル、および呼び出されていないプログラムの名前も表示されます。

トップ

エラー・メッセージ

なし

トップ

デバッグ監視の表示 (DSPDBGWCH)

実行可能場所:

- 対話式ジョブ (*INTERACT)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

デバッグ監視表示(DSPDBGWCH)コマンドは、システム・デバッグ・サポートがシステム上のすべての処理に設定したデバッグ監視のリストを表示します。これには、システムの専用保守ツール(DST)サポートでセットされた監視は含まれません。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

DSPDBGWCH

このコマンドは、システム・デバッグ・サポートによって設定された現行のデバッグ監視を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

データベース関係表示 (DSPDBR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データベース関係表示(DSPDBR)コマンドは、データベース・ファイルに関する関連情報を提供します。このコマンドは、特定のファイルに從属している物理ファイルおよび論理ファイル、特定のレコード様式を使用するファイル、または特定のファイル・メンバーに從属しているファイル・メンバーを識別します。この情報は、表示するか、印刷するか、あるいはデータベース出力ファイルに入れることができます。このコマンドは、装置ファイルには適用されません。

データベース出力ファイルに情報が出力される場合に、使用されるレコード様式の名前がQWHDRDBRとなります。レコード様式QWHDRDBRのフィールドは、ライブラリーQSYSのファイルQADSPDBRにあるIBM提供様式QWHDRDBRのフィールドと同じです。データベース出力ファイルには、次の情報が入ります。

- コマンドで指定された各ファイルごとに、データベース・レコードに次の項目が入ります。
 - 指定されたファイルの名前、そのライブラリー名、および指定されたファイルのファイル・タイプ
 - ファイルに使用されているレコード様式の名前(RCDFMTに名前を指定した場合)
 - ファイル情報の情報検索日付（ファイルに変更が行われた場合には、最新の日付に最も正確な情報が入っています）
- このレコードには、次の1つも入ります。
 - アクセス・パス共用またはデータ共用によって、指定したファイルに從属するすべてのファイルの名前（そのファイルが入っているライブラリーの名前および共用タイプも含まれます）
 - 指定されたメンバーに從属しているすべてのファイル・メンバーの名前、そのライブラリー名、および共用のタイプ
 - 指定されたレコード様式に從属しているすべてのファイルの名前、およびそのライブラリー名

制約事項:

1. 指定された各ファイルを表示するには、ユーザーはそのファイルに対するオブジェクト操作権を持っていないければなりません。また、ライブラリー修飾子によって指定されたライブラリーについては、ユーザーが*USE権限を持つライブラリーのファイルだけが検索されます。
2. OUTFILEを作成するには、ユーザーは物理ファイル作成(CRTPF)コマンドに対する*USE権限とライブラリーに対する*ADD権限を持っていないければなりません。既存のOUTFILEを使用するには、ユーザーはそのファイルに対する操作(*OPR)および*ADD 権限を持っていないければなりません。
3. また、*REPLACEを指定する場合には、ユーザーはオブジェクト管理および削除権限も持ってないければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	
MBR	メンバー	名前, *NONE	オプション, 定位置 2
RCDFMT	レコード様式	総称名, 名前, *NONE, *ALL	オプション

トップ

ファイル (FILE)

その関連情報が表示, 印刷, または出力ファイルに入れられるファイルの名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

ファイル名として指定できる値は次の通りです。

ファイル名

ファイルのフルネームを指定してください。このファイルについてだけ情報が表示されます。

総称*ファイル名

総称ファイル名を指定してください。指定された文字で始まる名前を持つすべてのデータベース・ファイルの情報が提供されます。

***ALL** 1つまたは複数のライブラリー中のすべてのファイルについて情報が提示されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで, 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には, QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には, 現行ライブラ

リーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXXM
QGPL       QSRVAGT     QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMOMDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMOMPROC   QUSRBRM     QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMユーザー・ライブラリーのVXRXXMは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

* 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイルプロンプト（OUTFILEパラメーター）に指定されたデータベース出力ファイルに送られます。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース出力ファイルの名前およびライブラリーを指定します。このファイルが存在していない場合には、このコマンドは、指定したライブラリーの中にデータベース出力ファイルを作成します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行項目が存在していない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

注: 出力ファイル形式は、QSYSライブラリーのシステム・ファイルQADSPDBRのQWHDRDBRと同じでなければなりません。出力ファイル形式の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER)にある「データベース」情報の資料を参照してください。

トップ

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***FIRST**

ファイルの最初のメンバーが出力を受け取ります。そのファイルにメンバーが存在しない場合には、システムは、出力を受け取るファイルプロンプト (OUTFILEパラメーター) に指定されたファイルの名前でメンバーを作成します。

メンバー名

出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。この名前のメンバーが存在していない場合には、システムが作成します。

情報の保管方法について指定できる値は次の通りです。

***REPLACE**

指定されたファイル・メンバー中の既存のレコードが出力データで置き換えられます。

***ADD** 指定されたファイル・メンバー中の既存のレコードの終わりに、出力データが追加されます。

トップ

メンバー (MBR)

その従属メンバー情報が表示、印刷、または出力ファイルに入れられるデータベース・ファイルのメンバーの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*NONE

ファイル・メンバーについての情報が提供されません。

メンバー名

ファイル・メンバーのフルネームを指定してください。指定したファイル・メンバーの情報が提供されます。メンバー名を指定した場合には、**レコード様式プロンプト** (RCDFMTパラメーター) にレコード様式名を指定することはできません。

[トップ](#)

レコード様式 (RCDFMT)

その従属情報が表示、印刷、またはデータベース・ファイルに入れられるレコード様式の名前を指定します。このパラメーターが指定された場合には、**メンバープロンプト** (MBRパラメーター) にメンバー名を指定することはできません。

考えられる値は、次の通りです。

レコード様式名

レコード様式のフルネームを指定してください。この特定のレコード様式についての情報が提示されます。

総称*レコード様式名

総称名を指定してください。指定された文字で始まる名前を持つすべてのレコード様式について情報が提示されます。

*NONE

依存レコード様式情報は提示されません。

***ALL** 指定されたファイル中のすべてのレコード様式についての情報が提示されます。

[トップ](#)

例

以下の例では、対話環境があること、およびコマンドのユーザーには関係のあるすべてのライブラリーとオブジェクトへのアクセスが許可されていることを前提としています。

例1:データベース関係情報の表示

```
DSPDBR FILE(LIBRARY1/FILE1) RCDFMT(FORMAT1)
```

このコマンドは、FORMAT1形式を使用し、LIBRARY1のFILE1と関連付けられたすべてのファイルの名前およびデータベース関係情報のリストを表示します。環境是对話式であるため、出力はこのコマンドを実行中のワークステーションで表示されます。

例2:データベース関係情報の表示

DSPDBR FILE(LIB1/FILE1)

このコマンドは、データ共用のためにLIB1のFILE1に依存するすべてのファイルのデータベース関係情報を表示します。それは、このコマンドを実行中のワークステーションで表示されます。

例3:データベース関係情報の表示

DSPDBR FILE(LIB1/FILE1) MBR(MEMBER1)

このコマンドは、データ共用またはアクセス・パス共用のためにLIB1のFILE1のMEMBER1に依存するすべてのメンバーのデータベース関係情報を表示します。それらは、このコマンドを実行中のワークステーションで表示されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF3010

&2には&1のデータベース・ファイルは見つからない。

CPF3012

ライブラリー&2のファイル&1が見つからない。

CPF3014

&2の&1として指定されたファイルを表示することができない。

CPF3028

レコード様式&1がファイル&2に見つからない。

CPF3029

メンバー&1は&3のファイル&2に見つからなかった。

CPF3052

ファイル&1の記述が使用できない。

CPF3061

出力ファイル&1のレコード様式&3が見つからない。

CPF3063

&2の出力ファイル&1は物理ファイルではない。

CPF3064

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF3066

&2の出力ファイル&1の作成中にエラー。

CPF3067

&2のファイル&1のオープン中にエラー。

CPF3068

&2のファイル&1への書き出し中にエラー。

CPF3069

&2のファイル&1のクローズ中にエラー。

CPF3070

ファイル&1のメンバー&3の作成中にエラー。

CPF3072

&2のファイル&1はシステム・ファイルである。

CPF3074

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF3075

ライブラリー&1が使用できない。

CPF3076

画面上でエラーが起こった。

CPF3077

表示を取り消そうとした時にエラーが起こった。

CPF3084

ファイル&1のメンバー&3の消去中にエラー。

[トップ](#)

DDMファイル表示 (DSPDDMF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

分散データ管理(DDM)ファイル表示(DSPDDMF)コマンドは、指定された分散データ管理(DDM)ファイルについて、リモート・ファイル名およびリモート・システムの位置などの情報を表示または印刷するために使用されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALL, *ALLUSR	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

ファイル (FILE)

情報が表示されるDDMファイルの名前およびライブラリーを指定します。総称DDM ファイル名を指定することができます。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** 指定したライブラリー（またはライブラリー修飾子で識別されるライブラリーのうちのユーザーにアクセス権のあるすべてのライブラリー）の中のすべてのファイルが表示されます。

ファイル名

表示したいDDMファイルの名前を指定してください。ライブラリー名として*LIBLまたは*USRLIBLを指定した場合には、指定した名前を持つ最初に見つかったファイルだけが表示されます。

総称*ファイル名

表示されるDDMファイルの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。このパラメーターに総称名を指定した場合には、総称ファイル名と同じ接頭部をもつ名前のすべてのファイルが表示されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXXM
QGPL       QSRVAGT     QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX  QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMQMDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMQMPROC   QUSRBRM     QUSRDRDARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

* 出力は表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合)、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

DSPDDMF

このコマンドは、「DDMファイルの表示」パネルを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

装置記述の表示 (DSPDEVD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置記述の表示(DSPDEVD)コマンドにより、装置記述が表示されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEVD	装置記述	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2
OPTION	オプション	*ALL, *BASIC, *SWTLINLST, *MODE, *AUXDEV, *MLBRSC, *USRDFNOPT, *STGRSC, *VRTETHRSC	オプション, 定位置 3

[トップ](#)

装置記述 (DEVD)

装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

オプション (OPTION)

このパラメーターによって、情報を選択して表示することができます。すべての情報(*ALL)または特定の情報の表示を選択することができます。

***ALL** 装置と関連したすべての情報が表示されます。

***BASIC**

装置の基本特性だけが表示されます。

***SWTLINLST**

このローカル・エリア・ネットワーク印刷装置の交換回線についての情報だけが表示されます。

***MODE**

モード接続機構と関連した情報だけが表示されます。

***AUXDEV**

補助装置と関連した情報だけが表示されます。

***MLBRSC**

このテープ媒体ライブラリーに関連付けられた装置資源に関する情報だけが表示されます。

***USRDFNOPT**

スプール・ファイルを処理するユーザー・アプリケーションまたはユーザー指定プログラムによって使用されるユーザー定義オプションのリストが表示されます。

***STGRSC**

この装置と関連したファイル・サーバー記憶域資源に関する情報だけが表示されます。

***VRTETHRSC**

この装置と関連した仮想イーサネット資源に関する情報だけが表示されます。

トップ

例

DSPDEV D DEVD(WRKSTN01)

このコマンドは、WRKSTN01という名前の装置記述についての情報を表示します。情報は、このコマンドが投入されたワークステーションに表示されます。コマンドがバッチ・ジョブから入力された場合には、画面からの出力は、ジョブのスプール出力で印刷されます。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

CPF2603

装置記述&1が見つかりません。

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2628

装置記述が前に削除された。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF268C

装置&2には&1は正しくない。

CPF2777

装置記述&1に損傷がある。

[トップ](#)

ディレクトリー項目の表示 (DSPDIRE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリー項目表示(DSPDIRE)コマンドは、一部または全部のシステム配布ディレクトリー項目についてデータベース・ファイルを表示、印刷、または作成するために使用されます。次の点に基づいて、データベース・ファイル出力は表示、印刷、または作成されます。

- 表示出力の場合には、USRIDまたはUSERパラメーターが複数のディレクトリー項目に適用されると、システムは項目のリストを提供します。これらのパラメーターがディレクトリー項目を固有に識別すると、システムはその項目の明細を提供します。
- 印刷またはデータベース・ファイル出力の場合には、USRIDパラメーターが全ディレクトリーを指定していれば、出力が項目のリストであるかあるいは各項目の全明細であるかをDETAILパラメーターが判断します。USRIDまたはUSERパラメーターがユーザーIDまたはプロファイルを指定している場合には、そのユーザーの全明細が出力に送られます。

DSPDIREコマンドはディレクトリーの更新は行ないません。この機能は、ディレクトリー項目処理(WRKDIRE)コマンド、ディレクトリー項目追加(ADDDIRE)コマンド、ディレクトリー項目除去(RMVDIRE)コマンド、ディレクトリー項目変更(CHGDIRE)コマンド、およびディレクトリー項目名前変更(RNMDIRE)コマンドによる画面サポートのもとで、対話式に提供されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USRID	ユーザー識別コード	単一値: <u>*ALL</u> その他の値: 要素リスト	オプションル, 定位置 1
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
USER	ユーザー・プロファイル	名前, *CURRENT	オプションル, 定位置 2
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT, *OUTFILE	オプションル
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプションル
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプションル
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	
DETAIL	詳細	*BASIC, *FULL	オプションル
OUTFILFMT	出力ファイル形式	*TYPE1, *TYPE2, *TYPE3	オプションル

キーワード	記述	選択項目	注
OUTDTA	出力するデータ	*LCL, *ALL	オプション
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL, *DEV その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

トップ

ユーザー識別コード (USRID)

ディレクトリー項目が表示、印刷、またはデータベース・ファイルに送られるユーザーのユーザーIDおよびアドレスを指定します。USRIDパラメーターを指定した場合には、USERパラメーターを指定することはできません。

表示出力の場合には、ユーザーIDおよびアドレスが1つの記述しかない項目を指定すれば、その項目のディレクトリー明細が表示されます。指定されたユーザーIDおよびアドレスと関連付けられている記述が複数ある場合には、該当するユーザーIDおよびアドレスのリストが表示され、そのリストから明細を表示するユーザーIDおよびアドレスを選択することができます。

印刷出力またはデータベース・ファイル出力の場合には、該当するユーザーIDおよびアドレスのすべての記述を含む全ディレクトリー明細が、印刷されるかまたはデータベース・ファイルに送られます。ユーザーIDおよびアドレスの指定の詳細については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

***ALL** システム配布ディレクトリー中のすべての項目が表示されるか、印刷されるか、またはデータベース・ファイルに送られます。項目はユーザーIDおよびアドレスのアルファベット順に提供されます。出力が印刷リストまたは出力リストに送られる場合には、出力がユーザーID、アドレス、および記述のリストであるか、または全ディレクトリー明細であるかを、DETAILパラメーターが指定します。

指定できるユーザーIDの値は次の通りです。

ユーザーID

既存のディレクトリー項目が表示されるか、印刷されるか、またはデータベース・ファイルに送られるユーザーのユーザーIDを指定してください。

指定できるユーザー・アドレスの値は次の通りです。

ユーザー・アドレス

既存のディレクトリー項目が表示されるか、印刷されるか、またはデータベース・ファイルに送られるユーザーのユーザー・アドレスを指定してください。

トップ

ユーザー・プロフィール (USER)

ディレクトリー項目が表示、印刷、またはデータベース・ファイルに書き込まれるユーザー・プロフィールを指定します。USERパラメーターを指定した場合には、USRIDパラメーターを指定することはできません。

表示出力の場合には、関連付けられている記述が1つしかない項目をプロファイルが指定すれば、その項目のディレクトリー明細が表示されます。指定されたプロファイルと関連付けられている記述が複数ある場合には、そのプロファイルに該当するユーザーIDおよびアドレスのリストが表示され、そのリストから明細を表示するユーザーIDおよびアドレスを選択することができます。ユーザーは、このリストから、詳細を表示するユーザーIDおよびアドレスを選択することができます。

*CURRENT

現行ジョブを実行しているユーザー・プロファイルが使用されます。

ユーザー・プロファイル名

対応するディレクトリー項目の明細が出力となるユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元のワークステーションに表示するか、ジョブのスパール出力で印刷するか、あるいは出力ファイルに書き出すかを指定します。

*
- 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。コマンドがバッチ・ジョブの一部として実行される場合には、出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、OUTFILEパラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

[トップ](#)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

画面の出力が送られる先のデータベース・ファイルの修飾名を指定します。そのデータベース・ファイルが存在していない場合には、このコマンドが指定されたライブラリーにそれを作成します。ライブラリーが指定されなかった場合には、ユーザー・プロファイルに指定されたユーザーの省略時のライブラリーにそのデータベース・ファイルが作成されます。省略時のライブラリーが指定されていない場合は、データベース出力ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

データベース・ファイルが*LIBLで修飾されていて、システムがそのファイルを見つけることができない場合には、そのデータベース・ファイルはユーザーの省略時のライブラリー（ユーザー・プロファイルに指定されている場合）に作成されます。省略時のライブラリーが指定されていない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

有効な出力ファイル・タイプとその名前については、OUTFILFMTパラメーターを参照してください。

データベース・ファイルの名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾することができます。

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

データベース・ファイル名

画面の出力を受け取るデータベース・ファイルの名前を指定してください。データベース・ファイルが*LIBLで修飾されているが、システムがそのファイルを見つけることができない場合には、そのファイルはユーザーの省略時のライブラリー（指定されている場合）に作成されます。省略時のライブラリーが指定されていない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

トップ

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力が送られる先のデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。メンバーがすでに存在している場合には、システムがこのパラメーターの2番目の要素を使用して、新しいレコードが追加される前にそのメンバーが消去されるかどうかを判別します。メンバーが存在せず、メンバー名が指定されていない場合には、システムはOUTFILEパラメーターで指定された出力ファイルの名前でメンバーを作成します。出力ファイル・メンバー名が指定されていて、そのメンバーが存在していない場合には、システムがそれを作成します。

出力を受け取るメンバーに指定できる値は次の通りです。

***FIRST**

ファイル内の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがOUTFILEパラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

メンバー名

出力を受け取るファイル・メンバーを指定します。OUTMBR（メンバー名）を指定し、そのメンバーが存在していない場合には、システムがそれを作成します。

指定できるメンバーに対して実行する操作の値は次の通りです。

***REPLACE**

システムは既存のメンバーを消去して新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

トップ

詳細 (DETAIL)

印刷またはデータベース・ファイルに送る明細の量を指定します。出力が画面に送られる場合(OUTPUT(*))または特定のユーザーIDあるいはプロファイルが指定されている場合には、このパラメーターは使用されません。

***BASIC**

出力は、ディレクトリーに入っているすべてのユーザーID、アドレス、および記述のリストです。

*FULL

出力は、ディレクトリーに入っているユーザーについての明細のすべてです。USRID(*ALL)が指定されると、印刷リストはディレクトリーからの各固有のユーザーID およびアドレスごとに1ページが使用され、その項目のすべての明細が示されます。1つのユーザーIDおよびアドレスについて複数の記述が明細に組み込まれます。データベース・ファイルの場合には、各固有のユーザーID、アドレス、および記述について1レコードが作成され、各項目のすべての明細が組み込まれます。1つのユーザーIDおよびアドレスに複数の記述が存在する時には、各記述の出力は完全な1レコードであり、記述フィールドだけが異なります。

入力パラメーターにユーザーIDおよびアドレスまたはユーザー・プロファイル名が指定されると、印刷リストは1ページ分の出力にそのユーザーIDおよびアドレスの明細に組み込まれたすべての記述が示されます。出力ファイルは各記述ごとに全明細レコードを含みます。記述フィールドのみがレコード間で異なります。

トップ

出力ファイル形式 (OUTFILFMT)

出力ファイルの様式を指定します。

*TYPE1

様式は、ライブラリーQSYS中のレコード様式名OSDIREをもつモデル出力ファイルQAOSDIROによって定義されます。この様式には、リリース2.0より後で追加された新しいディレクトリー・フィールドは入っていません。

*TYPE2

出力ファイル様式は、ライブラリーQSYS中のモデル出力ファイルQAOSDIRBおよびQAOSDIRFによって定義されます。

DETAIL(*BASIC)が指定された場合には、出力ファイルに基本フィールドしか入れられず、モデル出力ファイルQAOSDIRBがレコード様式名OSDIRBとともに使用されます。DETAIL(*FULL)が指定された場合には、出力ファイルにすべての明細フィールドが入れられ、モデル出力ファイルQAOSDIRFがレコード様式名OSDIRFとともに使用されます。

*TYPE3

出力ファイルに、すべての明細フィールドおよびX.400発信元/宛先(O/R)名が入れられます。ライブラリーQSYS中のモデル出力ファイルQAOSDIRXがレコード様式名OSDIRXとともに使用されます。

トップ

出力するデータ (OUTDTA)

OUTPUTパラメーターで指定された値への出力として組み込むデータのタイプを指定します。出力が画面に送られる場合(OUTPUT(*))または特定のユーザーIDあるいはプロファイルが指定されている場合には、このパラメーターは使用されません。

***LCL** ローカル定義データが含まれます。シャドー処理されたデータは含まれません。

***ALL** ディレクトリー項目のすべてのデータが含まれます。これには、ローカル定義データとシャドー処理されたデータが含まれます。

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

このコマンドでパラメーター値として指定されるデータの文字ID (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。この文字ID (CHRID)は、コマンドの指定に使用される表示装置と関係しています。CHRID処理の詳細については、APPLICATION DISPLAY PROGRAMMING (SC41-5715)を参照してください。

*SYSVAL

システムが、QCHRIDシステム値からのコマンド・パラメーターについて、図形文字セットおよびコード・ページの値を決定します。

*DEV D

システムが、コマンドが入力される表示装置記述からのコマンド・パラメーターについて、図形文字セットおよびコード・ページの値を決定します。このオプションは、対話式ジョブから指定された時にだけ有効です。この値が対話式CLプログラムまたはバッチ・ジョブで指定されると、エラー・メッセージが送られます。

指定できる文字セットの値は次の通りです。

図形文字セット

コマンド・パラメーターを作成するために使用される図形文字セットの値を指定してください。有効な値の範囲は1から9999です。

指定できるコード・ページの値は次の通りです。

コード・ページ

コード・ページを指定してください。有効な値の範囲は1から9999です。

例

例1:1つの記述の画面の表示

```
DSPDIRE  USRID(HURST NEWYORK)
```

このコマンドは、ユーザーIDおよびアドレスHURST NEWYORKについての「ディレクトリー項目詳細の表示」画面を表示します (このユーザーIDが関連した記述を1つしかもっていない場合)。複数の記述が存在している場合は、ユーザーIDおよびアドレスについてのすべての項目が含まれた「ディレクトリー項目の表示」画面が表示されます。

例2:ディレクトリー情報の印刷

```
DSPDIRE  USER(JONES)  OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、ユーザー・プロファイルJONESについての完全なディレクトリー詳細を印刷します。JONESのディレクトリー内に複数の記述がある場合は、印刷出力には各記述が入ります。

例3:全明細のデータベース・ファイルへの送信

```
DSPDIRE  OUTPUT(*OUTFILE)
          OUTFILE(MYLIB/DIRLIST)  OUTMBR(*FIRST *REPLACE)
          DETAIL(*FULL)
```

このコマンドは、ディレクトリー内の項目ごとのレコードをライブラリーMYLIB 内のデータベース・ファイルDIRLISTに送ります。このレコードにはユーザーごとの完全な詳細が入っています。出力ファイルの様式は、OUTFILFMT(*TYPE1)の省略時の値が原因でリリース3.0より前に使用される様式になります。このファイルが存在していない場合には、作成されます。このファイルが存在している場合は、置き換えられます。

例4:基本情報のデータベース・ファイルへの送信

```
DSPDIRE  OUTPUT(*OUTFILE)
          OUTFILE(MYLIB/DIRLIST)  DETAIL(*BASIC)
          OUTFILFMT(*TYPE2)
```

このコマンドは、ディレクトリー内の項目ごとのレコードをライブラリーMYLIB内のDIRLISTという名前のデータベース・ファイルに送ります。このデータには、基本フィールド（ユーザーID,アドレス, および記述）しか入っていません。リリース1.0または2.0データ（例2を参照）ライブラリーMYLIB内のDIRLISTという名前のデータベース・ファイルがすでに存在している場合は、エラーが起こります。そうでない場合は、ファイルがリリース3.0様式で作成されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF9006

ユーザーはシステム配布ディレクトリーに登録されていない。

CPF9009

システムには&2のファイル&1のジャーナルが必要である。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEVVD), DOCCHRID(*DEVVD)を使用することはできない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

DLファイル属性の表示 (DSPDLFA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データ・リンク・ファイル属性の表示(DSPDLFA)コマンドを使用して、ファイルにあるデータ・リンク欄についての情報を表示することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FLD	フィールド名	名前, *ALL	オプションナル, 定位置 2
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプションナル

[トップ](#)

ファイル (FILE)

データ・リンク属性を表示する物理ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ファイル

名前 物理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

***ALL** システムのすべてのライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

フィールド名 (FLD)

表示したいデータ・リンク・フィールドを指定します。

***ALL** 指定された物理ファイルにあるすべてのデータ・リンク・フィールドが表示されます。

名前 表示される単一フィールドの名前を指定してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

* 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

例

```
DSPDLFA FILE(ADMN/PERSONNEL) FLD(*ALL) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、ADMNライブラリー中のファイルPERSONNELのレコードのリストを印刷します。このファイルで属性FILE LINK CONTROLをもつすべてのデータ・リンク・フィールドの場合、リストにはサーバー接続を確立できるかどうか、データ・リンク・ファイル・マネージャー(DLFM)サーバーとの完了していない保留中のデータ・リンク・トランザクションがあるかどうかを示されます。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

CPF32B9

データ・リンク機能を実行することができません。

トップ

DLO監査レベルの表示 (DSPDLOAUD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト監査の表示(DSPDLOAUD)コマンドによって、文書またはフォルダーの監査レベルを表示することができます。

制約事項:

- 文書またはフォルダーの監査レベルを表示するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)または監査(*AUDIT)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	文字値, *SYSOBJNAM, *ROOT, *ALL	必須, 定位置 1
FLR	フォルダー	文字値, *NONE, *ANY, *ROOT	オプション, 定位置 2
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	名前	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション
TYPE	オブジェクトのタイプ	*FLR, *DOC, *ALL	オプション
LEVEL	リストのレベル	*CURRENT, *ALL	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

[トップ](#)

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

その監査値を表示する文書またはフォルダーの名前を指定します。

*ALL 指定されたフォルダーのすべてのDLOの監査レベルが表示されます。

***ROOT**

*ROOTレベル・フォルダーの監査レベルが表示されます。*ROOTレベル・フォルダーには、新しいすべての第1レベルのフォルダーの省略時の監査レベルが入っています。

***SYSOBJNAM**

システム・オブジェクト名 (**SYSOBJNAM**)パラメーターに指定されたシステム・オブジェクト名をもつ文書またはフォルダーの監査レベルが表示されます。

名前 文書ライブラリー・オブジェクトを指定し、その監査レベルが表示されます。

[トップ](#)

フォルダー (FLR)

文書ライブラリー・オブジェクトが入っているフォルダーを指定し、その監査レベルが表示されます。

***NONE**

文書またはフォルダーはフォルダー中に入っていません。

***ANY** システム上のすべてのDLOの監査レベルが表示されます。

***ROOT**

すべての第1レベルのフォルダーの監査レベルが表示されます。

名前 文書ライブラリー・オブジェクトが入っているフォルダーの名前を指定して、その監査レベルが表示されます。

[トップ](#)

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

システム・オブジェクト名を指定します。このパラメーターが有効なのは、DLO(*SYSOBJNAM)が指定された場合だけです。

名前 表示するフォルダーまたは文書のシステム・オブジェクト名を指定してください。10桁の文字を指定しなければなりません。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力がどこに送られるかを指定します。

***** 出力は表示されるか（対話式ジョブで要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブで要求された場合）。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

***OUTFILE**

出力は、出力を受け取るファイル (**OUTFILE**)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

[トップ](#)

オブジェクトのタイプ (TYPE)

FLRパラメーターに指定されたフォルダーに入っている文書またはフォルダーを表示するかどうかを指定します。このパラメーターが有効なのは、FLR(NAME)が指定されて、その他のすべての場合の省略時の値として使用される場合です。DLO(*ALL) FLR(*ANY)が指定された場合には、TYPE(*ALL)が使用されます。DLO(*ALL) FLR(*ROOT)が指定された場合には、TYPE(*FLR)が使用されます。DLO(*ALL) FLR(*NONE)が指定された場合には、TYPE(*DOC)が使用されます。コマンドに単一オブジェクトが指定された場合には、TYPEパラメーターは無視されます。

***FLR** 指定されたフォルダーに入っているフォルダーが表示されます。

***DOC** 指定されたフォルダーに入っている文書が表示されます。

***ALL** 指定されたフォルダーに入っている文書およびフォルダーが表示されます。

[トップ](#)

リストのレベル (LEVEL)

指定されたフォルダーでネストされたレベルの文書およびフォルダーを表示するかどうかを指定します。

***CURRENT**

現行レベルの文書およびフォルダーだけが出力に入れます。

***ALL** すべてのレベルの文書およびフォルダーだけが出力に入れます。

[トップ](#)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

*FIRST

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。そのメンバーがすでに存在している場合には、既存のメンバーの終わりに新しいレコードを追加するか、あるいはそのメンバーを消去して新しいメンバーを追加するオプションがあります。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

*REPLACE

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

[トップ](#)

例

例1: 監査レベルの表示

```
DSPDLOAD  DLO(MYDOC)  FLR(MYFLR)
```

このコマンドは、フォルダーMYFLR内の文書MYDOCの監査レベルを表示します。

例2: 監査レベルの印刷

```
DSPDLOAD  DLO(*ALL)  FLR(*ROOT)  OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、システム上のすべての第1レベル・フォルダーの監査レベルを印刷します。

例3: 監査レベルのリスト

```
DSPDLOAD  DLO(*ALL)  FLR(*ANY)
           OUTPUT(*OUTFILE)  OUTFILE(MYLIB/MYFILE)
```

このコマンドは、システム上のDLOのすべての監査レベルをライブラリーMYLIB内の出力ファイルMYFILEにリストします。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF89B0

リストの出力時にエラーが起こった。

CPF89B1

エラーが起こったので監査レベルが表示されない。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

DLO権限の表示 (DSPDLOAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト権限表示(DSPDLOAUT)コマンドにより、オブジェクトが認可されたユーザーおよびそのユーザーに割り当てられている権限のリストの表示だけを行うことができます。

指定した文書またはフォルダーについて次の情報が表示されます。

- 文書またはフォルダーの名前。
- 文書またはフォルダーの所有者。
- 1次グループの名前 (ある場合)
- 文書またはフォルダーを保護している権限リスト (存在する場合) の名前。
- 文書またはフォルダーの個人状況。
- 文書またはフォルダーに対して認可されている特定のユーザーのリスト。
- 特定権限をもたず(*PUBLIC)、権限リスト上になく、またそのユーザー・グループが文書またはフォルダーに対して何の権限ももっていないユーザーに与えられている権限。

制約事項:

- 文書またはフォルダーに関する権限情報を表示するためには、ユーザーは、その文書またはフォルダーに対して少なくとも使用(*USE)権限が必要です。
- ユーザーがそのオブジェクトに対して全(*ALL)権限をもっているか、あるいは全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限をもっている場合には、そのユーザーには全権限情報が表示されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	文字値, *SYSOBJNAM, *ROOT	必須, 定位置 1
FLR	フォルダー	文字値, *NONE	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	名前	オプション

トップ

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

表示する文書またはフォルダーの名前を指定します。

***SYSOBJNAM**

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)パラメーターで指定されたシステム・オブジェクト名が表示されます。

***ROOT**

*ROOTフォルダーの共通認可の値が表示されます。

名前 表示する文書またはフォルダーのユーザー割り当て名を指定してください。最大12桁を指定することができます。

トップ

フォルダー (FLR)

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)パラメーターに指定されたオブジェクトが入っているフォルダーを指定します。

***NONE**

フォルダー名は指定されません。名前がDLOパラメーターに指定されて、オブジェクトがフォルダーに入っている場合には、ここで*NONEを指定することはできません。

名前 オブジェクトが入っているフォルダーの名前を指定してください。オブジェクトの入っているフォルダーがさらに別のフォルダーに入っている場合には、この名前を一連のフォルダー名から構成することができます。最大63桁を指定することができます。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
出力は、対話式ジョブによって要求された場合には、要求元のワークステーションに表示されません。これが対話式ジョブでない場合には、出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

フォルダーまたは文書のシステム・オブジェクト名を指定します。

名前 表示するフォルダーまたは文書のシステム・オブジェクト名を指定してください。10桁の文字を指定しなければなりません。

トップ

例

DSPDLOAUT DLO(DOCA) FLR(MYFLR) OUTPUT(*PRINT)

このコマンドは、このコマンドのユーザーにはフォルダーMYFLR内のDOCAに対する*ALL権限があると、フォルダーMYFLR内のDOCAについてのすべての許可ユーザーおよびその権限のすべてのリストを印刷します。このコマンドは、このコマンドのユーザーに*USE権限があると、ユーザーの権限だけを印刷します。アクセス・コードも表示されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8A77

フォルダー&1が見つからない。

CPF8A78

フォルダー&1は使用中である。

CPF8A79

フォルダー&1は論理的に損傷している。

CPF8A80

フォルダー&1の文書&2は使用中である。

CPF8A82

文書&2がフォルダー&1に見つからない。

CPF8A88

フォルダー&1の文書&2でこの操作を使用することはできない。

CPF8A89

フォルダー&1の文書&2が論理的に損傷している。

CPF9009

システムには&2のファイル&1のジャーナルが必要である。

CPF9073

文書ライブラリー・オブジェクト&1の機密保護の表示または変更権限がない。

CPF9079

ユーザー・プロファイル&1の文書記述のGET要求は正常に行なわれなかった。

CPF908A

要求元&1は登録されていない。

CPF908B

文書ライブラリー・オブジェクトが見つからない。

CPF909A

フォルダー&1の文書&2に損傷がある。

CPF9095

フォルダー&1に損傷がある。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

[トップ](#)

DLO名の表示 (DSPDLONAM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト名表示(DSPDLONAM)コマンドは、ファイル済み文書、フォルダー、または配布文書名の代替書式を表示または印刷するために使用されます。

制約事項:

- 名前の各種形式を表示するためには、ユーザーは、ファイル済み文書またはフォルダーに対して使用 (*USE)権限をもっていなければなりません。
- 配布文書の名前の各種形式を表示するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	文字値, *DOCID, *LADNTSP, *SYSOBJNAM	必須, 定位置 1
FLR	フォルダー	文字値, *NONE	オプション, 定位置 2
DOCID	文書識別コード	文字値, *NONE	オプション
LADNTSP	LADNタイム・スタンプ	0000000000000001-FFFFFFFFFFFFFFFF, *NONE	オプション
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	名前, *NONE	オプション
OBJCLS	オブジェクト・クラス	*DOC, *FLR, *DST	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

代替名が表示または印刷される文書またはフォルダーを指定します。

これは必須パラメーターです。

*DOCID

文書またはフォルダーは、DOCIDパラメーターに指定されたそのライブラリー割り当て文書名を使用して識別されます。フォルダー (FLR)パラメーターは*NONEでなければなりません。

*LADNTSP

文書またはフォルダーは、LADNTSPパラメーターに指定されたそのライブラリー割り当て文書名 (LADN)タイム・スタンプを使用して識別されます。FLRパラメーターは*NONEでなければなりません。

*SYSOBJNAM

文書またはフォルダーは、SYSOBJNAMパラメーターに指定されたそのシステム・オブジェクト名を使用して識別されます。FLRパラメーターは*NONEでなければなりません。

名前 文書またはフォルダーのユーザー割り当て名を指定してください。指定された文書またはフォルダーが入っているフォルダーはFLRパラメーターに指定されます。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

フォルダー (FLR)

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)パラメーターに指定された文書またはフォルダーが入っているフォルダー・パスを指定します。DLOパラメーターが*DOCID, *LADNTSP,または*SYSOBJNAM である場合には、FLRパラメーターは*NONEでなければなりません。

*NONE

文書またはフォルダーがフォルダー内に入っていないか、あるいはDOCID, LADNTSP,またはSYSOBJNAMパラメーターを使用して識別されます。

名前 DLOパラメーターに指定された文書またはフォルダーが入っているフォルダーの名前を指定してください。

[トップ](#)

文書識別コード (DOCID)

文書のライブラリー割り当ての名前を指定します。これは、文書が作成された時にシステムによって文書に割り当てられた名前です。ローカル・システム外にファイルされた文書はライブラリー割り当て文書名だけをもっています。ライブラリー割り当て文書名は、文書ライブラリーQUERY(QRYDOCLIB)コマンドを使用して、または文書ファイル(FILDOC)コマンドから戻されたメッセージによって、判別することができます。

ライブラリー割り当て文書名の長さは次の形式で24桁です。

YYYYMMDDHHMNSSHSNSNSNSN

ここで

YYYY =年
MM =月
DD =日
HH =時
MN =分
SS =秒
HS = 100分の1秒

SNSNSNSN =システム名

*NONE

オブジェクトのライブラリー割り当て文書名は指定されません。

名前 文書またはフォルダー・オブジェクトのライブラリー割り当て名を指定します。ライブラリー割り当て文書名は、文書ライブラリーQUERY(QRYDOCLIB)コマンドを使用して、あるいは文書ファイル(FILDOC)またはその他のコマンドから戻されたメッセージによって識別することができます。

LADNタイム・スタンプ (LADNTSP)

文書またはフォルダー・オブジェクトのライブラリー割り当て文書名(LADN)タイム・スタンプを指定します。LADNタイム・スタンプが指定されるのは、文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)パラメーターに*LADNTSPが指定された場合だけです。

*NONE

オブジェクトのLADNタイム・スタンプは指定されません。

タイム・スタンプ

文書ライブラリー・オブジェクトのLADNタイム・スタンプを指定します。

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

文書またはフォルダー・オブジェクトのシステム・オブジェクト名を指定します。システム・オブジェクト名が指定されるのは、文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)パラメーターに*SYSOBJNAMが指定された場合だけです。

*NONE

オブジェクトのシステム・オブジェクト名は指定されません。

名前 文書ライブラリー・オブジェクトのシステム・オブジェクト名を指定します。

オブジェクト・クラス (OBJCLS)

見つけるオブジェクトのクラスを指定します。

***DOC** 指定されるDLOはファイル済み文書です。

***FLR** 指定されるDLOはフォルダーです。

***DST** 指定されるDLOは配布文書です。

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスプール出力で印刷するかを指定します。

*
- 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスプール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

例

DSPDLONAM DLO(MYDOC) FLR(MYFLR) OBJCLS(*DOC)

このコマンドは、文書MYDOCをフォルダーMYFLR内で検索し、文書の名前の形式をすべて表示します。ジョブをバッチ・モードで実行中の場合は、情報は印刷されて表示されません。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8AC0

&1コマンドが正しく実行されなかった。

CPF8AC1

文書の配布は認可されていない。

CPF8A75

フォルダー&1のアクセスが認可されていない。

CPF8A77

フォルダー&1が見つからない。

CPF8A82

文書&2がフォルダー&1に見つからない。

CPF8A83

フォルダー&1の文書&2のアクセスが認可されていない。

トップ

文書表示 (DSPDOC)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

THE DISPLAY DOCUMENT (DSPDOC) COMMAND ALLOWS YOU TO DISPLAY A DOCUMENT WITHIN A SPECIFIC FOLDER.

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DOC	文書	文字値, <u>*PRV</u>	オプションル, 定位置 1
FLR	フォルダー	文字値, <u>*PRV</u>	オプションル, 定位置 2
ALWPRT	印刷可能	<u>*YES</u> , *NO	オプションル, 定位置 3

トップ

文書 (DOC)

SPECIFIES THE NAME OF THE DOCUMENT TO BE DISPLAYED.

*PRV THE NAME USED IN THE PREVIOUS SESSION IS USED.

DOCUMENT-NAME

SPECIFY THE NAME OF THE DOCUMENT TO DISPLAY.

トップ

フォルダー (FLR)

SPECIFIES THE NAME OF THE FOLDER THAT CONTAINS THE DOCUMENT TO BE DISPLAYED.

*PRV THE NAME USED IN THE PREVIOUS SESSION IS USED.

FOLDER-NAME

SPECIFY THE NAME OF THE FOLDER THAT CONTAINS THE DOCUMENT TO BE DISPLAYED.

トップ

印刷可能 (ALWPRT)

SPECIFIES WHETHER THE USER IS ABLE TO PRINT A DOCUMENT WHILE VIEWING IT.

***YES** THE USER CAN PRINT A DOCUMENT WHILE VIEWING IT.

***NO** THE USER CANNOT PRINT A DOCUMENT WHILE VIEWING IT.

[トップ](#)

例

DSPDOC DOC(MYDOC) FLR(MYFLR)

THIS COMMAND DISPLAYS THE DOCUMENT MYDOC IN FOLDER MYFLR.

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

OFCFFFD

損傷のあるオブジェクトが見つかった。

OFC8EA3

OFFICEVISION AS/400用エディターは、画面に展開するために使用可能でない。

OFC80B5

OS/400用OFFICEVISIONエディターがシステムで使用可能でない。

OFC800A

フォルダーは使用中である。

OFC800B

文書&1は使用中である。

OFC800F

表示装置はテキストをサポートしていない。

OFC8006

フォルダーが見つからない。

OFC8007

文書&1がフォルダー中に見つからない。

OFC8008

フォルダーについての要求は認められない。

OFC8009

文書&1についての要求は認められない。

OFC801A

文書はディスケット、テープ、または保管ファイルに保管されている。

OFC801D

最大数のテキスト・セッションが活動状態である。

OFC801E

DWエディターまたはテキスト援助機能をロードすることができない。

OFC8010

文書&1を処理することができない。

OFC8011

文書&1は回復する必要がある。

OFC8016

文書&1のチェックが終了した。

OFC8018

文書&1が空である。

OFC8019

必要なモジュールがシステム上にない。

OFC802E

P Cエディターの要求が正常に実行されなかった。

OFC8951

データ名を指定しなければならない。

OFC8952

タイプは&9または&10でなければならない。

OFC8953

データ&9が存在していない。

OFC8954

表示端末装置にグラフィックス機能がない。

OFC8955

イメージを表示するためには、P Cテキスト援助機能が必要である。

OFC9811

フォルダーを再利用する必要がある。

[トップ](#)

配布リスト表示 (DSPDSTL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布リスト表示(DSPDSTL)コマンドは、配布ディレクトリーに入っている配布リストの出力ファイルを表示、印刷、または作成するために使用されます。このコマンドから配布リストを作成したり削除したりすることはできません。また、既存のリストを更新することもできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LSTID	リスト識別コード	単一値: <u>*ALL</u> その他の値: 要素リスト	オプション、位置 1
	要素 1: リスト識別コード	文字値	
	要素 2: リスト識別コード修飾子	文字値	
OWNER	所有者	名前, <u>*ALL</u> , *CURRENT	オプション、位置 2
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT, *OUTFILE	オプション、位置 3
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	<u>*REPLACE</u> , *ADD	
DETAIL	詳細	<u>*BASIC</u> , *FULL	オプション
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: <u>*SYSVAL</u> , *DEV その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

[トップ](#)

リスト識別コード (LSTID)

表示、印刷、またはデータベース・ファイルに書き出す配布リストを指定します。

***ALL** システム配布ディレクトリー中のすべての配布リストが出力に組み込まれます。項目はリストIDのアルファベット順に提供されます。出力が印刷リストまたは出力ファイルの場合には、各リスト中の項目のリストの配布リストのリストが出力であるかどうかをDETAILパラメーターが決定します。

指定できるリストIDの値は次の通りです。

リストID

配布リストのリストID (ID)を指定してください。

指定できるリスト修飾子の値は次の通りです。

リストID修飾子

配布リストのリストID修飾子を指定してください。

注: 配布リストIDはIDと修飾子の2つの部分から成り、両者の間は少なくとも1つのスペースで区切られます。小文字を指定した場合には、システムが大文字に変換します。

2部分から成るリストIDの命名規則はユーザーIDおよびアドレスの規則と同じです。規則の完全な説明については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

トップ

所有者 (OWNER)

表示、印刷、またはデータベース・ファイルに書き込む配布リストの所有者を指定します。

***ALL** すべてのユーザー・プロファイルが所有する配布リストが出力用に送られます。

***CURRENT**

現行ユーザーが所有する配布リストが出力用に送られます。

ユーザー・プロファイル名

出力用に送る配布リストを所有する所有者のユーザー・プロファイルを指定してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドの出力が要求元のワークステーションに表示されるか、ジョブのスプール出力で印刷されるか、あるいはデータベース・ファイルに書き込まれるかを指定します。

***:** 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。コマンドがバッチ・ジョブの一部として実行される場合には、出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

***PRINT:**

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

***OUTFILE:**

出力は、OUTFILEパラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

画面の出力を送るデータベース・ファイルの名前を指定します。出力ファイルが存在していない場合に、このコマンドは、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルを作成します。ライブラリーが指定されていない場合には、データベース・ファイルはQGPLに作成されます。

ファイルが作成される場合には、テキストは'DSPDSTLによって作成されるOUTFILE'で、ファイルに対する共通認可は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じです。ライブラリーの作成権限を表示するためには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

データベース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

データベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

データベース・ファイル名

画面の出力を受け取るデータベース・ファイルの名前を指定してください。データベース・ファイルが*LIBLで修飾されているが、システムがそのファイルを見つけることができない場合には、そのファイルはユーザーの省略時のライブラリー（指定されている場合）に作成されます。省略時のライブラリーが指定されていない場合には、そのファイルはQGPLに作成されます。

注: 新しいファイルを作成する場合には、システム・ライブラリーQSYS中の様式名OSDSTLのシステム・ファイルQAOSDSTOがモデルとして使用されます。

トップ

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

画面の出力の送信先のデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。メンバーがすでに存在している場合には、システムはこのパラメーターの2番目の部分を使用して、新しいレコードを追加する前にメンバーを消去するかどうかを判別します。メンバーが存在せず、メンバー名も指定されていない場合には、システムは、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されているファイルの名前でメンバーを作成します。出力ファイル・メンバー名が指定されていて、そのメンバーが存在していない場合には、システムがそれを作成します。

出力を受け取るメンバーに指定できる値は次の通りです。

***FIRST**

出力ファイルの最初のメンバーが出力を受け取ります。

メンバー名

出力を受け取る出力ファイル・メンバーの名前を指定してください。

レコードの置き換えまたは追加に指定できる値は次の通りです。

***REPLACE**

出力ファイル・メンバーの中に現在入っているデータが、新しいデータに置き換えられます。このメンバーは、ファイルのオープン時に消去されます。

***ADD** メンバーは消去されません。新しいデータがデータベース・ファイル・メンバーに追加されます。

トップ

詳細 (DETAIL)

印刷するかまたはデータベース・ファイルに向ける明細の量を指定します。出力 (OUTPUT)パラメーターに*が指定されているか、あるいはリスト識別コード (LSTID)パラメーターに特定のリストIDが指定されている時には、このパラメーターは使用されません。LSTIDパラメーターに*ALLが指定されている場合には、このパラメーターは、すべての配布リストのリスト、またはすべての配布リストのすべての項目のリストのいずれを出力として使用するかを決定するために使用されます。

***BASIC**

リストまたはデータベース・ファイル内の出力は、ディレクトリーに入っているすべての配布リストのリストだけを含みます。

***FULL**

リストまたはデータベース・ファイル内の出力は、ディレクトリーに入っているすべての配布リストのすべての項目を含みます。

トップ

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値として入力するデータの文字ID (図形文字セットおよびコード・ページ) を指定します。

注:

- ユーザーIDおよびアドレス、システム名およびグループ、およびX.400 O/Rパラメーターだけが、このパラメーターで指定された図形文字セットID (GCID)に変換されます。指定したその他のパラメーター値はすべて、入力されたままの状態に記憶されます。GCIDの値はこれらと一緒に記憶されます。
- このコマンドを対話式に実行した場合には、表示装置記述から省略時のGCID値が取られます。このコマンドをバッチで実行した場合には、省略時のGCID値はQCHRID システム値から取られます。このパラメーターに特定の文字セットおよびコード・ページを指定することによって、これらの値を一時変更することができます。

単一値

***SYSVAL**

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

***DEV D**

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1から32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1から32767

使用するコード・ページを指定してください。

注:

- ユーザーIDおよびアドレス、システム名およびグループ、およびX.400 O/Rパラメーターだけが、このパラメーターで指定された図形文字セットID (GCID)に変換されます。指定したその他のパラメーター値はすべて、入力されたままの状態に記憶されます。GCIDの値はこれらと一緒に記憶されます。
- このコマンドを対話式に実行した場合には、表示装置記述から省略時のGCID値が取られます。このコマンドをバッチで実行した場合には、省略時のGCID値はQCHRID システム値から取られます。このパラメーターに特定の文字セットおよびコード・ページを指定することによって、これらの値を一時変更することができます。

[トップ](#)

例

例1: リストの表示

```
DSPDSTL  LSTID(*ALL)  OUTPUT(*)
```

このコマンドは、ディレクトリー内の配布リストすべてのリストを表示します。パラメーターなしでDSPDSTLを指定すると、同じ処置になります。

例2: リストの印刷

```
DSPDSTL  LSTID(DEPT48K DISTLIST)  OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、配布リストDEPT48K DISTLIST中のすべての項目のリストを印刷します。詳細パラメーターは特定のリストを印刷するときには使用されません。

例3: 出力のデータベース・ファイルへの送信

```
DSPDSTL  OUTPUT(*OUTFILE)  
          OUTFILE(ALLLISTS)  OUTMBR(*FIRST *REPLACE)  
          DETAIL(*BASIC)
```

このコマンドは、ディレクトリーに入っている配布リストごとに1レコードをデータベース・ファイルALLLISTSに書き込みます。このソース・ファイルがライブラリー・リストに見つからない場合には、ライブラリーが指定されていないのでQGPLライブラリーに作成されます。

例4: 配布リストリスト所有者の出力のデータベース・ファイルへの送信

```
DSPDSTL  OWNER(ABSMITH)  OUTFILE(DISTLIST/ABSMITH)  
          OUTMBR(*FIRST *REPLACE)  DETAIL(*BASIC)
```

このコマンドは、ユーザー・プロファイルABSMITHが所有している配布リストごとに1レコードを、ライブラリーDISTLIST内のデータベース・ファイルABSMITHに書き込みます。このソース・ファイルがライブラリーDISTLIST内に見つからない場合には、作成されます。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9052

リストID &1 &2を見つけることができない。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEV D), DOCCHRID(*DEV D)を使用することはできない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

配布ログ表示 (DSPDSTLOG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布ログ表示(DSPDSTLOG)コマンドは、システム・ネットワーク体系配布サービス(SNADS)ログに対する便利なインターフェースを提供します。SNADSログ (QSNADSジャーナル) には、システムで実行されたSNADS操作を追跡する項目が入っています。これらの操作には、配布の送信、受信、および経路指定、そして構成変更があります。

このコマンドは、必要な情報を簡単にアクセスできる広範囲の選択基準を提供します。この選択基準には、期間、機能タイプ (ルーターや送信/受信プログラムなど)、項目タイプ (正常、エラー、および構成など) やジョブ名があります。任意の数の選択パラメーターを入力することができ、結果の出力は、入力されたすべてのパラメーターに基づいて累積されます。

指定した入力パラメーターによって、表示出力と印刷出力の両方を作成することができます。ユーザーが表示出力を要求すると、選択基準と一致するすべての項目の要約が表示されます。要約表示には、機能タイプ、項目タイプ、ロギングの日付時刻、ジョブ名、および開始ユーザーIDなどの基本情報が入ります。要約表示から、任意の項目を選択して、そのログ項目の詳細を表示することができます。詳細表示によって、特定のログ項目のより明確な情報を得ることができます。ユーザーが印刷出力を要求すると、選択した各ログ項目の詳細な印刷出力を作成することができます。

ユーザーは適切な選択基準を指定して、次のタイプの情報を調べることができます。

- すべてのテーブルまたは特定のテーブルに対して行われた構成変更、その時刻、および実行した担当者
- エラー項目、あるいは経路指定または送信 (あるいはその両方) が実行された配布と関連した構成変更
- すべての機能または特定機能のエラー項目 (経路指定エラーなど) のリスト
- 選択された時間間隔中に受信、経路指定、または送信されたすべての配布
- 特定の送信元または受信先ジョブの活動

制約事項:

1. このコマンドは、共通*EXCLUDE権限で出荷されます。
2. このコマンドを使用して、12 X 80サイズのワークステーション(*DS2)またはコンソール(*DS1)で情報を表示することはできません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PERIOD	ログ出力の期間	要素リスト	オプション
	要素 1:	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 開始日付	日付, <u>*CURRENT</u> , *BEGIN	
	要素 2:	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 終了日付	日付, <u>*CURRENT</u> , *END	
FNCTYP	機能タイプ	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 8 回の繰り返し): *RCV, *RTR, *SND, *CFG, *OPR, *ORG, *ARV, *SYS	オプション
ENTTYP	項目タイプ	単一値: <u>*ALLDST</u> , *ALL その他の値 (最大 5 回の繰り返し): *NRM, *ERR, *RTG, *DSQ, *SYS	オプション
ORGUSRID	起点ユーザーID	要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値, <u>*ALL</u> , *BLANK	
	要素 2: アドレス	文字値, <u>*ALL</u> , *BLANK	
ORGSYSNAME	起点システム名	要素リスト	オプション
	要素 1: システム名	文字値, <u>*ALL</u>	
	要素 2: システム・グループ	文字値, <u>*ALL</u> , *BLANK	
JOB	ジョブ名	単一値: <u>*ALL</u> その他の値: 修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
RCVRNG	ジャーナル・レシーバーの範囲	単一値: <u>*CURRENT</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 開始ジャーナル・レシーバー	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 開始ジャーナル・レシーバー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
	要素 2: 終了ジャーナル・レシーバー	単一値: <u>*CURRENT</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 終了ジャーナル・レシーバー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT	オプション

トップ

ログ出力の期間 (PERIOD)

ログ項目が表示される期間を指定します。このパラメーターにはそれぞれ2つの値からなる2つのリストが含まれており、次の値をコーディングすることができます。

開始時刻：開始時刻の指定には次のいずれかが使用されます。

***AVAIL**

開始日から終了日までのログ項目が表示されます。

開始時刻

指定した開始日における、ログ項目を表示したい開始時刻を指定してください。時刻は、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4桁または6桁のストリング（HHMMまたはHHMMSS）を指定してください。ここで、HH =時、MM =分、SS =秒です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ジョブで指定した時刻区切り記号を時、分、および秒の区切りに使用して、5桁または8桁のストリングを指定します。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

開始日付：開始日付の指定には、次のいずれかを使用します。

***CURRENT**

現在日に使用可能なログ項目、および指定された開始時刻と終了時刻（指定されている場合）の間に使用できるログ項目が表示されます。

***BEGIN**

ログの始めからの項目が表示されます。*BEGINを指定した場合には、開始時刻は無視されます

開始-日付

ログ項目が表示される開始日を指定してください。（システム日付の形式を使用しなければなりません。）

終了時刻：終了時刻の指定には次のいずれかが使用されます。

***AVAIL**

開始日から終了日までのログ項目が表示されます。

終了時刻

指定した終了日における、ログ項目の表示の終了時刻を指定してください。時刻の指定方法の詳細については、このパラメーターの説明の中の開始時刻の項を参照してください。

終了日付:終了日付の指定には、次のいずれかを使用します。

***CURRENT**

現在日に使用可能なログ項目、および指定された開始時刻と終了時刻（指定されている場合）の間に使用できるログ項目が表示されます。

***END** ログの終りまでの項目が表示されます。*ENDを指定した場合には、終了時刻は無視されます。

終了日 表示したいログ項目の終了日を指定してください。（システム日付の形式を使用しなければなりません。）

トップ

機能タイプ (FNCTYP)

QSNADSジャーナルに対する項目が作成された時に実行されていたSNADS機能を指定します。省略時の値の*ALLが指定されていない場合には、最大8つの機能を指定することができます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

考えられる値は、次の通りです。

- ***ALL** ログ項目を作成したすべてのSNADS機能が指定されます。
- ***RCV** SNADS受信機能を指定します。
- ***RTR** SNADSルーターを指定します。
- ***SND** SNADS送信側機能を指定します。
- ***ORG** SNADS発信元機能を指定します。
- ***ARV** SNADS到着機能を指定します。
- ***CFG** SNADS構成機能が指定されます。このパラメーターに*CFGを指定した場合には、**ユーザー識別コードプロンプト** (ORGUSRIDパラメーター) および**システム・グループプロンプト** (ORGSYSNAMEパラメーター) を指定することはできません。
- ***OPR** SNADS操作機能を指定します。
- ***SYS** SNADSシステム機能が指定されます。

[トップ](#)

項目タイプ (ENTTYP)

表示されるログ項目のタイプを指定します。値*ALLまたは*ALLDSTが指定されていない場合には、最大5つの項目タイプを指定することができます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

考えられる値は、次の通りです。

- ***ALLDST**
*SYSを除くすべてのログ項目タイプが表示されます。
- ***ALL** すべてのログ項目タイプが表示されます。
- ***NRM** 正常な (すなわち、エラーのない) ログ項目が表示されます。
- ***ERR** エラー・ログ項目が表示されます。
- ***RTG** 経路指定テーブルのログ項目または2次システム名のログ項目が表示されます。
- ***DSQ** 配布待ち行列のログ項目が表示されます。
- ***SYS** QSNADSジャーナル項目が表示されます。

[トップ](#)

起点ユーザーID (ORGUSRID)

ログされた配布を開始したユーザーIDおよびアドレスを指定します。このパラメーターによって、指定したIDまたはアドレスをもつユーザーによって開始された配布にもとづいてログされた項目だけを表示または印刷することができます。ユーザーID およびアドレスは、ジョブのコード化文字セット識別コード (CCSID)を使用して、文字セットおよびコード・ページ'697 500'に変換されます。

指定できるユーザーIDの値は次の通りです。

***ALL** 開始元のユーザーIDに関係なく、すべてのログ項目が表示されます。

***BLANK**

開始元のユーザーIDがブランクとなっているログ項目 (SNADS状況配布の場合のような) だけが表示されます。

ユーザーID

表示したいログ項目に対応する開始元ユーザーIDを指定してください。

指定できるアドレスの値は次の通りです。

***ALL** 開始元のアドレスに関係なく、すべてのログ項目が表示されます。

***BLANK**

開始元のアドレスがブランクとなっているログ項目 (SNADS状況配布の場合のような) だけが表示されます。

アドレス

表示したいログ項目に対応する開始元のアドレスを指定してください。

[トップ](#)

起点システム名 (ORGSYSNAME)

ログされた配布の開始元システムの名前およびグループ名を指定します。このパラメーターによって、指定したシステムまたはグループによって開始された配布にもとづいてログされた項目だけを表示または印刷することができます。

AS/400,システム/38,およびシステム/36は、システム・グループを指定しません。これらのシステムからの配布の開始元システム・グループ名は常にブランクとなります。

名前およびグループは、ジョブのコード化文字セット識別コード (CCSID)を使用して、文字セットおよびコード・ページ'697 500'に変換されます。

指定できるシステム名の値は次の通りです。

***ALL** 開始元システムに関係なく、すべてのログ項目が表示されます。

システム名

表示したいログ項目に対応する開始元システムの名前を指定してください。

指定できるグループ名の値は次の通りです。

***ALL** 開始元のシステム・グループ名に関係なく、すべてのログ項目が表示されます。

***BLANK**

開始元アドレスがブランクとなっているログ項目だけが表示されます。

システム・グループ名

表示したいログ項目に対応する開始元のシステム・グループ名を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

ログ項目を作成したSNADSジョブの名前を指定します。このパラメーターによって、指定したジョブによってログされた項目だけを表示または印刷することができます。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** 項目をログしたジョブに関係なく、すべての項目が表示されます。

ジョブ名 (ユーザー名 (ジョブ番号))

項目を作成する特定のSNADSジョブ名を指定します。

[トップ](#)

ジャーナル・レシーバーの範囲 (RCVRNG)

SNADSログを含むジャーナル・レシーバーを指定します。これによって、活動状態にないジャーナル・レシーバーに入っているSNADSログからの項目を表示することができます。

考えられる値は、次の通りです。

*CURRENT

現行のSNADSログが表示されます。

開始レシーバー名

開始レシーバー名 (ライブラリー名/開始レシーバー名) を指定してください。ジャーナル・レシーバーに保管されている、開始レシーバー名から終了レシーバー名までのSNADSログが表示されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ジャーナル・レシーバーを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

*CURLIB

ジャーナル・レシーバーを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーの名前を指定してください。

終了レシーバー名

終了レシーバー名 (ライブラリー名/終了レシーバー名) を指定してください。ジャーナル・レシーバーに保管されている、開始レシーバー名から終了レシーバー名までのSNADSログが表示されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ジャーナル・レシーバーを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

ジャーナル・レシーバーを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

- * 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

例

例1: 配布ログの印刷

```
DSPDSTLOG  OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、配布ログ情報をジョブの出力スパール待ち行列に送って印刷します。OUTPUT(*)が指定されていて、コマンドがワークステーションから入力された場合には、配布ログに関する情報はそのワークステーションに表示されます。

例2: SNADS配布ログの取得

```
DSPDSTLOG  ENTTYPE(*SYS)
```

このコマンドは、対話式ジョブの場合にはSNADS配布ログ項目をワークステーション表示装置に送って表示し、バッチ・ジョブの場合にはジョブのスパール出力で印刷します。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

[トップ](#)

配布サービス表示 (DSPDSTSRV)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布サービス表示(DSPDSTSRV)コマンドは、ローカル・システム用に定義された配布待ち行列、経路指定テーブル、または2次システム名テーブルを表示または印刷します。システム・ネットワーク体系サービス(SNADS)ネットワークの詳細は、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)に入っています。

注: このコマンドによって、SNADSネットワークを変更することはできません。ネットワークに対する変更は、配布サービス構成(CFGDSTSRV)コマンドを使用して実行することができます。

制約事項: システム名または配布待ち行列についてエラーを報告するメッセージは、内部的なシステム変換のために、ユーザーが入力したものと異なる文字を表示または印刷する可能性があります。

ワークステーションで使用される言語によって、システム名または配布待ち行列の内部値は、DSPDSTSRVコマンドで表示される文字と異なる場合があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	メニュー・オプション	*SELECT, 1, 2, 3	オプションル、定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプションル

トップ

メニュー・オプション (OPTION)

初期メニューをバイパスして直接2次画面に進むオプションを、配布サービス表示メニューで指定します。配布待ち行列、経路指定テーブル、または2次システム名テーブルのリストは、配布サービス表示メニューを表示しなくても指定することができます。

考えられる値は、次の通りです。

*SELECT

メニューはバイパスされません。配布サービス表示メニューからオプションが選択されます。

- 1 配布待ち行列機能が選択されます。この機能は、ユーザーのシステムに隣接するシステムのすべての配布待ち行列を識別します。
- 2 経路指定テーブル機能が選択されました。この機能は、配布待ち行列を経路指定できるSNADSネットワーク内の宛先システムに対して、明示の項目または省略時の項目を記述します。

- 3 2次システム名テーブルの機能が選択されます。この機能は、システムを識別するために使用されるすべての名前をリストします。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

- * 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

例

DSPDSTSRV OUTPUT(*PRINT)

このコマンドは、現行のSNADS構成状況を印刷します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF8802

配布待ち行列&1が見つからなかった。

CPF8805

システム名／グループの特殊値が許されていないか、あるいは正しく使用されていない。

CPF8806

システム名またはシステム・グループに値&1が正しくない。

CPF8807

QSNADSジャーナルの使用中にエラーが起こった。

CPF8808

SNADSがこれ以上の待ち行列スペースを割り振ることができない。

CPF8809

SNADS内部待ち行列でエラーが検出された。

CPF8813

項目が存在していない。

CPF8814

待ち行列&1が見つからない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

[トップ](#)

データの表示 (DSPDTA)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

制御言語(CL)コマンドDSPDTAはデータ・ファイルを表示します。ファイル中のデータを変更することはできません。

エラー・メッセージ: DSPDTA

*ESCAPEメッセージ

IDU0120

重要なテーブルが存在していない。コマンドは打ち切られました。

IDU0141

重要なテーブルが矛盾している。コマンドは打ち切られました。

IDU0167

&1.&2の使用は認可されていない。

IDU1205

プログラム&1.&2が見つからなかった。

IDU9001

&1コマンドでエラーが見つかった。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DFUPGM	DFUプログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: DFUプログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
FILE	データベース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: データベース・ファイル	名前, <u>*SAME</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, <u>*FIRST</u>	オプション, 定位置 3

[トップ](#)

DFUプログラム (DFUPGM)

データの対話式表示を制御するDFUプログラムの修飾名を指定します。

***LIBL** DFUはライブラリー・リストを使用して、指定されたプログラムを検索します。

***CURLIB**

現行ライブラリーを使用するためには、*CURLIBを入力してください。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。ライブラリー名を指定しない場合には、*LIBLが使用されます。

[トップ](#)

データベース・ファイル (FILE)

表示したいデータベース・ファイルを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

DFUはプログラムを定義するために使用されたファイルを使用します。

ファイル名

DFUに処理させたいデータ・ファイルの修飾名を入力します。

***LIBL** DFUはライブラリー・リストを使用して、指定されたプログラムを検索します。

***CURLIB**

現行ライブラリーを使用するためには、*CURLIBを入力してください。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。ライブラリー名を指定しない場合には、*LIBLが使用されます。

[トップ](#)

メンバー (MBR)

ファイル中の表示したいメンバーを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***FIRST**

DFUはファイルの最初のメンバーを表示します。

メンバー名

DFUに表示させたいメンバーの名前を入力します。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

IDU0120

重要なテーブルが存在していない。コマンドは打ち切られました。

IDU0141

重要なテーブルが矛盾している。コマンドは打ち切られました。

IDU0167

&1.&2の使用は認可されていない。

IDU1205

プログラム&1.&2が見つからなかった。

IDU9001

&1コマンドでエラーが見つかった。

[トップ](#)

データ域表示 (DSPDTAARA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データ域表示 (DSPDTAARA)コマンドは、指定されたデータ域の属性および値を表示します。表示される属性は次の通りです。すなわちデータ域のタイプおよび長さ、データ域があるライブラリー（ローカル・データ域、グループ・データ域、またはプログラム初期設定パラメーター・データ域に関連したライブラリーはありません）、およびデータ域を記述するテキストです。**制約事項:**

1. このコマンドを使用するには、データ域に対する使用(*USE)権限と、ライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。ローカル・データ域、グループ・データ域、またはプログラム初期設定パラメーター・データ域に必要な特定権限はありません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DTAARA	データ域	単一値: *LDA, *GDA, *PDA その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: データ域	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2
OUTFMT	出力形式	*CHAR, *HEX	オプション
SYSTEM	システム	*LCL, *RMT	オプション

トップ

データ域 (DTAARA)

属性および値が表示されるデータ域の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

単一値

***LDA** ローカル・データ域が表示されます。ローカル・データ域(*LDA)は、長さ1024バイトの文字データ域です。このデータ域は自動的にユーザーのジョブに関連付けられ、別のジョブからアクセスすることはできません。

***GDA** このジョブがグループ・ジョブの場合には、グループ・データ域が表示されます。このデータ域は自動的にグループと関連付けられ、そのグループの外部のジョブからアクセスすることはできません。この文字データ域の長さは512バイトです。

***PDA** プログラム初期設定パラメーター・データ域が表示されます。この値は、事前開始ジョブの場合にだけ有効です。このデータ域の長さは2000バイトです。

修飾子1: データ域

名前 データ域の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 データ域があるライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*** _** 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

出力形式 (OUTFMT)

データ域の値が表示される形式を指定します。表示できない文字の16進数値を表示するためには、文字データ域の文字表現と16進数表現の両方を表示することができます。

***CHAR**

出力は文字形式で示されます。

***HEX** 出力は、16進数形式と文字形式の両方で示されます。この値は、文字データ域の場合にだけ有効です。

[トップ](#)

システム (SYSTEM)

提供される情報がローカル・システム(*LCL)上のデータ域にあるか、リモート・システム(*RMT)上にあるかを指定します。

***LCL** 表示されるデータは、ローカル・システムのデータ域に関するものです。

***RMT** 表示されるデータは、正常に出されたデータ域作成 (CRTDTAARA)コマンドのRMTDTAARAパラ

メーターに名前が指定されたりリモート・データ域からのものです。このデータを表示するためには、リモート・データ域の名前ではなく、CRTDTAARAコマンドで作成されたデータ域の名前を指定してください。

[トップ](#)

例

例1: 16進数および文字形式での出力の表示

DSPDTAARA DTAARA(HEXDATA) OUTPUT(*) OUTFMT(*HEX)

ユーザーが適切な権限を持っている場合には、データ域HEXDATAの値および属性が表示されます。文字表記と16進数表記の両方が表示されます。

例2: 文字形式での出力の表示

DSPDTAARA DTAARA(TIME) OUTPUT(*)

ユーザーが適切な権限を持っている場合には、データ域TIMEの値および属性が表示されます。データ域を見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1015

&2にデータ域&1が見つからない。

CPF1016

&2のデータ域&1に対する権限がない。

CPF1021

データ域&2のライブラリー&1が見つからない。

CPF1022

ライブラリー&1データ域&2に対する権限がない。

CPF104A

SYSTEM(*RMT)をライブラリー&2のデータ域&1で使用することはできない。

CPF1046

ジョブがグループ・ジョブでないので、DTAARA(*GDA)は正しくない。

CPF1048

ライブラリー&2のデータ域&1のOUTFMT(*HEX)が正しくない。

CPF1063

ライブラリー&2のデータ域&1を割り振ることができない。

CPF1067

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF1072

ジョブが事前開始ジョブでないので、DTAARA(*PDA)は正しくない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

データ・ディクショナリー表示 (DSPDTADCT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データ・ディクショナリー表示(DSPDTADCT)コマンドにより、ユーザーはフィールド定義、レコード様式定義、あるいはデータ・ディクショナリー内のファイル定義の内容を表示または印刷することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DTADCT	データ・ディクショナリー	名前	必須, 定位置 1
DFN	定義	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション
DFNTYPE	定義タイプ	<u>*FILE</u> , *RCDFMT, *FLD	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション
FILEINF	ファイル情報	<u>*BASIC</u> , *DETAIL, *EXTENDED, *ALL, *NONE	オプション
RCDFMTINF	レコード様式情報	<u>*BASIC</u> , *EXTENDED, *ALL, *NONE	オプション
FLDINF	フィールド情報	<u>*BASIC</u> , *DETAIL, *EXTENDED, *ALL, *NONE	オプション
CRTDATE	作成日	日付, <u>*FIRST</u>	オプション

[トップ](#)

データ・ディクショナリー (DTADCT)

表示または印刷する定義が含まれているデータ・ディクショナリーの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

定義 (DFN)

表示または印刷する定義の名前を指定します。

*ALL 定義タイププロンプト (DFNTYPEパラメーター) に指定されたタイプの定義がすべて表示または印刷されます。

定義名 表示または印刷する定義名を指定します。

総称*定義名

表示または印刷する定義の総称名を指定します。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称オブジェクト名が指定された場合には、総称名と同じ接頭部を持つ名前のすべての定義が表示または印刷されます。

定義タイプ (DFNTYPE)

処理する定義のタイプを指定します。

***FILE** ファイル定義が表示または印刷されます。この値は、**ファイル情報**プロンプト (FILEINFパラメーター) に*NONEが指定されている場合には無効です。

***FLD** フィールド定義が表示または印刷されます。この値は、**フィールド情報**プロンプト (FLDINFパラメーター) に*NONEが指定されている場合には無効です。

*RCDFMT

レコード様式定義が表示または印刷されます。この値は、**レコード様式情報**プロンプト (RCDFMTINFパラメーター) に*NONEが指定されている場合には無効です。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

ファイル情報 (FILEINF)

ファイル定義情報に表示または印刷する詳細レベルを指定します。

*BASIC

次の基本情報が表示または印刷されます。

- 定義名
- 定義タイプ
- 定義が入っているディクショナリー
- 定義が作成された日付
- 定義を作成した担当者のユーザーID
- 最後に変更された日付
- 最終変更を行なった担当者のユーザーID
- 定義のテキスト
- このファイル定義によって使用されるレコード様式定義の数

*DETAIL

基本情報およびキー・フィールド情報が表示または印刷されます。

***EXTENDED**

詳細情報およびファイル定義に関する詳細注釈が表示または印刷されます。

***ALL** 拡張情報およびこの定義を使用するファイルのリストが表示または印刷されます。

***NONE**

定義タイププロンプト (DFNTYPEパラメーター) に*RCDFMTまたは*FLDが指定されている場合には、ファイル定義について表示または印刷される詳細情報はありません。

トップ

レコード様式情報 (RCDFMTINF)

レコード様式情報の内容を印刷または表示する詳細レベルを指定します。

***BASIC**

次の基本情報が表示または印刷されます。

- 定義名
- 定義タイプ
- 定義が入っているディクショナリー
- 定義が作成された日付
- 定義を作成した担当者のユーザーID
- 最後に変更された日付
- 最終変更を行なった担当者のユーザーID
- 定義のテキスト
- このレコード様式定義によって使用されるフィールド定義の数
- 様式の長さ

***EXTENDED**

レコード様式定義についての基本情報、および詳細注釈が表示または印刷されます。

***ALL** 拡張情報、レコードID、およびこのレコード様式定義を使用するファイル定義およびファイルのリストが表示または印刷されます。

***NONE**

*NONEが指定された場合には、定義タイププロンプト (DFNTYPEパラメーター) に*FILEが指定されている場合のファイル定義内のレコード様式定義について表示または印刷される詳細情報はありません。定義タイププロンプト (DFNTYPEパラメーター) に*RCDFMTが指定されている場合には、*NONEは無効です。定義タイププロンプト (DFNTYPEパラメーター) に*FLDが指定されている場合には、レコード様式定義について表示または印刷される詳細情報はありません。

トップ

フィールド情報 (FLDINF)

フィールド記述を印刷または表示する詳細レベルを指定します。

***BASIC**

次の基本情報が表示または印刷されます。

- 定義名

- 定義タイプ
- 定義が入っているディクショナリー
- 定義のテキスト
- データ・タイプ
- フィールド長
- バッファ長
- バッファ位置
- フィールドの使用状態
- 欄見出し

***DETAIL**

基本情報および以下が表示または印刷されます。

- 定義が作成された日付
- 定義を作成した担当者のユーザーID
- 最後に変更された日付
- 最終変更を行なった担当者のユーザーID
- 別名
- 編集情報

***EXTENDED**

詳細情報およびフィールド定義に関する詳細注釈が表示されます。

***ALL** すべての拡張情報およびこの定義を使用する定義とファイルのリストが、表示または印刷されます。

***NONE**

定義タイププロンプト (DFNTYPEパラメーター) に*FILEまたは*RCDFMTを指定した場合には、レコード様式定義中のフィールド定義について、詳細説明は印刷または表示されません。定義タイププロンプト (DFNTYPE パラメーター) に*FLDを指定した場合には、*NONEは無効です。

トップ

作成日 (CRTDATE)

定義が作成された日付を指定します。

***FIRST**

この名前で作成された最初の定義が表示または印刷されます。同じ日付で同じ名前の複数の定義が作成されていて、定義プロンプト (DFNパラメーター) にその名前が指定されている場合には、その日付の最初の定義だけが表示または印刷されます。総称名または*ALLが指定されている場合には、作成日プロンプト (CRTDATEパラメーター) は無視され、定義プロンプト (DFNパラメーター) と一致するすべての定義が表示または印刷されます。

日付 表示または印刷するファイル定義の作成日を指定します。

トップ

例

```
DSPDTADCT DTADCT(MINE) DFN(*ALL) DFNTYPE(*FILE)
          OUTPUT(*PRINT) FILEINF(*BASIC) RCDfmtINF(*BASIC)
          FLDINF(*EXTENDED)
```

このコマンドは、データ・ディクショナリーMINEにすべてのファイル定義を印刷します。ファイル定義の基本情報が印刷されます。各ファイル定義のフォーマット定義の基本情報と、ファイル定義のRECORDフォーマット定義中にあるフィールド定義の拡張情報が印刷されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2DAA

印刷装置&1が見つからない。

CPF2DAC

印刷装置&4の使用が認可されていない。

CPF2DAD

印刷装置&4は現在使用することができない。

CPF2D76

名前の途中に*を入れることはできない。

CPF2E9B

定義&1が見つからない。

CPF2F02

ディクショナリー&1の使用は認可されていない。

CPF2F08

辞書&1が見つからない。

CPF3012

ライブラリー&2のファイル&1が見つからない。

CPF3014

&2の&1として指定されたファイルを表示することができない。

CPF3024

SYSTEM(&3)の場合にファイル&1を使用することはできない。

CPF3064

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF3067

&2のファイル&1のオープン中にエラー。

CPF3068

&2のファイル&1への書き出し中にエラー。

CPF3069

&2のファイル&1のクローズ中にエラー。

CPF3074

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF3076

画面上でエラーが起こった。

CPF3077

表示を取り消そうとした時にエラーが起こった。

CPF4253

装置&6の出力待ち行列が認可されていない。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9852

ページ・サイズが&2のファイル&1には小さすぎる。

[トップ](#)

編集記述表示 (DSPEDTD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

編集記述表示(DSPEDTD)コマンドは、指定されたユーザー定義の編集記述に関する情報を表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
EDTD	編集記述	5, 6, 7, 8, 9	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

編集記述 (EDTD)

表示するユーザー定義の編集記述を識別する1桁の数字コード(5, 6, 7, 8,または9)を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

DSPEDTD EDTD(6)

このコマンドは、印刷装置または画面のどちらかでユーザー定義の編集記述6を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2617

編集記述が見つからなかった。

CPF2624

&2の編集記述&1は、前に削除されている。

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

[トップ](#)

EWCバーコード項目の表示 (DSPEWCBCDE)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

拡張無線制御装置バーコード項目表示(DSPEWCBCDE)コマンドは、指定されたバーコード・グループのバーコード・パラメーターを表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
BCDGRP	バーコード・グループ	名前	必須, 定位置 1
INZMBR	初期設定ソース・メンバー	名前	必須, 定位置 2
INZFILE	初期設定ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: 初期設定ソース・ファイル	名前, <u>QEWCSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u>	

[トップ](#)

バーコード・グループ (BCDGRP)

表示するバーコード・グループの名前を指定します。

[トップ](#)

初期設定ソース・メンバー (INZMBR)

表示するバーコード項目が入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。このソース・ファイル・メンバーには、拡張無線制御装置構成データが入っています。

[トップ](#)

初期設定ソース・ファイル (INZFILE)

ソース・ファイル・メンバーが入っているソース物理ファイルの名前を指定します。

ソース・ファイルの名前は次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は、次の通りです。

QEWCSRC

ソース・ファイル名QEWCSRCが使用されます。

ソース・ファイル名

ソース・メンバーが入っているソース物理ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
DSPEWCBCDE BCDGRP(BCD01) INZMBR(EWC01) INZFILE(*LIBL/QEWCSRC)
```

このコマンドは、ライブラリー・リストのソース・ファイルQEWCSRCのソース・ファイル・メンバーEWC01のバーコード・グループBCD01のバーコード・パラメーターを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

無線CTLメンバー表示 (DSPEWCM)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

拡張無線制御装置メンバー表示(DSPEWCM)コマンドは、指定されたソース・ファイル・メンバーの拡張無線制御装置パラメーターを表示します。特定のポータブル・トランザクション・コンピューター(PTC)およびバーコード構成パラメーターは、拡張無線制御装置PTC項目表示(DSPEWCPTCE)および拡張無線制御装置バーコード項目表示(DSPEWCBCDE)コマンドを使用して表示されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
INZMBR	初期設定ソース・メンバー	名前	必須, 定位置 1
INZFILE	初期設定ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: 初期設定ソース・ファイル	名前, <u>QEWCSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	

トップ

初期設定ソース・メンバー (INZMBR)

表示するソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。このメンバーには、無線制御装置構成データが入っています。

トップ

初期設定ソース・ファイル (INZFILE)

ソース・ファイル・メンバーのソース物理ファイルの名前を指定します。ソース物理ファイルが存在しない場合には、このコマンドは正常に実行されません。

ソース・ファイルの名前は次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は、次の通りです。

QEWCSRC

ソース・ファイル名QEWCSRCが使用されます。

ソース・ファイル名

変更するソース・メンバーが入っているソース物理ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
DSPEWCM INZMBR(EWC01) INZFILE(QGPL/QEWCSRC)
```

このコマンドは、ライブラリーQGPLのソース・ファイルQEWCSRCのソース・ファイル・メンバーEWC01の拡張無線制御装置パラメーターを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

EWC PTC項目の表示 (DSPEWCPTCE)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

拡張無線制御装置PTC項目表示(DSPEWCPTCE)コマンドは、指定されたPTCグループのポータブル・トランザクション・コンピューター(PTC) パラメーターを表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PTCGRP	PTCグループ	名前	必須, 定位置 1
INZMBR	初期設定ソース・メンバー	名前	必須, 定位置 2
INZFILE	初期設定ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: 初期設定ソース・ファイル	名前, <u>QEWCSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u>	

[トップ](#)

PTCグループ (PTCGRP)

表示するPTCグループの名前を指定します。

[トップ](#)

初期設定ソース・メンバー (INZMBR)

PTC項目が追加されたソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。ソース・ファイル・メンバーには、拡張無線制御装置構成データが入っています。

[トップ](#)

初期設定ソース・ファイル (INZFILE)

ソース・ファイル・メンバーが入っているソース物理ファイルの名前を指定します。

ソース・ファイルの名前は次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は、次の通りです。

QEWCSRC

ソース・ファイル名QEWCSRCが使用されます。

ソース・ファイル名

ソース・メンバーが入っているソース物理ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

```
DSPEWCPTCE PTCGRP(PTC01) INZMBR(EWC01) INZFILE(*LIBL/QEWCSRC)
```

このコマンドは、ライブラリー・リストのソース・ファイルQEWCSRC のソース・ファイル・メンバーEWC01のPTCグループPTC01のPTC パラメーターを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

無線回線メンバーの表示 (DSPEWLM)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

拡張無線回線メンバー表示(DSPEWLM)コマンドは、指定されたソース・ファイル・メンバーの拡張無線回線パラメーターを表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
INZMBR	初期設定ソース・メンバー	名前	必須, 定位置 1
INZFILE	初期設定ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: 初期設定ソース・ファイル	名前, <u>QEWLSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	

[トップ](#)

初期設定ソース・メンバー (INZMBR)

変更するソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。このメンバーには、拡張無線制御装置構成データが入っています。

[トップ](#)

初期設定ソース・ファイル (INZFILE)

表示するソース・ファイル・メンバーが入っているソース物理ファイルの名前を指定します。ソース物理ファイルが存在しない場合には、このコマンドは正常に実行されません。

ソース・ファイルの名前は次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は、次の通りです。

QEWSRC

ソース・ファイル名QEWSRCが使用されます。

ソース・ファイル名

表示するソース・メンバーが入っている既存のソース物理ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

DSPEWLM INZMBR(EWL01)

このコマンドは、ライブラリー・リストのソース・ファイルQEWSRCのソース・ファイル・メンバーEWL01の拡張無線回線パラメーターを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

満了スケジュールの表示 (DSPEXPSCD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

満了スケジュール表示(DSPEXPSCD)コマンドは、ユーザー・プロファイルのリスト、それらの満了日、および取られる満了日処置（プロファイルの使用不能化または削除）を表示します。満了日処置が削除の場合には、所有オブジェクト・オプション(*NODLT, *DLT, *CHGOWN)および基本グループ・オプション(*NOCHG, *CHGPGP)が表示されます。所有オブジェクト・オプションが*CHOWNの場合には、新しい所有者が表示されます。基本グループ・オプションが*CHGPGPの場合には、新しい基本グループおよび新しい基本グループ権限が表示されます。この情報は、満了スケジュール項目表示(CHGEXPSCDE)コマンドから収集されたものです。CHGEXPSCDEコマンドの前に満了スケジュール表示(DSPEXPSCD)コマンドを実行した場合には、空の報告書が作成されます。

制約事項:このコマンドを実行するためには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション、位置 1

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元ワークステーションに表示するか、印刷するかを指定します。

*
_ 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

DSPEXPSCD OUTPUT(*)

このコマンドは、すべての満了スケジュール項目を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF304

ユーザーに必要な特殊権限がない。

[トップ](#)

ファイル表示 (DSPF)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ファイル表示(DSPF)コマンドにより、ストリーム・ファイルまたはデータベース・ファイルを表示できます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
STMF	ストリーム・ファイル、または	パス名	オプション、位置 1
FILE	データベース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション、位置 2
	修飾子 1: データベース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	ファイル・メンバー	名前, *FIRST	オプション、位置 3

トップ

ストリーム・ファイル、または (STMF)

表示するファイルの名前を指定します。

ストリーム・ファイル名

表示するオブジェクトの名前と一致するオブジェクトのパス名またはパターンを指定します。

オブジェクト・パス名は、単純名かあるいはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字に対応します。指定した文字と一致するすべてのファイルまたはサブディレクトリーのリストが表示されます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。指定したファイル名がディレクトリーである場合には、ファイルおよびサブディレクトリーのリストが表示されます。このリストから、ディレクトリー中のファイルを編集または表示することができます。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

トップ

データベース・ファイル (FILE)

表示するデータベース・ファイルの名前を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ファイル・メンバー (MBR)

表示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***FIRST**

データベース・ファイル中の最初のメンバーが表示されます。

メンバー名

表示するメンバーの名前を指定してください。

[トップ](#)

例

例1: ストリーム・ファイルの表示

```
DSPF STMF('/MYDIR/MYFILE.TXT')
```

このコマンドは、ルート・ディレクトリーの下のディレクトリーMYDIRに入っているMYFILE.TXTを表示します。

例2: データベース・ファイル・メンバーの表示

```
DSPF FILE(MYLIB/MYFILE) MBR(MYMBR1)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBに入っているファイルMYFILEのメンバーMYMBR1を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF601

表示装置ファイルQDZRUEDTが脱落しているか、あるいは損傷があります。

CPF604

行コマンドの処理時にエラー。

CPF605

ファイルのオープン時に予期しないエラー。

CPF609

ワークスペースを割り振ることができません。

CPF610

コマンドが正しくない。

CPF611

&3の&1個のオカレンスに変更された。&2は変更されていません。

CPF612

検索または置き換えストリングが指定されていません。

CPF613

印刷装置ファイルのオープン中のエラー。

CPF614

ファイル名が指定されていません

CPF615

ターゲット行が指定されていない。

CPF617

CCSIDが正しくない。

CPF618

CCSID &1およびジョブのCCSID間の変換はサポートされていない。

CPF619

ファイルは空です。

CPF620

&2

CPF621

ファイルの表示または編集, あるいはその両方ができない。

[トップ](#)

機能使用法の表示 (DSPFCNUSG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

機能使用表示(DSPFCNUSG)コマンドは、関数IDのリストを表示します。これは、特定機能に関する詳細使用情報（機能についての特定の使用情報をもつユーザー・プロファイルのリストを含む）を表示するためにも使用することもできます。

出力を印刷する場合は、各機能IDに関する詳細使用情報が出力に含まれます。

制約事項: 特定機能についての使用情報を表示するには、機密保護管理者(*SECADM)特殊権限が必要です。

機能使用表示コマンドからの出力を印刷するには、機密保護管理者(*SECADM)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FCNID	機能ID	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション, 位置 1
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT	オプション

[トップ](#)

機能ID (FCNID)

使用情報を表示する機能IDの名前を指定してください。

***ALL** すべての機能IDが表示されます。

総称名 表示する機能IDの総称名を指定してください。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべての機能IDが表示されます。

名前 表示する機能IDの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスプール出力で印刷するかを指定します。

*
出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスプール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

トップ

例

```
DSPFCNUSG FCNID(QIBM_SERVICE_TRACE) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、QIBM_SERVICE_TRACE機能の使用の画面を印刷装置に送ります。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF228A

機能&1が登録されていない。

CPF229B

この操作は機能&1では使用できない。

CPF3CDA

登録機能リポジトリを使用することができない。

CPFA0AA

スペースを獲得しようとしている時にエラーが起こった。

トップ

ファイル記述表示 (DSPFD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ファイル記述表示(DSPFD)コマンドは、1つまたは複数のデータベースまたは装置ファイル（あるいはその両方）のファイル記述から検索した1つまたは複数の種類の情報を表示します。指定された名前を持っているファイルで、指定のライブラリー修飾子で指定されたライブラリー中にあるユーザーがアクセス権を持っている各ファイルの情報が提供されます。この情報は表示、印刷、またはデータベース出力ファイル(OUTFILE)に出力することができます。DSPFDコマンドによって使用されるファイルの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「データベース」情報を参照してください。

制約事項:

1. ユーザーが指定したファイルに対するオブジェクト操作権を持っていないと、これらのファイルを表示することはできません。
2. ライブラリー修飾子によって識別されたライブラリーについては、ユーザーが読み取り権限を持っているライブラリー中の指定のファイルだけが検索されます。
3. TYPE(*ALL)、TYPE(*MBR)、またはTYPE(*MBRLIST)を指定し、このファイルが物理ファイルである場合には、ユーザーは、そのメンバーについての情報を受け取るために、ファイルに対するデータ権限（読み取り、書き出し、更新、または削除）を少なくとも1つ持っていなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	
TYPE	情報のタイプ	単一値: *ALL, *BASATR その他の値 (最大 10 回の繰り返し): *ATR, *ACCPH, *MBRLIST, *SELECT, *SEQ, *RCDFMT, *MBR, *SPOOL, *JOIN, *TRG, *CST, *NODGRP	オプション, 定位置 2
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション, 定位置 3
FILEATR	ファイル属性	単一値: *ALL その他の値 (最大 12 回の繰り返し): *DSPFD, *PRTF, *DKTF, *TAPF, *CMNF, *BSCF, *MXDF, *PF, *LF, *SAVE, *DDMF, *ICFF	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE , *ADD	
SYSTEM	システム	*LCL , *RMT, *ALL	オプション

トップ

ファイル (FILE)

ファイルの名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

ファイル名として指定できる値は次の通りです。

ファイル名

ファイルのフルネームを指定してください。このファイルの情報だけが表示されます。

総称*ファイル名

総称名を指定してください。指定された文字で始まる名前のすべてのファイルの情報が提供されます。

***ALL** 1つまたは複数のライブラリー中のすべてのファイルについて情報が提示されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB    #DSULIB    #SEULIB
#COBLIB    #RPGLIB
#DFULIB    #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

QDSNX	QRCLXXXX	QUSRIJS	QUSRVXRXXM
QGGL	QSRVAGT	QUSRINFSKR	
QGGL38	QSYS2	QUSRNOTES	
QMGTC	QSYS2XXXXX	QUSROND	
QMGTC2	QS36F	QUSRPOSGS	
QMPGDATA	QUSER38	QUSRPOSSA	
QMOMDATA	QUSRADSM	QUSRPYMSVR	
QMOMPROC	QUSRBRM	QUSRDRARS	
QPFRDATA	QUSRDIRCL	QUSRSYS	
QRCL	QUSRDIRDB	QUSRVI	

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMユーザー・ライブラリーのVXRXXMは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

情報のタイプ (TYPE)

提供されるファイル情報のタイプを指定します。*ALLは、情報が表示または印刷される場合にだけ有効です。*BASATRは、情報がデータベース出力ファイルに記憶される場合にだけ有効です。他のパラメーターについては、情報が表示または印刷される場合に1つまたは複数の値を指定することができます。情報がデータベース出力ファイルに記憶される場合には、1つしか値を指定することができません。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** 指定されたファイルに適用できるすべてのタイプの情報が表示または印刷されます。

注: OUTFILEパラメーターにファイル名が指定された場合には、*ALLを指定することはできません。

*BASATR

すべてのファイルに共通のファイル・レベルの属性情報が表示されます。

***ATR** 指定されたファイルについての意味のある属性情報が提示されます。

*ACCPH

物理ファイルおよび論理ファイルのアクセス・パスが提示されます。キー付アクセス・パスの場合には、複合キー記述も示されます。

*MBRLIST

指定されたファイルのすべてのファイル・メンバーのアルファベット順リストおよび簡単な説明が提供されます。

*SELECT

論理ファイルの選択/除外属性が提示されます。

***SEQ** 物理ファイルおよび論理ファイルの照合順序が提示されます。

*RCDFMT

指定されたファイルのレコード様式名およびレコード様式レベル情報が提供されます。

***MBR** 物理ファイルおよび論理ファイルの中のファイル・メンバーに関する情報が提供されます。

*SPOOL

指定されたディスクまたは印刷装置ファイルのスプーリング属性が提示されます。

***JOIN** 結合論理ファイルについて、結合元ファイル、結合先ファイル、および結合に含まれているフィールドが提示されます。

***TRG** 物理ファイルの場合にだけ、トリガー・プログラムの数、トリガー・プログラム名とライブラリー、およびトリガーを持つ各ファイルのトリガー事象、トリガー時刻、およびトリガー更新条件が提供されます。正しい出力ファイル様式はシステム・ファイルQAFDTRGからのQWHFDTRGです。

***CST** 物理ファイルの場合にだけ、ファイルと関連した制約関係についての情報が提供されます。正しい出力ファイル様式はシステム・ファイルQAFDCSTからのQWHFDCSTです。

*NODGRP

分散物理ファイルの場合にだけ、ファイルの作成時にノード・グループ(*NODGRP) からコピーされたデータ区分およびリレーショナル・データベース情報が提供されます。正しい出力ファイル様式はシステム・ファイルQAFDNGPからのQWHFDNGPです。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力がどこに送られるかを指定します。

*
- 出力は表示されるか (対話式ジョブで要求された場合)、あるいはジョブのスプール出力で印刷されます (バッチ・ジョブで要求された場合)。

*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

トップ

ファイル属性 (FILEATR)

属性が表示されるファイルのタイプを指定します。リモート・ファイルの場合には、指定できるパラメーターは*PF、*LF、または*ALLだけです。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** すべてのファイルの属性が提示されます。ただし、出力プロンプト (OUTPUTパラメーター) に*OUTFILEを指定し、情報のタイププロンプト (TYPEパラメーター) に*ATRを指定した場合には、このパラメーターを指定することはできません。

***DSPF** 表示装置ファイルの属性が提示されます。

*PRTF

印刷装置ファイルの属性が提示されます。

*DKTF

ディスク・ファイルの属性が提示されます。

***TAPF**

テープ・ファイルの属性が提示されます。

***CMNF**

通信ファイルの属性が提示されます。

***BSCF**

BSCファイルの属性が提示されます。

***MXDF**

混合ファイルの属性が提示されます。

***PF**

物理ファイルの属性が提示されます。

***LF**

論理ファイルの属性が提示されます。

***ICFF** ICFファイルの属性が提示されます。

***SAVF**

保管ファイルの属性が提示されます。

***DDMF**

分散データ管理機能(DDM)ファイルの属性が提供されます。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

注: 新しいファイルが作成される場合には、システムは、**情報のタイププロンプト** (TYPEパラメーター) および**ファイル属性プロンプト** (FILATRパラメーター) で指定された値に基づいて、次の様式名の1つを持つQSYS中の次の出力ファイルの1つをモデルとして使用します。OUTFILE形式の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「データベース」情報を参照してください

コマンド・パラメーター タイプ	ファイル属性	作成される出力ファイル 出力ファイル	様式
*BASATR	注1	QAFDBASI	QWHFDBAS
*ATR	*BSCF	QAFDBSC	QWHFDBSC
*ATR	*CMNF	QAFDCMN	QWHFDCMN
*ATR	*DSPF	QAFDDSP	QWHFDDSP
*ATR	*PRTF	QAFDPRT	QWHFDPRT
*ATR	*DKTF	QAFDDKT	QWHFDDKT
*ATR	*TAPF	QAFDTAP	QWHFDTAP
*ATR	*PF	QAFDPHY	QWHFDPHY
*ATR	*LF	QAFDLGL	QWHFDLGL
*ATR	*ICFF	QAFDICF	QWHFDICF
*ATR	*SAVF	QAFDSAV	QWHFDSAV
*ATR	*DDMF	QAFDDDM	QWHFDDDM
*ACCPH	注2	QAFDACP	QWHFDACP
*SELECT	注3	QAFDSELO	QWHFDSELO
*SEQ	注2	QAFDCSEQ	QWHFDSEQ
*MBR	注2	QAFDMBR	QWHFDMBR
*SPOOL	注4	QAFDSPOL	QWHFDSPL
*RCDFMT	注1	QAFDRFMT	QWHFDFMT
*MBRLIST	注2	QAFDMBRL	QWHFDML
*JOIN	注5	QAFDJOIN	QWHFDJN

注: FILEATRパラメーターを指定しなければならないのは、TYPE(*ATR)を使用する時だけです。該当要求と一致するファイル・タイプを要求する限り、省略時の値FILEATR(*ALL)は他のTYPE値のどれででも有効です。

- FILEATRパラメーターには1つまたは複数の項目を指定することができます。
- 物理および論理ファイルの場合のみ。
- 論理ファイルの場合のみ。
- 装置ファイルの場合のみ。
- 結合論理ファイルの場合のみ。

トップ

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

*FIRST

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。そのメンバーがすでに存在している場合には、既存のメンバーの終わりに新しいレコードを追加するか、あるいはそのメンバーを消去して新しいメンバーを追加するオプションがあります。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

*REPLACE

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

システム (SYSTEM)

戻される情報がローカル・システムのファイルについてのものであるか、あるいはリモート・システムのファイルについてのものであるかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***LCL** ローカル・ファイルについての情報だけが戻されます。

***RMT** リモート・ファイルについての情報だけが戻されます。

***ALL** ローカルおよびリモート・ファイルの両方についての情報が戻されます。

トップ

例

例1:ファイルの定義の表示

```
DSPFD FILE(*ALL/FILE1)
```

このコマンドは、ローカル・システムのユーザーに許可されたすべてのライブラリー内で定義された通りにFILE1の定義を表示します。情報は、このコマンドを実行中のワークステーションで表示されます。

例2:ローカルDDMファイルの属性の表示

```
DSPFD FILE(LIBRARY1/FILE1)
```

このコマンドは、LIBRARY1に定義された通りにFILE1の定義を表示します。FILE1が分散データ管理機能 (DDM)ファイルである場合には、ローカルDDMファイルの属性のみがこのコマンドを実行中のワークステーションで表示されます。

例3:すべてのファイルの定義の表示

```
DSPFD FILE(*ALL/*ALL) TYPE(*ALL) SYSTEM(*ALL)
```

このコマンドは、ローカル・システムとすべてのリモート・システムの両方でユーザーに許可されたすべてのライブラリー内のすべてのファイルの定義を表示します。DDMファイルの場合に、画面には最初にローカルDDMファイルに関する情報と、使用可能であれば、そのCRTDDMFコマンドのRMTFILEパラメーターに名前が指定されたリモート・ファイルに関する情報が表示されます。情報は、このコマンドを実行中のワークステーションで表示されます。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF3011

ライブラリー&2のファイル&1のTYPEが見つからない。

CPF3012

ライブラリー&2のファイル&1が見つからない。

- CPF3014**
&2の&1として指定されたファイルを表示することができない。
- CPF3020**
&2の&1のファイルにFILEATRが指定されていない。
- CPF3021**
SYSTEM(*RMT)でファイル&1を使用することはできない。
- CPF3022**
&2のファイル&1にSYSTEM(*RMT)を使用することはできない。
- CPF3030**
&2のファイル&1のメンバー&4に&3個のレコードが追加された。
- CPF3061**
出力ファイル&1のレコード様式&3が見つからない。
- CPF3064**
ライブラリー&1が見つかりません。
- CPF3067**
&2のファイル&1のオープン中にエラー。
- CPF3068**
&2のファイル&1への書き出し中にエラー。
- CPF3069**
&2のファイル&1のクローズ中にエラー。
- CPF3070**
ファイル&1のメンバー&3の作成中にエラー。
- CPF3072**
&2のファイル&1はシステム・ファイルである。
- CPF3074**
ライブラリー&1の使用は認可されていない。
- CPF3075**
ライブラリー&1が使用できない。
- CPF3076**
画面上でエラーが起こった。
- CPF3077**
表示を取り消そうとした時にエラーが起こった。
- CPF3084**
ファイル&1のメンバー&3の消去中にエラー。
- CPF326B**
ライブラリー&2のファイル&1に損傷がある。
- CPF9851**
&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。
- CPF9852**
ページ・サイズが&2のファイル&1には小さすぎる。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ファイル・フィールド記述表示 (DSPFFD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ファイル・フィールド記述表示(DSPFFD)コマンドは、特定のライブラリーまたはユーザーがアクセス権限を持つすべてのライブラリー中の1つまたは複数のファイルのフィールド・レベル情報を表示、印刷、またはデータベース・ファイルに出力します。

情報をデータベース・ファイルに出力すると、そのデータベース・ファイルはQWHDRFFDという名前のレコード様式を持ちます。レコード様式QWHDRFFDのフィールドは、ライブラリーQSYSのファイルQADSPFFDにあるIBM提供様式QWHDRFFDのフィールドと同じです。データベース・ファイルには、次の情報が入ります。

- コマンドで指定された各ファイルごとに、データベース・レコードに次の項目が入ります。
 - ファイルの名前、ファイルが入っているライブラリーの名前、ファイル・タイプ、およびファイル・メンバー
 - ファイル作成日およびファイル中のレコード様式の数
 - ファイルによって使用されるレコード様式の名前、様式レベル識別コード、様式テキスト記述、様式レコード長、および様式中のフィールドの数
 - 情報検索の日付および時刻
- このレコードには、レコード様式中の各フィールドについて、次の情報も（適用される場合）入ります。
 - フィールド名および外部フィールド名
 - フィールドのタイプおよび長さ
 - 他のフィールドを参照しているフィールドについては、参照ファイル、レコード様式、およびフィールドの名前（参照フィールドの属性が変更された場合には、属性タイプが入ります）
 - フィールドと関連した編集コード、編集語、および欄見出し
 - そのフィールドに対して妥当性検査を実行するかどうかを示すシグナル
 - 妥当性検査メッセージ識別コード、メッセージ・ファイル、およびライブラリー
 - フィールドの使用状況

OUTFILEを作成するには、ユーザーは物理ファイル作成(CRTPF)コマンドに対するオブジェクト操作権とライブラリーに対する追加権を持っていないければなりません。既存のOUTFILEを使用するには、ユーザーはファイルに対するオブジェクト操作権および追加権を持っていないければなりません。また、OUTMBRパラメーターで*REPLACEを指定する場合には、ユーザーはオブジェクト管理権および削除権も持っていません。

制約事項:

1. 指定された各ファイルのオブジェクト操作権を持っていないければ、ユーザーはそのファイルを表示することはできません。
2. また、ライブラリー修飾子によって指定されたライブラリーについては、ユーザーが読み取り権限を持っているライブラリーだけが検索されます。

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション, 定位置 2
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	<u>*REPLACE</u> , *ADD	
SYSTEM	システム	<u>*LCL</u> , *RMT, *ALL	オプション

ファイル (FILE)

ファイルの名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

ファイル名として指定できる値は次の通りです。

ファイル名

ファイルのフルネームを指定してください。指定したファイルの情報だけが戻されます。

総称 * ファイル名

総称名を指定してください。指定された文字で始まる名前のすべてのファイルの情報が提供されます。

***ALL** 1つまたは複数のライブラリーの中のすべてのファイルの情報が表示されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラ

リーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXXM
QGPL       QSRVAGT     QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMQMDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMQMPROC   QUSRBRM     QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMユーザー・ライブラリーのVXRXXMは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

* 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイルプロンプト（OUTFILEパラメーター）に指定されたデータベース出力ファイルに送られます。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース出力ファイルの名前およびライブラリーを指定します。このファイルが存在していない場合には、このコマンドは、指定したライブラリーの中にデータベース出力ファイルを作成します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行項目が存在していない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

注: 出力ファイル形式は、システム・ファイルQADSPFFDのQWHDRFFDと同じでなければなりません。出力ファイル形式の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER)にある「データベース」情報の資料を参照してください。

トップ

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***FIRST**

ファイルの最初のメンバーが出力を受け取ります。そのファイルにメンバーが存在しない場合には、システムは、出力を受け取るファイルプロンプト (OUTFILEパラメーター) に指定されたファイルの名前でメンバーを作成します。

メンバー名

出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。この名前のメンバーが存在していない場合には、システムが作成します。

情報の保管方法について指定できる値は次の通りです。

***REPLACE**

指定されたファイル・メンバー中の既存のレコードが出力データで置き換えられます。

***ADD** 指定されたファイル・メンバー中の既存のレコードの終わりに、出力データが追加されます。

トップ

システム (SYSTEM)

戻される情報がローカル・システムのファイルについてのものであるか、あるいはリモート・システムのファイルについてのものであるかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***LCL** ローカル・ファイルについての情報だけが戻されます。

***RMT** リモート・ファイルについての情報だけが戻されます。

***ALL** ローカルおよびリモート・ファイルの両方についての情報が戻されます。

トップ

例

例1:ローカル・システム上のファイルに関する情報の表示

```
DSPFFD FILE(LIB1/FILE2)
```

このコマンドは、ローカル・システム上のLIB1のファイルFILE2に関するフィールド・レベル情報を表示します。情報は、このコマンドが入力されたワークステーションで表示されます。

例2:ローカルおよびリモート・システム上のファイルに関する情報の表示

```
DSPFFD FILE(*ALL/*ALL) SYSTEM(*ALL)
```

このコマンドは、ローカル・システムおよびすべてのリモート・システム上の、ユーザーに許可されたすべてのライブラリーのすべてのファイルのフィールド・レベル情報を表示します。分散データ管理機能ファイルの場合には、画面にはCRTDDMFコマンドのRMFILEパラメーターに名前が指定されたリモート・ファイルに関する情報のみが表示されます。情報は、このコマンドが入力されたワークステーションで表示されます。

例3:データベース・ファイルへの出力の送信

```
DSPFFD FILE(QGPL/FLDREF) OUTPUT(*OUTFILE)  
OUTFILE(QGPL/FLDREFX)
```

このコマンドは、ローカル・システム上のQGPLライブラリーのファイルFLDREFに関するフィールド・レベル情報を、汎用ライブラリーQGPLのFLDREFXという名前のデータベース・ファイルに書き込みます。次に、QGPLライブラリーのこのFLDREFXファイルをプログラムによって処理することができます。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF3012

ライブラリー&2のファイル&1が見つからない。

CPF3014

&2の&1として指定されたファイルを表示することができない。

- CPF3024**
SYSTEM(&3)の場合にファイル&1を使用することはできない。
- CPF3052**
ファイル&1の記述が使用できない。
- CPF3061**
出力ファイル&1のレコード様式&3が見つからない。
- CPF3063**
&2の出力ファイル&1は物理ファイルではない。
- CPF3064**
ライブラリー&1が見つかりません。
- CPF3066**
&2の出力ファイル&1の作成中にエラー。
- CPF3067**
&2のファイル&1のオープン中にエラー。
- CPF3068**
&2のファイル&1への書き出し中にエラー。
- CPF3069**
&2のファイル&1のクローズ中にエラー。
- CPF3070**
ファイル&1のメンバー&3の作成中にエラー。
- CPF3072**
&2のファイル&1はシステム・ファイルである。
- CPF3074**
ライブラリー&1の使用は認可されていない。
- CPF3075**
ライブラリー&1が使用できない。
- CPF3076**
画面上でエラーが起こった。
- CPF3077**
表示を取り消そうとした時にエラーが起こった。
- CPF3084**
ファイル&1のメンバー&3の消去中にエラー。
- CPF326B**
ライブラリー&2のファイル&1に損傷がある。
- CPF9851**
&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。
- CPF9852**
ページ・サイズが&2のファイル&1には小さすぎる。
- CPF9899**
コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

フォルダー表示 (DSPFLR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

THE DISPLAY FOLDER (DSPFLR) COMMAND ALLOWS YOU TO DISPLAY OR PRINT A LIST OF FOLDERS AND DOCUMENTS, OR TO CREATE AN OUTPUT FILE THAT CONTAINS THE LIST OF FOLDERS OR DOCUMENTS.

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FLR	フォルダー	文字値, <u>*ALL</u>	オプションル, 位置 1
TYPE	オブジェクトのタイプ	<u>*FLR</u> , *DOC	オプションル, 位置 2
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT, *OUTFILE	オプションル, 位置 3
LEVEL	リストのレベル	*ALL, <u>*CURRENT</u>	オプションル
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプションル
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプションル
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	<u>*REPLACE</u> , *ADD	
OUTFILFMT	出力ファイル形式	*TYPE1, <u>*TYPE2</u>	オプションル

トップ

フォルダー (FLR)

SPECIFIES THE NAMES OF FOLDERS OR MEMBERS ON THE LIST.

*ALL ALL FOLDERS THAT THE USER HAS AUTHORITY TO SEE ARE LISTED.

FOLDER-NAME

SPECIFY THE NAME OF THE FOLDER WHOSE CONTENTS IS LISTED.

トップ

オブジェクトのタイプ (TYPE)

SPECIFIES WHETHER FOLDERS OR DOCUMENTS ARE LISTED.

***FLR** THE LIST CONTAINS FOLDERS THAT THE USER HAS AUTHORITY TO SEE.

***DOC** THE LIST CONTAINS DOCUMENTS THAT THE USER HAS AUTHORITY TO SEE.

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

SPECIFIES WHETHER THE OUTPUT FROM THE COMMAND IS DISPLAYED AT THE REQUESTING WORK STATION OR PRINTED WITH THE JOB'S SPOOLED OUTPUT.

***** THE OUTPUT IS DISPLAYED.

***PRINT**

THE OUTPUT IS PRINTED WITH THE JOB'S SPOOLED OUTPUT.

***OUTFILE**

THE OUTPUT IS DIRECTED TO THE DATABASE FILE SPECIFIED FOR THE **FILE TO RECEIVE OUTPUT (OUTFILE)** PARAMETER.

[トップ](#)

リストのレベル (LEVEL)

SPECIFIES WHETHER THE LIST INCLUDES FOLDERS NESTED WITHIN THE FOLDERS LISTED OR ONLY THE FOLDERS AT THE CURRENT LEVEL. THIS PARAMETER IS NOT ALLOWED WHEN (*) IS SPECIFIED ON THE 出力 PROMPT (OUTPUT PARAMETER).

***ALL** THE LIST INCLUDES FOLDERS NESTED WITHIN THE FOLDERS AT THE SPECIFIED LEVEL.

***CURRENT**

ONLY FOLDERS AT THE SPECIFIED LEVEL ARE LISTED.

[トップ](#)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

SPECIFIES THE NAME AND LIBRARY OF THE DATABASE FILE THAT RECEIVES THE OUTPUT OF THE COMMAND. IF THE FILE DOES NOT EXIST, THIS COMMAND CREATES A DATABASE FILE IN THE SPECIFIED LIBRARY.

THE POSSIBLE LIBRARY VALUES ARE:

***LIBL** ALL LIBRARIES IN THE LIBRARY LIST FOR THE CURRENT THREAD ARE SEARCHED UNTIL THE FIRST MATCH IS FOUND.

***CURLIB**

THE CURRENT LIBRARY FOR THE JOB IS USED TO LOCATE THE FILE. IF NO LIBRARY IS SPECIFIED AS THE CURRENT LIBRARY FOR THE JOB, QGPL IS USED.

LIBRARY-NAME

SPECIFY THE NAME OF THE LIBRARY WHERE THE FILE IS LOCATED.

注: IF YOU SPECIFY *FLR ON THE オブジェクトのタイプ PROMPT (TYPE PARAMETER) AND A NEW FILE IS CREATED, SYSTEM FILE QADSPFLR IN SYSTEM LIBRARY QSYS WITH A FORMAT NAME OF FLRDTL IS USED AS A MODEL.

IF YOU SPECIFY *DOC ON THE オブジェクトのタイプ PROMPT (TYPE PARAMETER) AND A NEW FILE IS CREATED, SYSTEM FILE QADSPDOC IN SYSTEM LIBRARY QSYS WITH A FORMAT NAME OF DOCDTL IS USED AS A MODEL.

トップ

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

SPECIFIES THE NAME OF THE DATABASE FILE MEMBER THAT RECEIVES THE OUTPUT OF THE COMMAND.

THE POSSIBLE **MEMBER TO RECEIVE OUTPUT** VALUES ARE:

***FIRST**

THE FIRST MEMBER IN THE FILE RECEIVES THE OUTPUT. IF THE FILE MEMBER DOES NOT EXIST, THE SYSTEM CREATES A MEMBER WITH THE NAME OF THE FILE SPECIFIED IN THE 出力を受け取るファイル PROMPT (OUTFILE PARAMETER).

MEMBER-NAME

SPECIFY THE NAME OF THE FILE MEMBER THAT RECEIVES THE OUTPUT. IF THE FILE MEMBER DOES NOT EXIST, THE SYSTEM CREATES THE MEMBER.

THE POSSIBLE **REPLACE OR ADD RECORDS** VALUES ARE:

***REPLACE**

THE OUTPUT DATA REPLACES ANY EXISTING RECORDS IN THE SPECIFIED MEMBER.

***ADD** THE OUTPUT DATA IS ADDED TO THE END OF THE EXISTING RECORDS IN THE SPECIFIED MEMBER.

トップ

出力ファイル形式 (OUTFILFMT)

SPECIFIES THE FORMAT OF THE DATABASE FILE TO WHICH THE OUTPUT OF THE DISPLAY IS DIRECTED.

***TYPE1**

OUTPUT IS DIRECTED TO THE FILE FORMAT USED FOR RELEASE V2R2 AND ALL RELEASES PRIOR TO V2R2. THE FORMAT USED IS DEFINED BY MODEL OUTPUT FILE QADSPSDC (DOCUMENT FORMAT) AND QADSPSFR (FOLDER FORMAT) IN LIBRARY QSYS WITH RECORD NAMED DOCDTLS AND FLRDTLS RESPECTIVELY.

*TYPE2

OUTPUT IS DIRECTED TO THE FILE FORMAT USED FOR RELEASE V2R3 AND ALL RELEASES THEREAFTER. THE FORMAT USED IS DEFINED BY MODEL OUTPUT FILE QADSPDOC (DOCUMENT FORMAT) AND QADSPFLR (FOLDER FORMAT) IN LIBRARY QSYS WITH RECORD FORMAT NAMED DOCDTL AND FLRDTL RESPECTIVELY.

[トップ](#)

例

EXAMPLE 1: DISPLAYING OR PRINTING OUTPUT

```
DSPFLR  FLR(GENERAL)  TYPE(*FLR)  OUTPUT(*)
```

THIS COMMAND SHOWS A LIST OF FOLDERS FOR THE FOLDER, GENERAL, AT THE REQUESTING WORK STATION (IF REQUESTED BY AN INTERACTIVE JOB) OR THE OUTPUT IS PRINTED WITH THE JOB'S SPOOLED OUTPUT (IF REQUESTED BY A BATCH JOB).

EXAMPLE 2: DIRECTING OUTPUT TO A DATABASE FILE

```
DSPFLR  FLR(*ALL)  TYPE(*FLR)  OUTPUT(*OUTFILE)  LEVEL(*ALL)  
        OUTFILE(MYLIB/MYFILE)  OUTMBR(MYMBR *REPLACE)
```

THIS COMMAND SHOWS ALL THE FOLDERS THAT THE USER HAS AUTHORITY TO VIEW. THE OUTPUT IS DIRECTED TO MYMBR, IN MYFILE LOCATED IN MYLIB. IF MEMBER MYMBR ALREADY EXISTS, MYMBR IS CLEARED AND THEN THE NEW RECORDS ARE ADDED.

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

フォント資源属性の表示 (DSPFNTRSCA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フォント資源属性表示(DSPFNTRSCA)コマンドは、指定されたフォント資源について次のものを表示します。

- オブジェクトの属性
- フォント文字セットの画素密度
- フォント資源の記述テキスト

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FNTRSC	フォント資源	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: フォント資源	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

フォント資源 (FNTRSC)

属性が表示されるフォント資源を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: フォント資源

名前 属性が表示されるフォント資源の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

フォント資源を見つけるためにジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 フォント資源が入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

*
- 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのプール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

トップ

例

DSPFNTRSCA FNTRSC(SHALIMAR/X0A0557C)

このコマンドは、ライブラリーSHALIMARのフォント資源X0A0557Cと関連した属性を表示します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2150

オブジェクト情報機能に障害。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9804

ライブラリー&3のオブジェクト&2が損傷している。

CPF9805

ライブラリー&3のオブジェクト&2が壊れている。

トップ

フォント・テーブルの表示 (DSPFNNTBL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フォント・テーブルの表示(DSPFNNTBL)コマンドは、フォント・テーブルを表示します。フォント・マッピング・テーブルの詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

制約事項

- このコマンドを使用するためには、印刷サービス機能(PSF)フィーチャーが必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FNNTBL	フォント・テーブル	単一値: *PHFCS, *HPFCS, *PHCP, *HPCP, *SYSPHFCS, *SYSPHFCS, *SYSPHCP, *SYSPHCP その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: フォント・テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション, 定位置 2

トップ

フォント・テーブル (FNNTBL)

表示するフォント・テーブルを指定します。

単一値

*PHFCS

印刷装置常駐からホスト常駐フォント文字セットへのテーブルが表示されます。

*PHCP

印刷装置常駐からホスト常駐コード・ページへのマッピング・テーブルが表示されます。

*HPFCS

ホスト常駐から印刷装置常駐フォント文字セットへのテーブルが表示されます。

*HPCP

ホスト常駐から印刷装置常駐コード・ページへのマッピング・テーブルが表示されます。

*SYSPHFC

システム印刷装置常駐からホスト常駐フォント文字セットへのテーブルが表示されます。システム・フォント文字セット・テーブルの詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

*SYSPHCP

システム印刷装置常駐からホスト常駐コード・ページへのマッピング・テーブルが表示されます。システム・コード・ページ・マッピング・テーブルの詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

*SYSHPFCS

システム・ホスト常駐から印刷装置常駐フォント文字セットへのテーブルが表示されます。システム・フォント文字セット・テーブルの詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

*SYSHPCP

システム・ホスト常駐から印刷装置常駐へのコード・ページ・マッピング・テーブルが表示されます。システム・コード・ページ・マッピング・テーブルの詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

修飾子1: フォント・テーブル

名前 表示される印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルの名前を指定します。

印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルを表示する場合には、フォント・テーブルの名前を指定しなければなりません。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーを検索します。

*CURLIB

フォント・テーブルを見つけるために、現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 フォント・テーブルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は表示（対話式ジョブで要求された場合）またはジョブのスパール出力で印刷（バッチ・ジョブで要求された場合）されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

例

DSPFNTTBL FNTTBL(*PHFCS)
OUTPUT(*)

このコマンドは、印刷装置常駐からホスト常駐へのフォント文字セット・テーブルを表示します。このテーブルはQPHFCSと名前が付けられ、ライブラリーQUSRSYS中になければなりません。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9805

ライブラリー&3のオブジェクト&2が壊れている。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9811

ライブラリー&2でプログラム&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

トップ

ハードウェア資源の表示 (DSPHDWRSC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

各種タイプのシステム資源管理(SRM)情報を表示したり、印刷したり、あるいは出力ファイルに保管するためには、ハードウェア資源表示(DSPHDWRSC)コマンドを使用します。

制約事項: このコマンドを実行する前に、LANアダプター処理(WRKLANADPT)コマンドを実行しなければなりません。そうでない場合には、表示する情報はありません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	タイプ	*AHW, *CMN, *CRP, *CSA, *LAN, *LWS, *PRC, *STG	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション, 定位置 2
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション, 定位置 4
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	
OUTFILFMT	出力ファイル形式	*TYPE1, *TYPE2	オプション, 定位置 5
LINETYPE	回線タイプ	*ALL, *DDI, *TRN	オプション, 定位置 6

トップ

タイプ (TYPE)

表示したり、印刷したり、または出力ファイルに書き出す情報のタイプを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***AHW** すべてのハードウェア資源レコードの結合された内容を表示、印刷、または出力ファイルに向けます。これには、すべての*CMN, *CRP, *CSA, *LWS, *PRC, および*STG レコードが含まれます。

***CMN** 通信資源情報を表示したり、印刷したり、あるいは出力ファイルに書き出します。この情報は、資源名、資源タイプ、製造番号、位置、状況、アドレス、構成記述、および資源記述から成ります。

- ***CRP** 暗号資源情報を表示、印刷、または出力ファイルに書き出します。この情報は、資源名、資源タイプ、製造番号、位置、状況、アドレス、構成記述、および資源記述から成ります。
- ***CSA** 結合されたアダプター資源についての情報を表示または印刷し、あるいは出力ファイルに送ります。この情報は、資源の名前、型式、状況、位置、資源の記述、およびアダプターが接続されているシステムから構成されます。
- ***LAN** トークンリングまたは分散データ・インターフェース・アダプター資源情報を表示または印刷するか、あるいは出力ファイルに向けます。この情報は、LAN制御装置アダプター・アドレス、アダプター名、回線タイプ、およびアダプター記述から構成されています。
- ***LWS** ローカル・ワークステーション資源情報を表示したり、印刷したり、あるいは出力ファイルに書き出します。この情報は、資源名、資源タイプ、製造番号、位置、状況、アドレス、構成記述、および資源記述から成ります。
- ***PRC** プロセッサ資源情報を表示したり、印刷したり、あるいは出力ファイルに書き出します。この情報は、資源名、資源タイプ、製造番号、位置、状況、および資源記述から構成されています。
- ***STG** 記憶装置資源情報を表示したり、印刷したり、あるいは出力ファイルに書き出します。この情報は、資源名、資源タイプ、製造番号、位置、状況、アドレス、構成記述、および資源記述から成ります。

これは必須パラメーターです。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

- * 対話式ジョブによって要求された出力が画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

*OUTFILE

要求したデータが、出力データベース・ファイルに記憶されます。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

要求したシステム資源管理(SRM)データを記憶するために使用される出力ファイルの名前およびライブラリーを指定します。1つの出力ファイルにつき、次の資源情報タイプの1つだけを記憶することができます：

*CMN, *CRP, *CSA, *LWS, *PRC, *STG, または*LAN。出力ファイルが存在していない場合に、このコマンドは、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルを作成します。新しいファイルを作成した場合には、システムは、**タイププロンプト** (TYPEパラメーター) に指定されている値に応じて、次の1つの形式名をもつ次のファイル名の1つを、モデルとして使用します。

TYPEパラメーター 値	作成される出力ファイル 出力ファイル 形式	
*CMN	QARZDCMN	QRZDCMN
*CRP	QARZDCRP	QRZDCRP
*CSA	QARZDCSA	QRZDCSA
*LWS	QARZDLWS	QRZDLWS
*PRC	QARZDPRC	QRZDPRC
*STG	QARZDSTG	QRZDSTG
*LAN	QARZDTRA	QRZDTRA

このパラメーターを使用できるのは、出力プロンプト（OUTPUTパラメーター）に*OUTFILEが指定されている場合だけです。

考えられる値は、次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

出力ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

出力ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

ファイル名

要求した情報を記憶するファイル名を指定してください。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***FIRST**

要求したSRMデータは最初のメンバーに記憶されます。

メンバー名

要求したSRMデータを記憶するために使用するメンバー名を指定してください。有効な値は1 - 10文字の範囲です。

使用できる**任意指定**の値は次の通りです。

***REPLACE**

メンバーが存在している場合には、古い情報が消去されて、新しい情報が追加されます。

***ADD** メンバーが存在している場合には、既存の情報の終りに新しい情報が追加されます。

[トップ](#)

出力ファイル形式 (OUTFILFMT)

出力ファイルの形式設定に使用される物理ファイルのモデルを指定します。

注: TYPE(*LAN)が指定されていた場合には、このパラメーターは使用されません。

考えられる値は、次の通りです。

***TYPE1**

出力ファイルの形式は、物理ファイル・モデルQARZDCMN, QARZDCRP, QARZDCSA, QARZDLWS, QARZDPRC,およびQARZDSTGの形式と同じです。

***TYPE2**

出力ファイルの形式は、物理ファイル・モデルQARZALLFおよびその関連レコード様式モデルQRZALLの形式と同じです。この値は、V3R6M0より前のリリースのDSPLCLHDWコマンドによって使用される物理ファイルQARZHWOFと機能的には等価です。

[トップ](#)

回線タイプ (LINETYPE)

情報を表示、印刷、または出力ファイルに出力するためのローカル・エリア・ネットワーク(LAN)タイプ。

TYPE(*LAN)が指定された場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** 分散データ・インターフェースおよびトークンリング・ネットワーク・アダプターの両方の資源情報が表示、印刷、または出力ファイルに出力されます。

***DDI** すべての分散データ・インターフェース・アダプター資源情報が表示、印刷、または出力ファイルに出力されます。

***TRN** すべてのトークンリング・ネットワーク・アダプター資源情報が表示、印刷、または出力ファイルに出力されます。

[トップ](#)

例

```
DSPHDWRSC TYPE(*STG)
          OUTPUT(*OUTFILE) OUTFILE(STG) OUTFILFMT(*TYPE2)
```

このコマンドは、記憶域資源のSRM情報を出力ファイルSTGに入れますが、これは物理ファイル・モデルQARZALLFと同じようにフォーマット設定されます。出力ファイルSTGがライブラリー・リストにあると、その最初のメンバーのレコードは新しいレコードで置き換えられます。出力ファイルSTGがライブラリー・リストにない場合には、最初のメンバーSTGで現行ライブラリー中に作成されます。このメンバーには、新しいレコードが入ります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF8B75

ネットワーク・アダプター・ファイルにアダプター項目がない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9815

ライブラリー&3のファイル&2のメンバー&5が見つからない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

階層ファイル・システムの表示 (DSPHFS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

階層ファイル・システム表示(DSPHFS)コマンドは、登録済みファイル・システムのリストを表示します。このリストの情報には、ファイル・システムの名前とレベル、および登録時にファイル・システムによって提供される50文字の記述があります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション、位置 1

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのspool出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

* 出力は表示されます。

_

***PRINT**

出力はジョブのspool出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

例1:履歴ファイル・システム情報の表示

```
DSPHFS OUTPUT(*)
```

このコマンドは、出力を画面に送信します。

例2:履歴ファイル・システム情報の印刷

```
DSPHFS OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、出力を印刷装置ファイルに送信します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF1F66

必要な記憶域がユーザー・プロファイル&1の最大限度を超えている。

CPF1F81

API特有のエラーが起こった。

ヘルプ文書表示 (DSPHLPDOC)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

THE DISPLAY HELP DOCUMENT (DSPHLPDOC) COMMAND DISPLAYS HELP INFORMATION AS A DOCUMENT IN ITS FINAL FORM. THE DOCUMENT IS CREATED USING THE WORD PROCESSING FUNCTION OF THE OFFICEVISION/400 PRODUCT.

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DOC	文書	文字値	必須, 定位置 1
FLR	フォルダー	文字値	必須, 定位置 2
HLPLBL	ヘルプ・テキストのラベル	文字値, *FIRST	オプション, 定位置 3

[トップ](#)

文書 (DOC)

SPECIFIES THE NAME OF THE HELP DOCUMENT YOU WANT DISPLAYED. THE HELP DOCUMENT MUST BE A RESOLVED DOCUMENT.

THIS IS A REQUIRED PARAMETER.

[トップ](#)

フォルダー (FLR)

SPECIFIES THE NAME OF THE FOLDER THAT CONTAINS THE HELP DOCUMENT TO BE DISPLAYED.

THIS IS A REQUIRED PARAMETER.

[トップ](#)

ヘルプ・テキストのラベル (HLPLBL)

SPECIFIES WHERE TO START DISPLAYING THE DOCUMENT. THE USER CAN USE THE PAGE OR ROLL KEYS OR OTHER POSITIONING REQUESTS TO LOOK FOR THE INFORMATION.

***FIRST**

THE DOCUMENT IS DISPLAYED AT THE START OF THE FIRST PAGE.

HELP-LABEL-NAME

SPECIFY THE NAME OF THE LABEL USED AS THE STARTING POINT FOR DISPLAYING THE DOCUMENT.

トップ

例

DSPHLPDOC DOC(KDOC) FLR(NFLR) HLPLBL(*FIRST)

THIS COMMAND USES THE DOCUMENT KDOC IN FOLDER NFLR AS THE HELP DOCUMENT.

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPE メッセージ**

OFC87B2

ヘルプ文書をオープンすることができなかった。

OFC9040

ヘルプ・テキスト・ラベルが見つからない。

OFC9041

文書が最終形式でない。

トップ

DBCS変換辞書表示 (DSPIGCDCT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

DBCS変換辞書表示(DSPIGCDCT)コマンドによって、指定された2バイト文字セット(DBCS)変換辞書の英数字項目およびこれらに関連したDBCSの語句が表示または印刷されます。システムはDBCS変換の実行時に、DBCS変換辞書を参照します。

注: 中国語および韓国語の2バイト文字セットの場合には、DBCS変換機能の使用はお奨めできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
IGCDCT	DBCS変換辞書	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: DBCS変換辞書	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
ENTRY	辞書項目	X'40'-X'FE', *ALL	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

DBCS変換辞書 (IGCDCT)

表示または印刷される2バイト文字セット(DBCS)変換辞書および辞書が保管されているライブラリーを指定します。ライブラリー名を指定しない場合には、ライブラリー・リストの検索時に最初に見つかった辞書が表示されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

辞書を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

辞書が入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

辞書項目 (ENTRY)

関連した2バイト文字セット(DBCS)の語句と一緒に表示または印刷される英数字項目を指定します。

***ALL** システムは、すべての辞書項目および関連したDBCS語を表示または印刷します。

総称*ストリング

1つまたは複数の文字の文字ストリングとそれに続くアスタリスク(*)を指定してください。システムは、指定されたストリングおよび関連したDBCS語で始まるすべての辞書項目を表示または印刷します。アスタリスクを付けない場合には、システムは特定の項目を表示または印刷します。

ストリングは、12文字より長くすることはできません。

特定ストリング

文字ストリングを指定してください。システムは、指定された英数字項目およびそれに関連したDBCSの語句を表示または印刷します。ストリングは、12文字より長くすることはできません。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

* 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

例1:項目の表示

```
DSPIGCDCT  IGCDC(DBCSLIB/QUSRIGCDCT) OUTPUT(*)
```

このコマンドは、ライブラリーDBCSLIBに保管されているQUSRIGCDCTという名前のDBCS変換辞書のすべての項目をワークステーションに表示します。

例2:項目の印刷

```
DSPIGCDCT  IGCDC(DBCSLIB/QUSRIGCDCT) ENTRY('?')  
           OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、ライブラリーDBCSLIB中に保管されているQUSRIGCDCTという名前のDBCS変換辞書から項目?およびその関連ワードを印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8138

&9のDBCS変換辞書&4に&8の損傷がある。

CPF8433

&2のファイル&1の用紙の長さが5行より小さい。

CPF8451

入力値&1が正しくない。

CPF8455

ワークステーションがDBCS装置でない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

[トップ](#)

IPL属性の表示 (DSPIPLA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

IPL属性の表示 (DSPIPLA)コマンドによって、次回の初期プログラム・ロード(IPL)時に使用される属性の設定値を表示することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*、*PRINT	オプション

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

```
DSPIPLA OUTPUT(*)
```

このコマンドは、IPL属性情報を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

IPX記述表示 (DSPIPXD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

IPX記述表示(DSPIPXD)コマンドはIPX記述を表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
IPXD	IPX記述	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

IPX記述 (IPXD)

表示されるIPX記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力が要求元のワークステーションに表示されるか、あるいはジョブのスパール出力で印刷されるかを指定します。

* 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

DSPIPXD IPXD(IPXDESC)

このコマンドは、IPXDESCという名前のIPX記述についての情報を表示します。情報は、コマンドが入力されたワークステーションに表示されます。コマンドがバッチ・ジョブから投入された場合には、コマンドからの出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPD8FCF

IPX記述&1が見つからない。

CPF26C5

IPX記述&1は前に削除された。

[トップ](#)

ジョブ表示 (DSPJOB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ表示 (DSPJOB)コマンドは、指定されたジョブについて次のいずれかの情報を表示します。

- ジョブ状況属性
- ジョブ定義属性
- ジョブ実行属性
- スプール・ファイル情報
- ジョブ・ログ情報
- 呼び出しスタック情報
- ジョブ・ロック情報
- ライブラリー・リスト情報
- オープン・ファイル情報
- ファイル一時変更情報
- コミットメント制御状況
- 通信状況
- 活動化グループ情報
- 相互除外情報
- スレッド情報
- 媒体ライブラリー属性情報

ジョブがジョブ待ち行列上にあっても、出力待ち行列にあっても、あるいはシステムで活動状態であっても、情報を表示することができます。しかし、ジョブは、すべての入力が完全に読み込まれるまで、システムにあるとは見なされないことに注意してください。すべての入力が読み込まれて、はじめて項目がジョブ待ち行列に置かれます。

制約事項:

1. コマンド発行側は、表示しているジョブのジョブ・ユーザー識別と同じユーザー・プロファイルのもとで実行しなければなりません。あるいはコマンド発行側は、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限を持つユーザー・プロファイルのもとで実行しなければなりません。

ジョブ・ユーザー識別はユーザー・プロファイルの名前であり、これによってジョブは他のジョブに認識されます。ジョブ・ユーザー識別の詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/iseres/infocenter))にある「実行管理機能」情報にあります。

2. このコマンドの実行時にジョブが保留中である場合には、ジョブに関する活動化グループ情報を表示できません。
3. OPTION(*FILOVR)またはOPTION(*ALL)が指定されている場合には、このコマンドは複数のスレッドを使用できるジョブでは失敗します。

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション, 定位置 2
OPTION	オプション	*SELECT, *STSA, *DFNA, *RUNA, *SPLF, *JOBLOG, *PGMSTK, *JOBLOCK, *LIBL, *OPNF, *FILOVR, *CMTCTL, *CMNSTS, *ACTGRP, *MUTEX, *THREAD, *MLBA, *ALL	オプション
DUPJOB OPT	重複ジョブ・オプション	*SELECT, *MSG	オプション

ジョブ名 (JOB)

情報が表示されるジョブの名前を指定します。

単一値

* 情報が表示されるジョブは、この表示コマンドが実行されたジョブです。

修飾子1: ジョブ名

名前 表示されるジョブの名前を指定してください。ジョブ修飾子を指定しない場合には、現在システムにあるすべてのジョブから単純ジョブ名が検索されます。指定された名前と重複するものが見つかった場合には、すべての重複を示す修飾ジョブ名の入ったメッセージのリストが表示されます。

修飾子2: ユーザー

名前 ジョブの実行に使用されるユーザー・プロファイルを識別する名前を指定してください。

修飾子3: 番号

000000から999999

システムによって割り当てられたジョブ番号を指定してください。

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスプール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

トップ

オプション (OPTION)

表示される情報を指定します。

***SELECT**

メニューが表示され、すべてのオプションおよび機能キーを使用することができます。

***STSA** ジョブの識別特性および状況が表示されます。

***DFNA**

ジョブに関連するジョブ記述中の定義属性が表示されます。

***RUNA**

ジョブの実行属性が表示されます。

***SPLF** ジョブによって所有されるスプール・ファイルが表示されます。このコマンドを出したスレッドのライブラリー名スペースの出力待ち行列上にあるスプール出力ファイルのみが表示されます。

***JOBLOG**

ジョブによって処理されたコマンドおよびそのコマンドの実行から戻されたメッセージが表示されます。

***PGMSTK**

呼び出しスタック中のすべてのプログラムのすべての情報が表示されます。

***JOBLOCK**

保留ロックおよび待機中のロックを含め、ジョブによって保留されたすべての外部オブジェクト・ロックが表示されます。

***LIBL** ジョブ名 (JOB)パラメーターに指定されたジョブが、コマンドの実行されたジョブである場合には、スレッドのライブラリー・リストが表示されます。その他のジョブの場合には、初期スレッドのライブラリー・リストが表示されます。

***OPNF**

ジョブでオープン状態のファイル、およびシステム・ファイルとユーザー・ファイルの状況が表示されます。

***FILOVR**

ジョブの活動中の呼び出しレベルにおけるファイル一時変更が表示されます。

***CMTCTL**

ジョブのコミットメント制御状況が表示されます。

***CMNSTS**

ジョブの通信状況が表示されます。

***ACTGRP**

ジョブと対応する活動化グループが表示されます。

***MUTEX**

ジョブの初期スレッドと関連した相互除外情報が表示されます。

***THREAD**

ジョブのスレッドについての情報が表示されます。

***MLBA**

ジョブの媒体ライブラリー属性に関する情報が表示されます。

***ALL** すべてのオプションが表示されます。

[トップ](#)

重複ジョブ・オプション (DUPJOB OPT)

このコマンドで重複ジョブが見つかった時に取られる処置を指定します。

***SELECT**

対話式セッション中に重複しているジョブが見つかった時には、選択画面が表示されます。そうでない場合には、メッセージが出されます。

***MSG** 重複しているジョブが見つかった時には、メッセージが出されます。

[トップ](#)

例

例1: スプール出力の印刷

```
DSPJOB JOB(SMITH/PAYROLL) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、SMITHという名前のユーザーによって投入されたPAYROLLという名前のジョブに関する情報を、印刷のためにジョブの出力スプーリング待ち行列に送ります。

例2: ジョブのスプール出力の表示

```
DSPJOB OPTION(*SPLF)
```

このコマンドは、現行ジョブのスプール出力を表示します。

例3: ジョブのすべての情報の表示

```
DSPJOB OPTION(*ALL)
```

このコマンドは、現行ジョブに関するすべての情報を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF0941

ジョブ&3/&2/&1はもはやシステムにない。

CPF1069

重複名の終わり。

CPF1070

ジョブ&3/&2/&1が見つからない。

CPF1071

ジョブ&3/&2/&1に対する権限がない。

CPF2443

ジョブが終了したため、ジョブ・ログは表示またはリストされなかった。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3336

ジョブ&5/&4/&3はすでにシステムにはない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

ジョブ記述表示 (DSPJOBBD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ記述表示 (DSPJOBBD)コマンドは、指定されたジョブ記述の内容を表示します。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - ジョブ記述に対するオブジェクト操作(*OBJOPR)および読み取り(*READ)権限と、そのジョブ記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOBBD	ジョブ記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2

トップ

ジョブ記述 (JOBBD)

表示するジョブ記述の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジョブ記述

名前 表示するジョブ記述の名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 ジョブ記述が入っているライブラリーを指定します。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

* 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

```
DSPJOB  JOB(MYLIB/SPECIAL)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBに保管されているSPECIALという名前のジョブ記述を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1618

ライブラリー&2のジョブ記述&1に損傷がある。

CPF1623

ジョブ記述&1は表示されなかった。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

ジョブ・ログ表示 (DSPJOBLOG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・ログ表示(DSPJOBLOG)コマンドは、ジョブ・ログが書き出されていない時に、まだ活動状態のジョブに対して、コマンドおよび関連したメッセージを示します。また、このコマンドは、処理を開始していなかったジョブ待ち行列上のジョブに対するコマンドも示します。

このコマンドは、ジョブの進行をモニターするために使用されます。

注: この機能には、ジョブ表示(DSPJOB)およびジョブ処理(WRKJOB)コマンドを通じてアクセスすることもできます。

制約事項:

- ジョブ・ログを表示するには、ユーザーがジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限を持っているか、あるいはジョブがDSPJOBLOGコマンドを実行しているユーザーと同じユーザー名を持っていることが必要です。
- 全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っているジョブのジョブ・ログを表示するには、ユーザーが*ALLOBJ特殊権限を持っているか、あるいはISERIESナビゲーターのアプリケーション管理サポートによりOS/400の「全オブジェクト・ジョブ・ログ」機能が許可されていなければなりません。
QIBM_ACCESS_ALLOBJ_JOBLOGの機能IDを持つ機能使用法情報の変更(CHGFCNUSG)コマンドも、*ALLOBJ特殊権限を持つジョブのジョブ・ログを表示できるユーザーのリストを変更するために使用することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション, 位置 1
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *APIDFN, *OUTFILE	オプション, 位置 2
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

ジョブ名 (JOB)

ジョブ・ログが示されるジョブの名前を指定します。

単一値

*
_ ジョブ・ログが示されるジョブは、このコマンドが出されたジョブです。

その他の値

修飾ジョブ名

ジョブ・ログが示されるジョブを指定します。ジョブの修飾名を指定しない場合は、システムに現在あるすべてのジョブで単純ジョブ名が検索されます。指定された名前の重複が見つかった場合は、すべての重複名の修飾ジョブ名を含むメッセージのリストが示されます。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元ワークステーションに表示するか、ジョブのスパール出力で印刷するか、あるいはデータベース・ファイルへ送るかを指定します。

*
_ 出力は表示されるか（対話式ジョブで要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブで要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、OUTFILEパラメーターに指定されたデータベース・ファイルに送られます。このオプションを使用できるのは、JOBパラメーターが特殊値のアスタリスク(*)を指定している場合だけです。このオプションだけを使用すると、1次出力ファイルを作成することができます。

*APIDFN

出力は、前にQMHCTLJL APIを実行することによって準備されたデータベース・ファイルに送られます。*APIDFNは、JOB(*)も指定した場合にだけ指定することができます。OUTFILEおよびOUTMBRパラメーターは使用されません。

この値を使用すると、1次と2次の両方の出力ファイルを作成することができます。APIに指定したメッセージ・フィルターは、メッセージをデータベースに書き出す前にメッセージに適用されます。出力ファイルのデータベース形式(QMHPFT)は、弊社提供データベース・ファイルQAMHJLPRに指定された形式と同じです。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在しない場合には、このコマンドによって、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。そのメンバーがすでに存在している場合には、既存のメンバーの終わりに新しいレコードを追加するか、あるいはそのメンバーを消去して新しいメンバーを追加するオプションがあります。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

[トップ](#)

例

DSPJOBLOG JOB(ANDERSON/PAYROLL) OUTPUT(*PRINT)

このコマンドは、ユーザーANDERSONのためのジョブPAYROLLのジョブ・ログを作成します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF0941

ジョブ&3/&2/&1はもはやシステムにない。

CPF1069

重複名の終わり。

CPF1070

ジョブ&3/&2/&1が見つからない。

CPF24DB

*APIDFNオプションの場合には、最初にQMHCTLJL APIを実行しなければならない。

CPF24D7

ジョブ・ログ作成用にライブラリー&2のファイル&1を使用することができない。

CPF24D8

ジョブ・ログ作成用にライブラリー&2のDDMファイル&1を使用することはできません。

CPF24E0

ジョブ・ログをライブラリー&2中のファイル&1に書き出している時に障害が起こった。

CPF2441

ジョブ・ログの表示は許可されていません。

CPF2443

ジョブが終了したため、ジョブ・ログは表示またはリストされなかった。

CPF2523

ジョブ・ログ情報がない。

CPF2532

ジョブ・メッセージ待ち行列に損傷がある。ジョブ・ログは終了しました。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ジョブ・テーブルの表示 (DSPJOBTL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・テーブルの表示 (DSPJOBTL)コマンドは、このシステム上のすべてのジョブをトレースするためにオペレーティング・システムによって使用される内部システム・オブジェクトであるジョブ・テーブルに関する情報を表示します。この情報には、テーブルのサイズおよびテーブル内の種々のタイプの項目数が含まれます。これらのテーブルの項目数は、各種のオペレーティング・システムIPLステップ、コマンド、およびジョブを処理するアプリケーション・プログラム・インターフェース(API)のパフォーマンスに影響することがあります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

* 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

DSPJOBTL OUTPUT(*)

このコマンドは、ジョブ・テーブルに関する情報を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

ジャーナル表示 (DSPJRN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル表示(DSPJRN)コマンドにより、ジャーナル項目(1つまたは複数のレシーバーの中に入っている)を外部表示に適した形式に変換することができます。このコマンドの出力は、ジョブのプール印刷装置出力で表示または印刷するか、あるいはデータベース出力ファイルに送ることができます。データベース出力ファイルが存在している場合には、指示されたファイル・メンバー中の現行データにレコードが置き換わるか、追加されます。データベース・ファイルが存在していない場合には、システムは指定されたデータベース・ファイルおよびメンバーを作成します。システムによって作成されたデータベース・ファイルは標準形式になっています。出力ファイルの指定された最大レコード長より長い項目がある場合には、警告メッセージが送信され、レコードは切り捨てられます。

ジャーナル・レシーバー中の選択された項目の内容を出力用に変換することができます。また、表示される項目を選択的に限定することもできます。選択基準または限定基準を満たすジャーナル項目がない場合には、そのことを知らせるエスケープ・メッセージが送られます。

変換された項目の順序番号の中にギャップが存在する場合があります。これは、一部のジャーナル項目が内部的なシステム情報を表すために起こります。これらの内部項目は、INCHIDENT(*YES)を指定することによって表示することができます。

指定されるレシーバーの連鎖の中でジャーナル順序番号がリセットされるジャーナル項目を表示することは可能です。

制約事項:

- データベース出力ファイルとして指定されたファイルを同じジャーナルに対してジャーナル処理することはできません。データベース出力ファイルのレコード様式の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「データベース」情報を参照してください。
- 順序番号が指定されたレシーバーの範囲内でリセットされる場合には、FROMENTLRGまたはFROMENTが指定されていれば、最初に現れた方が使用されます。TOENTLRGまたはTOENTが指定されている場合には、FROMENTLRGまたはFROMENTが指定されていれば、FROMENTLRGまたはFROMENT項目の後に最初に現れた方が使用されます。そうでない場合には、最初に現れたものが使用されます。
- 指定されたレシーバー範囲内の1つまたは複数のジャーナル・レシーバーが、このデータを省略しているレシーバー・サイズ・オプション(RCVSIZOPT)または固定長データ・オプション(FIXLENDTA)が有効なジャーナルに接続されている場合には、選択基準の指定にJOB, PGM, およびUSRPRFパラメーターを使用することはできません。
- FILE, OBJ, OBJPATH, OBJFID, SUBTREE, PATTERN, JRNCDE, ENTTYP, JOB, PGM, USRPRF, CCIDLRG, CMTCYCID, およびDEPENTパラメーターを使用して、ジャーナル項目の範囲内の使用可能なすべての項目のサブセットを指定することができます。
 - これらのパラメーターを使用して値を指定しない場合には、使用可能なすべてのジャーナル項目は出力用に変換されます。

- これらのパラメーターの複数を指定する場合には、JRNCDEパラメーターで*IGNFILSLTまたは*IGNOBSLTが指定されている場合を除き、ジャーナル項目はそれらのパラメーターで指定されているすべての値を満たさなければなりません。
- JRNCDEパラメーターでジャーナル・コードが指定されていて、*IGNFILSLTがそのジャーナル・コードの2番目の要素である場合には、それらがFILEパラメーターで指定されているものを除くすべての選択基準を満たしていれば、指定されたジャーナル・コードを持つジャーナル項目が選択されます。
- JRNCDEパラメーターでジャーナル・コードが指定されていて、*IGNOBSLTがそのジャーナル・コードの2番目の要素である場合には、それらがOBJ, OBJPATH, OBJFID, SUBTREE,およびPATTERNパラメーターで指定されているものを除くすべての選択基準を満たしていれば、指定されたジャーナル・コードを持つジャーナル項目が選択されます。
- オブジェクトの最大数(32767オブジェクト)を超えるオブジェクトが識別されている場合には、エラーが起って項目は受け入れられません。*ALLFILEが指定されているか、オブジェクトが指定されていない場合には、この制約事項は無視されます。
- ジャーナル・キャッシュが使用されている場合には、キャッシュ内の項目を表示することはできません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JRN	ジャーナル	単一値: *INTSYSJRN その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジャーナル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
FILE	ジャーナルされた物理ファイル	単一値: *ALLFILE その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: メンバー	名前, *FIRST, *ALL, *NONE	
OBJ	オブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	*FILE, *DTAARA, *DTAQ	
	要素 3: データベース・ファイルの場合にメンバー	名前, *FIRST, *ALL, *NONE	
OBJPATH	オブジェクト	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 名前	パス名	
	要素 2: 組み込みまたは除外	*INCLUDE, *OMIT	
OBJFID	ファイル識別コード	値 (最大 300 回の繰り返し): 16 進値	オプション
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	*NONE, *ALL	オプション
PATTERN	名前パターン	値 (最大 20 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: パターン	文字値, *	
	要素 2: 組み込みまたは除外	*INCLUDE, *OMIT	

キーワード	記述	選択項目	注
RCVRNG	ジャーナル・レシーバーの範囲	単一値: <u>*CURRENT</u> , *CURCHAIN その他の値: 要素リスト	オプション, 定位置 3
	要素 1: 開始ジャーナル・レシーバー	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 開始ジャーナル・レシーバー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
	要素 2: 終了ジャーナル・レシーバー	単一値: <u>*CURRENT</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 終了ジャーナル・レシーバー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
FROMENTLRG	大きい開始順序番号	文字値, <u>*FIRST</u>	オプション
FROMTIME	開始日および時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始日付	日付	
	要素 2: 開始時刻	時刻	
TOENTLRG	大きい終了順序番号	文字値, <u>*LAST</u>	オプション
TOTIME	終了日および時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 終了日付	日付	
	要素 2: 終了時刻	時刻	
NBRENT	ジャーナル項目の数	整数, <u>*ALL</u>	オプション
JRNCDE	ジャーナル・コード	単一値: <u>*ALL</u> , *CTL その他の値 (最大 16 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ジャーナル・コード値	A, B, C, D, E, F, J, L, M, P, Q, R, S, T, U	
	要素 2: ジャーナル・コードの選択	<u>*ALLSLT</u> , *IGNFILSLT, *IGNOBJSLT	
ENTTYP	ジャーナル項目タイプ	単一値: <u>*ALL</u> , *RCD その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
JOB	ジョブ名	単一値: <u>*ALL</u> その他の値: 修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
PGM	プログラム	名前, <u>*ALL</u>	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	名前, <u>*ALL</u>	オプション
CCIDLRG	大きいコミット・サイクルID	文字値, <u>*ALL</u>	オプション
DEPENT	従属項目	<u>*ALL</u> , *NONE	オプション
OUTFMT	出力形式	<u>*CHAR</u> , *HEX	オプション
JRNID	ジャーナル識別番号	文字値	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション
INCHIDENT	隠れた項目の組み込み	<u>*NO</u> , *YES	オプション
OUTFILFMT	出力ファイル形式	<u>*TYPE1</u> , *TYPE2, *TYPE3, *TYPE4, *TYPE5	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	<u>*REPLACE</u> , *ADD	
ENTDTALEN	項目データの長さ	単一値: <u>*OUTFILFMT</u> , *CALC その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: フィールドのデータ形式	整数, <u>*VARLEN</u>	
	要素 2: 可変長フィールドの長さ	整数, *CALC	
	要素 3: 割り振られた長さ	整数, *FLDLEN	
NULLINDLEN	ヌル値標識の長さ	単一値: <u>*OUTFILFMT</u> , *CALC その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: フィールドのデータ形式	1-8000, <u>*VARLEN</u>	
	要素 2: 可変長フィールドの長さ	1-8000, *CALC	
	要素 3: 割り振られた長さ	1-8000, *FLDLEN	
INCENT	項目の組み込み	<u>*CONFIRMED</u> , *ALL	オプション
FROMENT	開始順序番号	1-999999999, <u>*FIRST</u>	オプション
TOENT	終了順序番号	1-999999999, <u>*LAST</u>	オプション
CMTCYCID	コミット・サイクル識別コード	1-999999999, <u>*ALL</u>	オプション

トップ

ジャーナル (JRN)

変換および出力のために検索されるジャーナル項目が入っているジャーナルを指定します。

これは必須パラメーターです。

単一値

*INTSYSJRN

JRNIDパラメーターで指定したジャーナルに関連したシステムの内部ジャーナルが使用されます。システムの内部ジャーナルはライブラリーには保管されません。

注: JRN(*INTSYSJRN)を指定する場合には、JRNIDに値を指定する必要があります。

注: JRN(*INTSYSJRN)を指定するためには、*ALLOBJ特殊権限が必要です。

修飾子1: ジャーナル

ジャーナル名

ジャーナルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

ジャーナルされた物理ファイル (FILE)

ジャーナル項目が出力用に変換される最大300の修飾済みファイル名を指定します。このパラメーターは、ジャーナル項目が出力用に変換されるファイル・メンバーの名前も指定します。

FILEパラメーターを指定するか、オブジェクト・パラメーター(OBJ, OBJPATH,またはOBJFID)の1つ以上を指定することができますが、両方を指定することはできません。

指定されたファイル・メンバー名に基づいて、どのジャーナル項目を出力用に変換するかを判別するために、次が実行されます。

- ジャーナルがローカル・ジャーナルである場合、あるいは指定されたファイル・メンバーが現在システムに存在している場合には、ジャーナルIDは指定されたファイル・メンバーから判別されます。そのジャーナルIDについて指定されたレシーバー範囲内のジャーナル項目がすべて出力用に変換されます。
- ジャーナルがリモート・ジャーナルである場合、あるいは指定されたファイル・メンバーが現在システムに存在していない場合には、指定されたファイル・メンバーと対応している使用可能なジャーナルIDをすべて判別するために、指定されたレシーバーの範囲が検索されます。それらのジャーナルIDについて指定されたレシーバー範囲内のジャーナル項目がすべて出力用に変換されます。項目をファイル用に戻すには、ライブラリー名または*CURLIBを指定してください。

指定されたレシーバー範囲内には、指定されたオブジェクトと関連付けられた複数のジャーナルIDがある場合があります。これは、ジャーナル処理されたオブジェクトが削除されて同じ名前でも新しいオブジェクトが作成され、同じジャーナルにジャーナル処理された場合に起こり得ます。

注:

1. ジャーナル処理がそのオブジェクトのために開始されている場合には、ジャーナルIDはそのオブジェクトと対応した固有のIDです。このオブジェクトが名前変更、移動、または復元された場合であっても、ジャーナルIDは一定になっています。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ジャーナル管理」情報を参照してください。
2. このパラメーターにデータベース・ファイルを指定した時に、次のジャーナル・コード値を持つジャーナル項目が出力用に変換されるのは、それらが他のパラメーターに指定された値を満たしている場合だけです。
 - ジャーナル・コードD (データベース・ファイル・レベル情報項目)。
 - ジャーナル・コードF (ファイル・メンバー・レベル情報項目)。
 - ジャーナル・コードR (レコード・レベルの情報項目)
 - ジャーナル・コードU (ユーザー生成の項目)
 - その他のジャーナル・コード (*IGNFILSLTがジャーナル・コードの2番目の要素である場合)。
*ALLSLTがジャーナル・コードの2番目の要素である場合には、そのコードを持つジャーナル項目は出力用に変換されません。

単一値

***ALLFILE**

受け取られるジャーナル項目の検索は、指定したファイル名に限定されません。項目がどのオブジェクト（もしあれば）に関連付けられているかに関係なく、すべてのジャーナル項目が出力用に変換されます。

要素1: ファイル

修飾子1: ファイル

ALL** ジャーナル処理された変更が現在ジャーナル・レシーバーに入っている、指定されたライブラリー（このライブラリー名が指定されている必要がある）内のすべての物理ファイルのジャーナル項目が出力用に変換されます。ALL**が指定されていて、ユーザーがファイルのすべてに対して必要な権限を持っていない場合には、エラーが起こり、コマンドは終了します。

ファイル名

ジャーナル項目が出力用に変換される物理データベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2:ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ファイルのあるライブラリーを指定します。

要素2: メンバー

***FIRST**

データベース・ファイルのジャーナル項目およびファイルの最初のメンバーが出力用に変換されます。

***ALL** データベース・ファイルのジャーナル項目および現在ファイルに存在しているすべてのメンバーが出力用に変換されます。

***NONE**

データベース・ファイルの項目だけが出力用に変換されます。ファイルのメンバーの項目は出力用に変換されません。

名前 項目が出力用に変換されるファイル・メンバーの名前を指定してください。指定された物理ファイルがシステム上に存在しない場合には、***ALL**または特定のファイル・メンバー名を指定してください。

ファイル名要素に*ALLを指定した場合には、このメンバー名がライブラリー中のすべての適用可能なファイルに対して使用されます。たとえば、FILEパラメーターでライブラリー名/*ALL *FIRSTが指定されている場合には、指定されたライブラリーの適用可能なすべてのファイルの最初のメンバーのジャーナル項目が出力用に変換されます。

トップ

オブジェクト (OBJ)

ジャーナル項目が出力用に変換される最大300の修飾オブジェクト名を指定します。考えられるオブジェクト・タイプは*FILE, *DTAARA,および*DTAQです。*FILEが指定されている場合には、このパラメーターはそのジャーナル項目が出力用に変換されるファイル・メンバーの名前も指定します。

FILEパラメーターを指定するか、オブジェクト・パラメーター(OBJ, OBJPATH,またはOBJFID)の1つ以上を指定することができますが、両方を指定することはできません。

指定されたオブジェクト名に基づいてどのジャーナル項目が出力用に変換されるかを判別するために、以下が実行されます。

- ジャーナルがローカル・ジャーナルの場合、および指定されたオブジェクトが現在システムに存在している場合には、ジャーナルIDは指定されたオブジェクトから判別されます。そのジャーナルIDについて指定されたレシーバー範囲内のジャーナル項目がすべて出力用に変換されます。
- ジャーナルがリモート・ジャーナルの場合、または指定されたオブジェクトが現在システムに存在しない場合には、指定されたレシーバー範囲が検索されて、指定されたオブジェクトと関連付けられている可能なすべてのジャーナルIDが判別されます。それらのジャーナルIDについて指定されたレシーバー範囲内のジャーナル項目がすべて出力用に変換されます。項目をオブジェクト用に戻すには、ライブラリー名または*CURLIBを指定してください。

指定されたレシーバー範囲内には、指定されたオブジェクトと関連付けられた複数のジャーナルIDがある場合があります。これは、ジャーナル処理されたオブジェクトが削除されて同じ名前でも新しいオブジェクトが作成され、同じジャーナルにジャーナル処理された場合に起こり得ます。

注:

1. ジャーナル処理がそのオブジェクトのために開始されている場合には、ジャーナルIDはそのオブジェクトと対応した固有のIDです。このオブジェクトが名前変更、移動、または復元された場合であっても、ジャーナルIDは一定になっています。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ジャーナル管理」情報を参照してください。
2. このパラメーターでオブジェクトを指定した場合に、次のジャーナル・コード値を持つジャーナル項目が出力用に変換されるのは、オブジェクト名の指定に加えてそれらが他のパラメーターで指定された値を満たしている場合だけです。
 - ジャーナル・コードD (データベース・ファイル・レベル情報項目)。
 - ジャーナル・コードE (データ域情報項目)。
 - ジャーナル・コードF (ファイル・メンバー・レベル情報項目)。
 - ジャーナル・コードQ (データ待ち行列情報項目)。
 - ジャーナル・コードR (レコード・レベルの情報項目)
 - ジャーナル・コードU (ユーザー生成の項目)

- *IGNOBSLTLがジャーナル・コードの2番目の要素である場合には、その他のジャーナル・コード。
- *ALLSLTLがジャーナル・コードの2番目の要素である場合には、そのコードを持つジャーナル項目は出力用に変換されません。

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

ALL** 指定されたライブラリー（ライブラリー名を指定する必要がある）内の、ジャーナル処理された変更が現在ジャーナル・レシーバーに入っている、指定されたオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトのジャーナル項目が出力用に変換されます。ライブラリー名を指定しなければなりません。ALL**が指定されていても、ユーザーがライブラリー内のすべてのオブジェクトに対して必要な権限を持っていないければ、メッセージが送られて、コマンドは終了します。

オブジェクト名

ジャーナル処理された変更が出力用に変換されるオブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: オブジェクト・タイプ

ジャーナル処理された変更が出力用に変換されるオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定してください。

***FILE** データベース・ファイルの項目およびデータベース・ファイル・メンバーが出力用に変換されます。

***DTAARA**

データ域の項目が出力用に変換されます。

***DTAQ**

データ待ち行列の項目が出力用に変換されます。

要素3: データベース・ファイルの場合にメンバー

そのジャーナル項目が出力用に変換されるファイルのメンバーの名前を指定してください。このパラメーターの最初の部分に***ALL**を指定した場合には、ライブラリー中の適用可能なすべてのファイルにメンバー名に指定された値が使用されます。たとえば、***FIRST**が指定されていると、指定されたライブラリー内の適用可能なすべてのファイルの最初のメンバーのジャーナル項目が出力用に変換されます。

注: 指定のオブジェクト・タイプが***FILE**ではない場合は、メンバー名要素値は無視されます。

***FIRST**

データベース・ファイルのジャーナル項目およびファイルの最初のメンバーが出力用に変換されます。

***ALL** データベース・ファイルのジャーナル項目および現在ファイルに存在しているすべてのメンバーが出力用に変換されます。

***NONE**

データベース・ファイルの項目だけが出力用に変換されます。ファイルのメンバーの項目は出力用に変換されません。

名前 項目が出力用に変換されるファイル・メンバーの名前を指定してください。指定された物理ファイルがシステム上に存在しない場合には、***ALL**または特定のファイル・メンバー名を指定してください。

オブジェクト名要素に***ALL**が指定されている場合には、ライブラリー内の適用可能なすべてのファイルにこのメンバー名が使用されます。たとえば、**OBJ**パラメーターでライブラリー名/***ALL *FILE *FIRST**が指定されていると、指定されたライブラリー内の適用可能なすべてのファイルの最初のメンバーのジャーナル項目が出力用に変換されます。

トップ

オブジェクト (OBJPATH)

ジャーナル項目が出力用に変換される最大300個のオブジェクトを指定します。「ルート」(/), QOPENSYS, およびユーザー定義ファイル・システムに入っている、そのパス名がタイプ***STMF**, ***DIR**,または***SYMLNK**のオブジェクトを識別するオブジェクトだけがサポートされます。他のオブジェクトはすべて無視されます。

このパラメーターはリモート・ジャーナルには無効です。

FILEパラメーターを指定するか、オブジェクト・パラメーター(**OBJ**, **OBJPATH**,または**OBJFID**)の1つ以上を指定することができますが、両方を指定することはできません。

現在指定されたパス名とリンクされていて、それらと関連付けられているジャーナルIDを持つオブジェクトだけがジャーナル項目の選択に使用されます。指定されたオブジェクトが存在しない場合には、そのリンクと関連付けられたジャーナルIDがジャーナル項目の選択に使用されます。指定されたオブジェクトが存在しないか、それと関連付けられたジャーナルIDを持っていない場合には、そのリンクはジャーナル項目の選択には使用されず、エラーは送られません。

注:

1. ジャーナル処理がそのオブジェクトのために開始されている場合には、ジャーナルIDはそのオブジェクトと対応した固有のIDです。このオブジェクトが名前変更、移動、または復元された場合であっても、ジャーナルIDは一定になっています。詳細については、**ISERIES INFORMATION CENTER** ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ジャーナル管理」情報を参照してください。
2. このパラメーターでオブジェクトを指定した場合に、次のジャーナル・コード値を持つジャーナル項目が出力用に変換されるのは、オブジェクト名の指定に加えてそれらが他のパラメーターで指定された値を満たしている場合だけです。
 - ジャーナル・コード**B** (統合ファイル・システム情報項目)。
 - ジャーナル・コード**U** (ユーザー生成の項目)
 - ***IGNOBSLT**がジャーナル・コードの2番目の要素である場合には、その他のジャーナル・コード。
***ALLSLT**がジャーナル・コードの2番目の要素である場合には、そのコードを持つジャーナル項目は出力用に変換されません。

要素1: 名前

パス名 パス名によって識別されたオブジェクトの項目が出力用に変換されます。

パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンが入っている場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。パス名内の記号リンクはその限りではありません。パス名が波形記号文字で始まっている場合には、そのパスは該当するホーム・ディレクトリーに相対するものとみなされます。

パス名パターンの詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「統合ファイル・システム」情報にあります。

要素2: 組み込みまたは除外

2番目の要素は、パス名と一致する名前を操作に含めるか、それとも操作から除外するかを指定します。名前がパターンと一致するかどうかを判別する時に、相対的な名前パターンは常に現行作業ディレクトリーとの相対関係として取り扱われることに注意してください。

注: SUBTREEパラメーターは、サブツリーを組み込むかまたは除外するかを指定します。

***INCLUDE**

オブジェクト名のパターンと一致するオブジェクトは、*OMITの指定によって指定変更されない限り、どのジャーナル項目を出力用に変換するかの決定に組み込まれます。

***OMIT**

オブジェクト名のパターンと一致するオブジェクトは、出力用に変換されるジャーナル項目の決定に組み込まれません。これは*INCLUDEの指定を一時変更するもので、前に選択されたパターンのサブセットを除外するために使用されることとなります。

トップ

ファイル識別コード (OBJFID)

ジャーナル項目が出力用に変換される最大300個のファイルID (FID)を指定します。FIDは統合ファイル・システム関連オブジェクトと関連付けられている固有のIDです。このフィールドは16進形式で入力されます。「ルート」(/), QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムに入っている、そのFIDがタイプ*STMF, *DIR,または*SYMLNKのオブジェクトを識別するオブジェクトだけがサポートされます。他のオブジェクトはすべて無視されます。

FILEパラメーターを指定するか、オブジェクト・パラメーター(OBJ, OBJPATH,またはOBJFID)の1つ以上を指定することができますが、両方を指定することはできません。

指定されたファイルIDに基づいて、どのジャーナル項目を出力用に変換するかを判別するために、以下が実行されます。

- ジャーナルがローカル・ジャーナルの場合、および指定されたオブジェクトが現在システムに存在している場合には、ジャーナルIDは指定されたオブジェクトから判別されます。そのジャーナルIDについて指定されたレシーバー範囲内のジャーナル項目がすべて出力用に変換されます。
- ジャーナルがリモート・ジャーナルの場合、または指定されたオブジェクトが現在システムに存在しない場合には、指定されたレシーバー範囲が検索されて、指定されたオブジェクトと関連付けられている

可能なすべてのジャーナルIDが判別されます。それらのジャーナルIDについて指定されたレシーバー範囲内のジャーナル項目がすべて出力用に変換されます。

注:

1. ジャーナル処理がそのオブジェクトのために開始されている場合には、ジャーナルIDはそのオブジェクトと対応した固有のIDです。このオブジェクトが名前変更、移動、または復元された場合であっても、ジャーナルIDは一定になっています。詳細については、**ISERIES INFORMATION CENTER** ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ジャーナル管理」情報を参照してください。
2. このパラメーターでオブジェクトを指定した場合に、次のジャーナル・コード値を持つジャーナル項目が出力用に変換されるのは、オブジェクト名の指定に加えてそれらが他のパラメーターで指定された値を満たしている場合だけです。
 - ジャーナル・コードB (統合ファイル・システム情報項目)。
 - ジャーナル・コードU (ユーザー生成の項目)
 - *IGNOBSLTがジャーナル・コードの2番目の要素である場合には、その他のジャーナル・コード。
*ALLSLTがジャーナル・コードの2番目の要素である場合には、そのコードを持つジャーナル項目は出力用に変換されません。

ファイルID

FIDで識別されたオブジェクトの項目が出力用に変換されます。

[トップ](#)

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

ジャーナル項目が出力用に変換されるオブジェクトを決定する際に、ディレクトリー・サブツリーを組み込むかどうかを指定します。

注: このパラメーターは、OBJPATHパラメーターに1つまたは複数のパス名を指定する場合にだけ有効です。

*NONE

選択基準と一致するオブジェクトだけが処理されます。選択したディレクトリーにあるオブジェクトは、暗黙に処理されません。

*ALL 選択基準と一致する各ディレクトリーのサブツリー全体に加えて、選択基準と合ったすべてのオブジェクトが、処理されます。このサブツリーには、すべてのサブディレクトリーおよびそのサブディレクトリー内のオブジェクトが含まれます。

[トップ](#)

名前パターン (PATTERN)

ジャーナル項目が出力用に変換されるオブジェクトを組み込むかまたは除外するために使用する最大20個のパターンを指定します。

名前パターンの突き合わせにはパス名の終わりの部分だけが考慮されます。パス名区切り文字は名前パターンで使用できません。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンが入っている場合には、パス名をアポストロフで囲まなければなりません。

名前パターンのパラメーターを指定しないと、省略時値によりすべてのパターンが突き合わされます。

注: このパラメーターは、OBJPATHパラメーターに1つまたは複数のパス名を指定する場合にだけ有効です。

要素1: パターン

***'** 入力OBJPATHパラメーターと一致するすべてのオブジェクトが組み込まれます。

名前パターン

ジャーナル項目が出力用に変換されるオブジェクトを組み込むかまたは除外するために使用するパターンを指定します。名前パターンの突き合わせにはパス名の終わりの部分だけが考慮されます。パス名区切り文字は名前パターンで使用できません。

名前パターンのパラメーターを指定しないと、省略時値によりすべてのパターンが突き合わされます。

パス名パターンの詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報にあります。

要素2: 組み込みまたは除外

2番目の要素は、パターンと一致する名前を操作に含めるかまたは操作から除外するかを指定します。名前がパターンと一致するかどうかを判別する時に、相対的な名前パターンは常に現行作業ディレクトリーとの相対関係として取り扱われることに注意してください。

注: SUBTREEパラメーターは、ディレクトリー・サブツリーを組み込むかまたは除外するかを指定します。

***INCLUDE**

*OMITの指定によって変更されない限り、オブジェクト名パターンと一致するオブジェクトが操作に組み込まれます。

***OMIT**

オブジェクト名パターンと一致するオブジェクトは操作に組み込まれません。これは*INCLUDEの指定を一時変更するもので、前に選択されたパターンのサブセットを除外するために使用されることとなります。

トップ

ジャーナル・レシーバーの範囲 (RCVRNG)

出力用に変換しているジャーナル項目が入っている開始（最初）と終了（最後）のジャーナル・レシーバー（レシーバーの範囲）を指定します。システムは開始のジャーナル・レシーバー（最初の値で指定される）で開始し、終了レシーバー（最後の値で指定される）を処理するまで、そのレシーバー連鎖の終わりまで処理を続けます。

注: この範囲内のレシーバーの最大数(2045)を超えた場合には、エラーが起こり、ジャーナル項目は変換されません。

単一値

***CURRENT**

ジャーナル項目の変換を開始する時点で接続されているジャーナル・レシーバーが使用されます。

***CURCHAIN**

ジャーナル項目の変換の開始時点で接続されているジャーナル・レシーバーを含んでいるジャーナル・レシーバー連鎖が使用されます。このレシーバー連鎖は連鎖の切れ目を越えません。この連鎖内に中断がある場合には、レシーバー範囲はその連鎖中の最新の中断から、ジャーナル項目の変換を開始した時に接続されたレシーバーまでとなります。

要素1: 開始ジャーナル・レシーバー

修飾子1: 開始ジャーナル・レシーバー

名前 項目が出力用に変換される最初のジャーナル・レシーバーの名前を指定してください。

修飾子2: 開始日付

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジャーナル・レシーバーを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーを指定します。

要素2: 終了ジャーナル・レシーバー

単一値

***CURRENT**

ジャーナル項目の変換を開始する時点で接続されているジャーナル・レシーバーが使用されます。

修飾子1: 終了ジャーナル・レシーバー

名前 項目が出力用に変換される最後のジャーナル・レシーバーの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジャーナル・レシーバーを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーを指定します。

[トップ](#)

大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)

外部表示用の変換対象とみなされる最初のジャーナル項目を指定します。

注: 開始順序番号 (FROMENT)パラメーターか大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

*FIRST

指定したジャーナル・レシーバーの範囲の最初のジャーナル項目は、外部表示用の変換対象とみなされる最初の項目です。

開始順序番号

外部表示用の変換対象とみなされる最初のジャーナル項目の割り当て順序番号を指定します。可能な範囲は1から18,446,744,073,709,551,600です。

[トップ](#)

開始日および時刻 (FROMTIME)

外部表現用に変換される最初のジャーナル項目の日付および時刻を指定します。

要素1: 開始日付

日付 開始日を指定してください。指定した開始日および時刻またはその後の最初のジャーナル項目の開始日および時刻が、外部表現用に変換される項目の範囲の開始点となります。

要素2: 開始時刻

開始時刻

開始時刻を指定してください。指定した開始日および時刻またはその後の最初のジャーナル項目の開始日および時刻が、外部表現用に変換される項目の範囲の開始点となります。

時刻は、時刻区切り記号付きまたは時刻区切り記号なしの24時間形式で指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定します。ここで、**HH** =時、**MM** =分、および**SS** =秒です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

[トップ](#)

大きい終了順序番号 (TOENTLRG)

外部表示用に変換される最後のジャーナル項目を指定します。

注: 終了順序番号 (TOENT)パラメーターか大きい終了順序番号 (TOENTLRG)パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

*LAST

指定したジャーナル・レシーバーの範囲の最後のジャーナル項目が、外部表現用に変換される最終項目です。

終了順序番号

外部表示用に変換される最終ジャーナル項目の特定の順序番号を指定します。可能な範囲は1から18,446,744,073,709,551,600です。

トップ

終了日および時刻 (TOTIME)

外部表現用に変換される最後のジャーナル項目の作成日と時刻を指定します。

要素1: 終了日付

終了日 終了日を指定してください。指定した終了日の指定した終了時刻またはその前の最初のジャーナル項目の終了日および時刻が、外部表現用に変換される項目の範囲の終了点となります。

要素2: 終了時刻

終了時刻

終了時刻を指定してください。指定した終了日の指定した終了時刻またはその前の最初のジャーナル項目の終了日および時刻が、外部表現用に変換される項目の範囲の終了点となります。

時刻は、時刻区切り記号付きまたは時刻区切り記号なしの24時間形式で指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。
- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定します。ここで、**HH** =時、**MM** =分、および**SS** =秒です。

トップ

ジャーナル項目の数 (NBRENT)

出力用に変換されるジャーナル項目の合計数を指定します。

***ALL** 選択値を満足させて、指定したジャーナル・レシーバーの範囲内にあるすべてのジャーナル項目が変換されます。

最大項目数

変換されるジャーナル項目の最大数を指定してください。NBRENTパラメーターに指定された値が満たされる前にTOENTLRG, TOENT,またはTOTIMEパラメーターに指定されたジャーナル項目に達した場合には、コマンドは正常に終了します。

トップ

ジャーナル・コード (JRNCDE)

ジャーナル項目が出力用に変換されるジャーナル・コードを指定します。

単一値

***ALL** 変換対象とみなされるジャーナル項目は、特定のジャーナル・コードを持つ項目に制限されません。

***CTL** ジャーナル機能を制御するために作成されたジャーナル項目だけが、外部表現用に変換されます。ジャーナル・コードは'J'および'F'です。

要素1: ジャーナル・コード値

ジャーナル・コード

ジャーナル項目が変換されるジャーナル・コードを指定してください。

このパラメーターに有効なジャーナル・コードのリストを表示するには、JRNCDEプロンプトからF4（プロンプト）キーを押してください。指定できるジャーナル項目のリストの説明は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「ジャーナル管理」情報にあります。

要素2: ジャーナル・コードの選択

***ALLSLT**

指定されたジャーナル・コードのジャーナル項目が出力のために変換されるのは、他のすべての選択パラメーターが満たされている場合だけです。

***IGNFILSLT**

すべての選択パラメーター(FILEパラメーターを除く)を満たす場合に限り、指定されたジャーナル・コードを持つジャーナル項目が出力用に変換されます。

注: この値はジャーナル・コードD, F,およびRの場合には無効です。この値は、OBJ, OBJPATH,またはOBJFIDパラメーターが指定されている場合には無効です。

***IGNOBSLT**

指定されたジャーナル・コードを持つジャーナル項目が出力用に変換されるのは、OBJ, OBJPATH, OBJFID, SUBTREE,およびPATTERNを除くすべての選択パラメーターが満たされている場合だけです。

注: この値はジャーナル・コードB, D, E, F, Q,およびRの場合には無効です。この値は、FILEパラメーターが指定されている場合には無効です。

トップ

ジャーナル項目タイプ (ENTTYP)

ジャーナル項目の変換を、指定した項目タイプのジャーナル項目に限定するかどうかを指定します。

単一値

***ALL** ジャーナル項目の変換は特定の項目タイプに限定されません。

***RCD** レコード・レベル操作の項目タイプを持つ項目だけが変換されます。有効な項目タイプはBR, DL, DR, IL, PT, PX, UB, UP,およびURです。

その他の値

項目タイプ

外部表現用に変換されるジャーナル項目の数を制限する項目タイプを指定してください。最大300の有効な項目タイプを指定できます。項目タイプの詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「ジャーナル管理」情報にあります。

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

外部表現用に変換されるジャーナル項目が指定したジョブのジャーナル項目に限定されることを指定します。指定したジョブのジャーナル項目だけが、外部表現用に変換されます。

単一値

***ALL** 外部表現用のジャーナル項目の変換は、指定したジョブの項目に限定されません。

その他の値

ジョブID

ジョブ名、ユーザー名、および使用するジョブのジョブ番号を指定してください。ジョブ名だけまたはジョブ名とユーザー名を使用するように指定することもできます。

ジョブ名

ジョブのジョブ名を指定してください。

ユーザー名

ジョブのユーザー名を指定してください。

ジョブ番号

システム割り当てジョブ番号を指定してください。

[トップ](#)

プログラム (PGM)

外部表示用に変換されるジャーナル項目が、指定したプログラムによって作成されたジャーナル項目に限定されることを指定します。

***ALL** ジャーナル項目の変換は、特定のプログラムによって作成された項目に限定されません。

プログラム名

ジャーナル項目が外部表示用に変換されるプログラム名を指定します。

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

外部表現用に変換するジャーナル項目を、指定したユーザー・プロファイル名で作成したジャーナル項目に限定するように指定します。ユーザー名は、ジャーナル項目が置かれたジョブを実行したユーザー・プロファイルを示します。

***ALL** ジャーナル項目の変換は、指定したユーザー・プロファイルの項目に限定されません。

ユーザー名

ジャーナル項目を外部表現用に変換するユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

大きいコミット・サイクルID (CCIDLRG)

関連したコミット・サイクルIDに基づいて変換を考慮するジャーナル項目を指定します。コミット・サイクルは、同じコミット・サイクルIDを共有するすべてのジャーナル項目から構成されます。

注: コミット・サイクル識別コードフィールド(CMTCYCID)か大きいコミット・サイクルIDフィールド(CCIDLRG)のいずれかに値を入力することができますが、両方には入力できません。

***ALL** 変換されたジャーナル項目は、指定したコミット・サイクルIDに限定されません。

コミット・サイクルID

変換を考慮するジャーナル項目のコミット・サイクルIDを指定してください。可能な範囲は1から18,446,744,073,709,551,600です。

[トップ](#)

従属項目 (DEPENT)

出力用に変換されるジャーナル項目にジャーナル項目の記録処置を以下のようにして入れるかどうかを指定します。

- トリガー・プログラムの結果として行われる
- 参照制約の一部であるレコード上
- ジャーナル処理済み変更適用(APYJRNCHG)またはジャーナル処理済み変更除去(RMVJRNCHG)の操作中に無視

***ALL** トリガー・プログラム、参照制約、およびジャーナル処理済み変更の適用または除去の操作によって無視される項目に関連したジャーナル項目が変換されます。

*NONE

トリガー・プログラム、参照制約、およびジャーナル処理済み変更の適用または除去の操作によって無視される項目に関連したジャーナル項目が変換されません。

[トップ](#)

出力形式 (OUTFMT)

ジャーナル項目情報の項目固有のデータ部分を文字形式または16進数形式で表示するかどうかを指定します。出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定されている場合には、このキーワードは無視されません。

*CHAR

ジャーナル項目の項目特定データ部分が文字形式で表されます。

*HEX ジャーナル項目の項目特定データ部分が16進数形式で表されます。

[トップ](#)

ジャーナル識別番号 (JRNID)

表示される内部システム・ジャーナル(*INTSYSJRN)の5桁のジャーナルID (ID)を指定します。ジャーナルIDはシステムによって割り当てられます。最初の2桁はジャーナルのタイプを表し、最後の3桁は補助記憶域プール(ASP) IDです。

注: このパラメーターを指定できるのは、JRN(*INTSYSJRN)を指定した場合だけです。

以下はジャーナル・タイプのリストです。

ジャーナル・タイプ

- 10 システム管理のアクセス・パス保護(SMAPP)
- 20 ディレクトリー
- 30 スプール

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力が、要求元のワークステーションで表示されるか、ジョブのスプール印刷装置出力で印刷されるか、あるいは出力を受け取るファイル(OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られるかを指定します。

コマンドの出力が要求元ワークステーションに送られる時に、ジャーナル項目に関する基本情報が表示されます。基本画面からオプションを選択することにより、表示する任意のジャーナル項目の情報を詳細に表示することができます。

出力がジョブのスプール印刷装置出力と一緒に印刷される場合には、表示されるすべての情報が印刷されません。QSYSのファイルQPDSPJRNが印刷出力に使用されます。

* 出力は表示される (対話式ジョブによって要求された場合) か、あるいはジョブのスプール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

トップ

隠れた項目の組み込み (INCHIDENT)

隠されたジャーナル項目を戻すかどうかを指定します。隠された項目はシステムによって生成され使用されます。隠された項目が戻された場合には、すべてのジャーナル項目を表示して、不明のシーケンス番号がないようにすることができます。

***NO** 隠されたジャーナル項目は出力用に変換されません。

***YES** 隠されたジャーナル項目が出力用に変換されます。

トップ

出力ファイル形式 (OUTFILFMT)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定された出力ファイルに書き出されるジャーナル項目の形式を指定します。このパラメーターを指定できるのは、OUTPUTパラメーターに値*OUTFILEが指定されている場合だけです。

注: ジャーナルの レシーバー・サイズ・オプションフィールド(RCVSIZOPT)が*MAXOPT3として指定されていた場合には、順序番号、コミット・サイクルID、適用または除去された項目のカウント、あるいは相対レコード番号フィールドが、18,446,744,073,709,551,600の最大値に達する可能性があります。*TYPE1、*TYPE2、*TYPE3、および*TYPE4形式のこれらのフィールドの長さは、10桁の数字を保持するように定義されます。この最大値を保持できるだけの十分な大きさのフィールドがあるのは*TYPE5形式だけです。

*TYPE1、*TYPE2、*TYPE3、または*TYPE4形式の出力ファイルの構築時に、10桁より大きい順序番号またはコミット・サイクルIDが見つかった場合には、そのレコードについてフィールドは-1に設定されます。出力ファイルの書き込みの終了時に、出力ファイルのそれらの特定のフィールドには不完全な情報が含まれていることを示す警報として、通知メッセージ(CPI7013)がジョブ・ログに対して出されます。

***TYPE1**

変換された項目は、指定可能な最小情報を含むように形式設定されます。各ジャーナル項目の情報フィールドおよび情報の形式は、以下のテーブルに示されています。

表 1. 図: テーブル1 - OUTFILFMT(*TYPE1)ジャーナル項目形式

フィールド名	: 長さ	: 開始	: 終了
項目の長さ	: 5	: 1	: 5
順序番号 (2)	: 10	: 6	: 15
ジャーナル・コード	: 1	: 16	: 16
ジャーナル項目タイプ	: 2	: 17	: 18
日付	: 6	: 19	: 24
時刻	: 6	: 25	: 30
ジョブ名	: 10	: 31	: 40
ユーザー名	: 10	: 41	: 50
ジョブ番号	: 6	: 51	: 56
プログラム名	: 10	: 57	: 66
オブジェクト名	: 10	: 67	: 76
オブジェクト・ライブラリー	: 10	: 77	: 86
メンバー名	: 10	: 87	: 96
カウント/RRN (3)	: 10	: 97	: 106
フラグ	: 1	: 107	: 107
コミット・サイクル ID (4)	: 10	: 108	: 117
未完了データ	: 1	: 118	: 118
最小化された項目 特定データ	: 1 :	: 119 :	: 119 :
予約済み	: 6	: 120	: 125
項目特定データ	: 100 (1)	: 126	: 225

注:

(1)これは、システム提供データベース・ファイルQADSPJRNのフィールド長です。ただし、このフィールドには、ENTDTALENパラメーターを使用して、最大32641バイトまでの長さを指定することができます。

(2)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、順序番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

(3)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、適用または除去された項目のカウントあるいは相対レコード番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

(4)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、コミット・サイクルIDが10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

***TYPE2**

変換されるジャーナル項目にOUTFILFMT(*TYPE1)が指定された時に戻される情報、表示されたジャーナル項目を生成したジョブのユーザー・プロファイルの名前、および出力レコードが生成されたシステムの名前が含まれます。各ジャーナル項目の情報の形式は、以下のテーブルに示されています。

表 2. 図: テーブル2 - OUTFILFMT(*TYPE2)ジャーナル項目形式

フィールド名	: 長さ	: 開始	: 終了
項目の長さ	: 5	: 1	: 5
順序番号 (2)	: 10	: 6	: 15
ジャーナル・コード	: 1	: 16	: 16
ジャーナル項目タイプ	: 2	: 17	: 18
日付	: 6	: 19	: 24
時刻	: 6	: 25	: 30
ジョブ名	: 10	: 31	: 40
ユーザー名	: 10	: 41	: 50
ジョブ番号	: 6	: 51	: 56
プログラム名	: 10	: 57	: 66
オブジェクト名	: 10	: 67	: 76
オブジェクト・ライブラリー	: 10	: 77	: 86
メンバー名	: 10	: 87	: 96
カウント/RRN (3)	: 10	: 97	: 106
フラグ	: 1	: 107	: 107
コミット・サイクル ID (4)	: 10	: 108	: 117
ユーザー・プロフィール	: 10	: 118	: 127
システム名	: 8	: 128	: 135
未完了データ	: 1	: 136	: 136
最小化された項目 特定データ	: 1 :	: 137 :	: 137 :
予約済み	: 18	: 138	: 155
項目特定データ	: 100 (1)	: 156	: 255

注:

(1) これは、システム提供データベース・ファイルQADSPJR2のフィールド長です。ただし、このフィールドには、ENTDTALENパラメーターを使用して、最大32611バイトまでの長さを指定することができます。

(2) ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、順序番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

(3) ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、適用または除去された項目のカウントあるいは相対レコード番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

(4) ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、コミット・サイクルIDが10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

***TYPE3**

変換されたジャーナル項目には、OUTFILFMT(*TYPE2)が指定されている時に戻されるすべての情報、およびヌル値標識が含まれます。変換された各ジャーナル項目の情報の形式は、以下のテーブルに示されています。

表 3. 図: テーブル3 - OUTFILFMT(*TYPE3)ジャーナル項目形式

フィールド名	: 長さ	: 開始	: 終了
項目の長さ	: 5	: 1	: 5
順序番号(5)	: 10	: 6	: 15
ジャーナル・コード	: 1	: 16	: 16
ジャーナル項目タイプ	: 2	: 17	: 18
タイム・スタンプ(1)	: 26	: 19	: 44
ジョブ名	: 10	: 45	: 54
ユーザー名	: 10	: 55	: 64
ジョブ番号	: 6	: 65	: 70
プログラム名	: 10	: 71	: 80
オブジェクト名	: 10	: 81	: 90
オブジェクト・ライブラリー	: 10	: 91	: 100
メンバー名	: 10	: 101	: 110
カウント/RRN (6)	: 10	: 111	: 120
フラグ	: 1	: 121	: 121
コミット・サイクル ID (7)	: 10	: 122	: 131
ユーザー・プロファイル	: 10	: 132	: 141
システム名	: 8	: 142	: 149
未完了データ	: 1	: 150	: 150
最小化された項目 特定データ	: 1 :	: 151 :	: 151 :
予約済み	: 18	: 152	: 169
ヌル値標識	: 52 (2,3)	: 170	: 221
項目特定データ	: 102 (3,4)	: 222	: 323

注:

(1) ジャーナル項目の日付と時刻は、*TYPE1および*TYPE2の日付と時刻を分離したフィールドではなく、26バイトのSAAタイム・スタンプ形式となります。

(2) これは、システム提供データベース・ファイルQADSPJR4の50文字可変長フィールドです。ただし、このフィールドには、NULLINDLENパラメーターを使用して、最大8000文字までの長さを指定することができます。

(3) フィールドが可変長フィールドである場合には、最初の2バイトが可変長フィールドとそれに続く実際のデータの長さです。

(4) これは、システム提供データベース・ファイルQADSPJR4の100文字可変長フィールドです。ただし、これが固定長フィールドで、ヌル値標識フィールドも固定長フィールドである場合には、ENTDTALENパラメーターを使用して、最大32596文字までの長さを指定することができます。

(5) ジャーナルのRCVSILOPTが*MAXOPT3である時に、順序番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

(6) ジャーナルのRCVSILOPTが*MAXOPT3である時に、適用または除去された項目のカウントあるいは相対レコード番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

(7) ジャーナルのRCVSILOPTが*MAXOPT3である時に、コミット・サイクルIDが10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

***TYPE4**

変換される項目に、OUTFILFMT(*TYPE3)が指定された時に戻される情報、ジャーナルID,物理ファイル・トリガー標識、および参照制約標識が含まれます。変換された各ジャーナル項目の情報の形式は、以下のテーブルに示されています。

表 4. 図: テーブル4 - OUTFILFMT(*TYPE4)ジャーナル項目形式

フィールド名	長さ	開始	終了
項目の長さ	: 5	: 1	: 5
順序番号(5)	: 10	: 6	: 15
ジャーナル・コード	: 1	: 16	: 16
ジャーナル項目タイプ	: 2	: 17	: 18
タイム・スタンプ(1)	: 26	: 19	: 44
ジョブ名	: 10	: 45	: 54
ユーザー名	: 10	: 55	: 64
ジョブ番号	: 6	: 65	: 70
プログラム名	: 10	: 71	: 80
オブジェクト名	: 10	: 81	: 90
オブジェクト・ライブラリー	: 10	: 91	: 100
メンバー名	: 10	: 101	: 110
カウント/RRN (6)	: 10	: 111	: 120
フラグ	: 1	: 121	: 121
コミット・サイクル ID (7)	: 10	: 122	: 131
ユーザー・プロファイル	: 10	: 132	: 141
システム名	: 8	: 142	: 149
ジャーナルID	: 10	: 150	: 159
参照制約	: 1	: 160	: 160
トリガー	: 1	: 161	: 161
未完了データ	: 1	: 162	: 162
APYJRNCHG/ RMVJRNCHG の間は無視	: 1 :	: 163 :	: 163 :
最小化された項目 特定データ	: 1 :	: 164 :	: 164 :
予約済み	: 5	: 165	: 169
ヌル値標識	: 52	: 170 (2,3)	: 221
項目特定データ	: 102	: 222 (3,4)	: 323

注:

- (1)ジャーナル項目の日付と時刻は、*TYPE1および*TYPE2の日付と時刻を分離したフィールドではなく、26バイトのSAAタイム・スタンプ形式となります。
- (2)これは、システム提供データベース・ファイルQADSPJR4の50文字可変長フィールドです。ただし、このフィールドには、NULLINDLENパラメーターを使用して、最大8000文字までの長さを指定することができます。
- (3)フィールドが可変長フィールドである場合には、最初の2バイトが可変長フィールドとそれに続く実際のデータの長さです。
- (4)これは、システム提供データベース・ファイルQADSPJR4の100文字可変長フィールドです。ただし、これが固定長フィールドで、ヌル値標識フィールドも固定長フィールドである場合には、ENTDTALENパラメーターを使用して、最大32596文字までの長さを指定することができます。
- (5)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、順序番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。
- (6)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、適用または除去された項目のカウントあるいは相対レコード番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。
- (7)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、コミット・サイクルIDが10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

*TYPE5

変換された項目には、プログラム・ライブラリー名、プログラム・ライブラリーASP装置名、プログラム・ライブラリーASP番号、システム順序番号、作業論理単位、トランザクションID、スレッドID、リモート・アドレス、アドレス・ファミリー、リモート・ポート、アーム番号、レシーバー名、レシーバー・ライブラリー名、レシーバー・ライブラリーASP装置名、レシーバー・ライブラリーASP番号、およびオブジェクト・タイプに加えてOUTFILFMT(*TYPE4)が指定された時に戻される情報が含まれます。変換された各ジャーナル項目の情報の形式は、以下のテーブルに示されています。

表 5. 図: テーブル5 - OUTFILFMT(*TYPE5)ジャーナル項目形式

フィールド名	: 長さ	: 開始	: 終了
項目の長さ	: 5	: 1	: 5
順序番号	: 20	: 6	: 25
ジャーナル・コード	: 1	: 26	: 26
ジャーナル項目タイプ	: 2	: 27	: 28
タイム・スタンプ(1)	: 26	: 29	: 54
ジョブ名	: 10	: 55	: 64
ユーザー名	: 10	: 65	: 74
ジョブ番号	: 6	: 75	: 80
プログラム名	: 10	: 81	: 90
プログラム・ ライブラリー名	: 10	: 91	: 100
プログラム・ ライブラリー ASP 装置名	: 10 : :	: 101 : :	: 110 : :
プログラム・ ライブラリー ASP 番号	: 5 : :	: 111 : :	: 115 : :
オブジェクト名	: 10	: 116	: 125
オブジェクト・ ライブラリー	: 10	: 126	: 135
メンバー名	: 10	: 136	: 145
カウント/RRN	: 20	: 146	: 165
フラグ	: 1	: 166	: 166
コミット・ サイクルID	: 20	: 167	: 186
ユーザー・ プロファイル	: 10	: 187	: 196
システム名	: 8	: 197	: 204
ジャーナルID	: 10	: 205	: 214
参照 制約	: 1 : :	: 215 : :	: 215 : :
トリガー	: 1	: 216	: 216
未完了データ	: 1	: 217	: 217
APYJRNCHG/ RMVJRNCHG の間は無視	: 1 : :	: 218 : :	: 218 : :

表 5. 図: テーブル5 - OUTFILFMT(*TYPE5)ジャーナル項目形式 (続き)

最小化された項目	: 1	: 219	: 219
特定データ	:	:	:
-----+			
オブジェクト標識	: 1	: 220	: 220
-----+			
システム順序番号	: 20	: 221	: 240
-----+			
レシーバー名	: 10	: 241	: 250
-----+			
レシーバー・ ライブラリー名	: 10	: 251	: 260
-----+			
レシーバー・ ライブラリー ASP	: 10	: 261	: 270
装置名	:	:	:
-----+			
レシーバー・ ライブラリー ASP	: 5	: 271	: 275
番号	:	:	:
-----+			
アーム番号	: 5	: 276	: 280
-----+			
スレッドID	: 8	: 281	: 288
-----+			
形式設定された スレッドID	: 16	: 289	: 304
-----+			
アドレス・ファミリー	: 1	: 305	: 305
-----+			
リモート・ポート	: 5	: 306	: 310
-----+			
リモート・アドレス	: 46	: 311	: 356
-----+			
作業論理単位	: 39	: 357	: 395
-----+			
トランザクションID	: 140	: 396	: 535
-----+			
オブジェクト・ タイプ	: 7	: 536	: 542
-----+			
ファイル・タイプ標識	: 1	: 543	: 543
-----+			
ネストされた コミット・レベル	: 7	: 544	: 550
-----+			
予約済み	: 5	: 551	: 555
-----+			
ヌル値標識	: 52 (2,3)	: 556	: 607
-----+			
項目特定データ	: 102 (3,4)	: 608	: 709
=====			
注:			
(1) ジャーナル項目の日付と時刻は、*TYPE1および*TYPE2の 日付と時刻を分離したフィールドではなく、26バイトのSAA タイム・スタンプ形式となります。			
(2) これは、システム提供データベース・ファイルQADSPJR5 の50文字可変長フィールドです。ただし、このフィールドに は、NULLINDLENパラメーターを使用して、最大8000文字 までの長さを指定することができます。			
(3) フィールドが可変長フィールドである場合には、最初 の2バイトが可変長フィールドとそれに続く実際のデータ の長さです。			
(4) これは、システム提供データベース・ファイルQADSPJR5 の100文字可変長フィールドです。ただし、これが固定長 フィールドで、ヌル値標識フィールドも固定長フィールド である場合には、ENTDTALENパラメーターを使用して、最大 32210文字までの長さを指定することができ ます。			

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。出力ファイルがすでに存在している場合には、システムはそれを使用しようとします。レコードはファイル・メンバー中の現行データと置き換わるか、それに追加されます。レコードがデータベース・ファイルに書き出されない（指定された選択値のために）で、OUTMBRパラメーターに*REPLACEが指定されている場合には、レコードは既存のデータベース・ファイルから消去されます。このファイルが存在しない場合には、このコマンドが指定したライブラリーにデータベース・ファイルを作成します。

- 新規ファイルが作成されて、OUTFILFMTパラメーターに*TYPE1が指定された場合に、システムは、モデルとしてQSYS内のQJORDJEの様式名を持つQADSPJRNを使用します。
- 新規ファイルが作成されて、OUTFILFMTパラメーターに*TYPE2が指定された場合に、システムは、モデルとしてQSYS内のQJORDJE2の様式名を持つQADSPJR2を使用します。
- 新規ファイルが作成されて、OUTFILFMTパラメーターに*TYPE3が指定された場合に、システムは、モデルとしてQSYS内のQJORDJE3の様式名を持つQADSPJR3を使用します。
- 新規ファイルが作成されて、OUTFILFMTパラメーターに*TYPE4が指定された場合に、システムは、モデルとしてQSYS内のQJORDJE4の様式名を持つQADSPJR4を使用します。
- 新規ファイルが作成されて、OUTFILFMTパラメーターに*TYPE5が指定された場合に、システムは、モデルとしてQSYS内のQJORDJE5の様式名を持つQADSPJR5を使用します。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

ファイル名

ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力を受け取るメンバー (OUTMBR)

コマンドの出力を受け取るデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。そのメンバーがすでに存在している場合には、既存のメンバーの終わりに新しいレコードを追加するか、あるいはそのメンバーを消去して新しいメンバーを追加するオプションがあります。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。存在していない場合には、システムが作成します。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

トップ

項目データの長さ (ENTDTALEN)

出力ファイルがシステムによって作成される時に、ジャーナル項目の項目特定データ部分の最大フィールド長を指定します。このフィールドには、ジャーナル項目の可変部分の一部が入っています（ジャーナル項目の更新用レコードの変更後イメージなど）。出力ファイルが存在している場合には、このパラメーターは無視されます。

このパラメーターでは、単一値または3つの要素の単一リストを指定することができます。

注: このパラメーターが有効であるのは、OUTPUT(*OUTFILE)が指定されている場合だけです。

単一値

***OUTFILFMT**

出力ファイルの項目特定データ・フィールドのフィールド長は、**出力ファイル形式 (OUTFILFMT)** パラメーターに指定された値によって決定されます。このフィールドの属性は、システムによって提供された、対応するモデル出力ファイルの項目特定データ・フィールドの属性と同じです。

出力ファイル形式 (OUTFILFMT)パラメーターに*TYPE1または*TYPE2が指定された場合には、出力データベース・ファイルの項目特定データ・フィールドは100文字の長さの固定長フィールドになります。

出力ファイル形式 (OUTFILFMT)パラメーターに*TYPE1および*TYPE2が指定されなかった場合には、出力ファイルの項目特定データ・フィールドは、最大フィールド長が100文字で、割り振り長さが100文字の可変長フィールドになります。可変長フィールドの長さ部分を組み込むために、バッファは最大フィールド長より2バイト長くなっています。

***CALC**

システムは、指定されたレシーバーの範囲内にあるすべてのジャーナル項目間の最長の項目特定データを収容するための項目特定データ・フィールドの長さを計算します。項目特定のデータ・フィールドは、固定長文字フィールドです。フィールドの最小長は130桁です。システムが計算した長さによって、レコード様式の長さが最大レコード長を超えた場合には、メッセージが送られ、項目特定データ・フィールドが切り捨てられます。

システムによって計算された長さが原因で、レコード様式の長さが32766バイトを超えた場合には、診断メッセージが出され、項目特定データ・フィールドが切り捨てられます。**出力ファイル形式 (OUTFILFMT)**パラメーターに*TYPE1および*TYPE2が指定されず、ヌル値標識フィールドが可変長フィールドある場合には、レコード様式の長さは32740バイトを超えることができません。

要素1: フィールドのデータ形式

***VARLEN**

項目特定データ・フィールドは可変長フィールドです。この値を指定できるのは、OUTFILFMT(*TYPE1)および OUTFILFMT(*TYPE2)が指定されていない場合だけです。この値を指定した場合には、最大フィールド長および項目特定データ・フィールドに割り振られる長さに値を指定することができます。

フィールド長

出力ファイルの項目特定データ部分のフィールド長を指定してください。**出力ファイル形式 (OUTFILFMT)**パラメーターに*TYPE1が指定されている場合には、有効な値の範囲は1から32641です。OUTFILFMTパラメーターに*TYPE2が指定されている場合には、有効な値の範囲は1から32611です。OUTFILFMTパラメーターに*TYPE3または*TYPE4が指定されていて、ヌル値標識フィールドが固定長フィールドである場合には、有効な値の範囲は1から32596です。OUTFILFMTパラメーターに*TYPE5が指定されていて、ヌル値標識が固定長フィールドである場合には、有効な値の範囲は1から32210です。*TYPE3または*TYPE4 が指定されていて、ヌル値標識フィールドが可変長フィールドである場合には、有効な値の範囲は1から32570です。*TYPE5が指定されていて、ヌル値標識フィールドが可変長フィールドである場合には、有効な値の範囲は1から32184です。

注: 項目データの長さ (ENTDTALEN)パラメーターおよびヌル値標識の長さ (NULLINDLEN)パラメーターに指定された値の合計は、データベース・ファイルの最大レコード長を超えることはできません (可変長フィールドを持つファイルの場合は32740で、固定長フィールドを持つファイルの場合は32766です)。

要素2: 可変長フィールドの長さ

***CALC**

システムは、指定されたレシーバーの範囲内にあるすべてのジャーナル項目間の最長の項目特定データを収容するための項目特定データ・フィールドの最大長を計算します。このフィールドの最小長は130バイトです。対応するバッファー長は132バイトです。すなわち、データ用の130バイトおよび可変長フィールドの長さ部分の2バイトです。

フィールド長

最大フィールド長の桁数を指定してください。ヌル値標識フィールドが固定長フィールドである場合には、有効な値の範囲は1から32570です。ヌル値標識フィールドが可変長フィールドである場合には、有効な値の範囲は1から32185です。

要素3: 割り振られた長さ

***FLDLEN**

割り振られた長さはフィールドの最大長と同じです。

割り振られた長さ

割り振られた長さを指定してください。最大フィールド長に*CALCを指定し、システム計算による最大フィールド長がユーザー指定の割り振られた長さより小さい場合には、割り振られた長さは最大フィールド長に設定されます。特定の最大フィールド長を指定した場合には、割り振られた長さが最大フィールド長を超えることはできません。

以下のテーブルは、ENTDTALENパラメーターの値の範囲をリストしたものです。

表 6. 図: テーブル6 - ENTDTALENパラメーターの値の範囲

出力 ファイル 形式	: 項目 : 特有の : データ : 形式	: ヌル値 : 標識 : 形式	: 項目の : データ長	: 最大 : レコード : 長
=====				
*TYPE1	: 固定	: 適用	: 1-32641	: 32766
	: :	: されない	: :	: :
	: :	: :	: :	: :

*TYPE2	: 固定	: 適用	: 1-32611	: 32766
	: :	: されない	: :	: :
	: :	: :	: :	: :

*TYPE3	: 固定	: 固定	: 1-32596	: 32766

*TYPE3	: 固定	: 可変	: 1-32570	: 32740

*TYPE3	: 可変	: 固定	: 1-32570	: 32740

*TYPE3	: 可変	: 可変	: 1-32568	: 32738

*TYPE4	: 固定	: 固定	: 1-32596	: 32766

*TYPE4	: 固定	: 可変	: 1-32570	: 32740

*TYPE4	: 可変	: 固定	: 1-32570	: 32740

*TYPE4	: 可変	: 可変	: 1-32568	: 32738

*TYPE5	: 固定	: 固定	: 1-32210	: 32766

*TYPE5	: 固定	: 可変	: 1-32184	: 32740

*TYPE5	: 可変	: 固定	: 1-32184	: 32740

*TYPE5	: 可変	: 可変	: 1-32182	: 32738
=====				
注:				
ファイルに可変長フィールドが含まれている場合には、				
最大レコード長には可変長フィールド当たり2バイト				
が含まれません。				

トップ

ヌル値標識の長さ (NULLINDLEN)

システムによって出力ファイルが作成される時に、ヌル値標識フィールドの長さを指定します。このパラメーターを指定できるのは、OUTFILFMT(*TYPE1)およびOUTFILFMT(*TYPE2)が指定されていない場合だけです。

以下のように、ヌル値標識がレコード・レベル操作のジャーナル項目に表示されます。

1. 対応する物理ファイルにはヌル値可能フィールドがあります。
2. レコード・イメージは、項目特定データで最小化されています。

レコード・イメージが項目特定データで最小化されていない場合には、物理ファイル中の各フィールドごとに1つのヌル値標識が入っています。各標識の長さは1桁で、次のいずれかとすることができます。

- 'F0'X =対応するフィールドはヌル値ではありません。
- 'F1'X =対応するフィールドはヌル値です。

レコード・イメージが項目特有のデータのファイル・フィールド境界で最小化されている場合には、物理ファイル内の各フィールドごとに1つのヌル値標識が入っています。各標識の長さは1桁で、次のいずれかとなります。

- 'F0'X =対応するフィールドはヌル値ではありません。
- 'F1'X =対応するフィールドはヌル値です。
- 'F9'X =対応するフィールドは変更されず、そのフィールドの省略時値が戻されます。

単一値

***OUTFILFMT**

ヌル値標識フィールドは、システム提供のモデル出力ファイルQADSPJR3、QADSPJR4、またはQADSPJR5の対応するフィールドと同じ属性を持ちます。これは、それぞれ50桁の最大長および割り振られた長さを持つ可変長文字フィールドです。可変長フィールドの長さ部分を組み込むために、バッファは最大フィールド長より2バイト長くなっています。

***CALC**

システムは、指定されたレシーバーの範囲内にある最大数のヌル値標識を持つジャーナル項目を収容するためのフィールドの長さを計算します。この場合には、ヌル値標識フィールドは固定長文字フィールドです。出力ファイルが作成される時にフィールドが存在しているかどうかを確認するために、このフィールドの最小長は1桁です。システムが計算した長さによって、レコード様式の長さが32766を超えた場合には、診断メッセージが送られ、ヌル値標識フィールドが切り捨てられます。項目特定データ・フィールドが可変長フィールドの場合には、レコード様式の長さは32740バイトを超えることはできません。

要素1: フィールドのデータ形式

***VARLEN**

可変長フィールドを指定するためには、最初の要素に*VARLENを、最後の2つの要素に長さの値を指定してください（そうでない場合には、システムは省略時の値を使用します）。ヌル値標識フィールドは可変長フィールドです。この値を指定した場合には、フィールドの最大長および割り振られた長さに値を指定することができます。

フィールド長

フィールド長を指定してください。有効な値の範囲は1から8000桁です。出力ファイルの作成時にフィールドが確実に存在しているようにするために、システムはゼロでない値を必要とします。この場合には、ヌル値標識フィールドは固定長フィールドとなります。

要素2: 可変長フィールドの長さ

***CALC**

システムは、指定されたレシーバーの範囲内にある最大数のヌル値標識を持つジャーナル項目を収容するためのヌル値標識フィールドの長さを計算します。作成した出力ファイルにフィールドが確実に存在するには、フィールドの最小長は1バイトです。対応するバッファ長は3バイトです。すなわち、データ用の1バイトおよび可変長フィールドの長さ部分用の2バイトです。

フィールド長

最大フィールド長を指定してください。有効な値の範囲は1から8000桁です。

要素3: 割り振られた長さ

***FLDLEN**

割り振られた長さは、最大フィールド長と同じです。

割り振られた長さ

割り振られた長さを指定してください。有効な値の範囲は1から8000桁です。最大フィールド長に*CALCが指定され、システムによって計算された最大長がユーザーが指定した割り振られた長さより小さい場合には、割り振られた長さは最大フィールド長にセットされます。最大フィールド長が指定されている場合には、割り振られた長さは最大フィールド長を超えることはできません。

以下のテーブルは、NULLINDLENパラメーターの値の範囲をリストしたものです。

表 7. 図: テーブル7 - NULLINDLENパラメーターの値の範囲

出力 ファイル 形式	: 項目 : 特有の : データ : 形式	: ヌル値 : 標識 : 形式	: 項目の : データ長	: 最大 : レコード : 長
*TYPE3	: 固定	: 固定	: 1-8000	: 32766
*TYPE3	: 固定	: 可変	: 1-8000	: 32740
*TYPE3	: 可変	: 固定	: 1-8000	: 32740
*TYPE3	: 可変	: 可変	: 1-8000	: 32738
*TYPE4	: 固定	: 固定	: 1-8000	: 32766
*TYPE4	: 固定	: 可変	: 1-8000	: 32740
*TYPE4	: 可変	: 固定	: 1-8000	: 32740
*TYPE4	: 可変	: 可変	: 1-8000	: 32738
*TYPE5	: 固定	: 固定	: 1-8000	: 32766
*TYPE5	: 固定	: 可変	: 1-8000	: 32740
*TYPE5	: 可変	: 固定	: 1-8000	: 32740
*TYPE5	: 可変	: 可変	: 1-8000	: 32738

注:
ファイルに可変長フィールドが含まれている場合には、
最大レコード長には可変長フィールド当たり2バイト
が含まれません。

トップ

項目の組み込み (INCENT)

確認済みのジャーナル項目だけを出力用に変換するか、あるいは確認済みと未確認の両方のジャーナル項目を出力用に変換するかを指定します。このパラメーターが適用されるのは、リモート・ジャーナルからのジャーナル項目を出力用に変換する場合だけです。

確認済みの項目とは、このリモート・ジャーナルに送られていて、ローカル・ジャーナル上の同一のジャーナル項目について補助記憶域への入出力(I/O)の状態がわかっているジャーナル項目のことです。

未確認の項目とは、このリモート・ジャーナルに送られているが、ローカル・ジャーナル上の同一のジャーナル項目について補助記憶域への入出力(I/O)の状態がわかっていないジャーナル項目、あるいはこれらのジャーナル項目のオブジェクト名情報がまだリモート・ジャーナルにわかっていない項目のことです。未確認のジャーナル項目が存在できるのは、リモート・ジャーナルの接続されたレシーバー内だけです。これが適用されるのは、特定のリモート・ジャーナルに対して同期転送モードが使用されている場合だけです。

***CONFIRMED**

確認済みのジャーナル項目だけが出力用に変換されます。

***ALL** 確認済みおよび未確認のジャーナル項目がすべて出力用に変換されます。

[トップ](#)

開始順序番号 (FROMENT)

外部表示用に変換対象とみなされる最初のジャーナル項目を指定します。

注: 開始順序番号 (FROMENT)パラメーターか大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

***FIRST**

指定したジャーナル・レシーバーの範囲の最初のジャーナル項目は、外部表示用に変換対象とみなされる最初の項目です。

開始順序番号

外部表示用に変換対象とみなされる最初のジャーナル項目の割り当て順序番号を指定します。可能な範囲は1から9,999,999,999です。

[トップ](#)

終了順序番号 (TOENT)

外部表示用に変換される最後のジャーナル項目を指定します。

注: 終了順序番号 (TOENT)パラメーターか大きい終了順序番号 (TOENTLRG)パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

***LAST**

指定したジャーナル・レシーバーの範囲の最後のジャーナル項目が、外部表現用に変換される最終項目です。

終了順序番号

外部表示用に変換される最終ジャーナル項目の特定の順序番号を指定します。可能な範囲は1から9,999,999,999です。

[トップ](#)

コミット・サイクル識別コード (CMTCYCID)

関連したコミット・サイクルIDに基づいて変換を考慮するジャーナル項目を指定します。コミット・サイクルは、同じコミット・サイクルIDを共用するすべてのジャーナル項目から構成されます。

注: コミット・サイクル識別コードフィールド(CMTCYCID)か大きいコミット・サイクルIDフィールド(CCIDLRG)のいずれかに値を入力することができますが、両方には入力できません。

***ALL** 変換されたジャーナル項目は、指定したコミット・サイクルIDに限定されません。

コミット・サイクルID

変換を考慮するジャーナル項目のコミット・サイクルIDを指定してください。可能な範囲は1から9,999,999,999です。

トップ

例

例1:表示用のジャーナル項目の変換

```
DSPJRN  JRN(MYLIB/JRNLA)
```

ワークステーションで出された場合に、このコマンドは、（ジャーナル項目の変換の開始）時点でライブラリーMYLIBのジャーナルJRNLAに接続されているジャーナル・レシーバーの最初のジャーナル項目を変換および表示します。後続の項目は、「次ページ」キーを押すことによって表示されます。バッチ・ジョブから入力された場合に、上記のコマンドは、すべての変換済みジャーナル項目をジョブのスパール印刷装置出力を使用して印刷します。ジャーナル項目の項目特定データ部分は文字形式で表示されます。

例2:出力ファイルのジャーナル項目の変換

```
DSPJRN  JRN(MYLIB/JRNLA)
        FILE((LIB1/A MBR3) (LIB1/C) (LIB2/*ALL *ALL))
        RCVRNG((RCVLIB/RCV27 RCVLIB/RCV30))
        FROMENT(4736) ENTTP(UP DL)
        JOB(000666/QPGMR/WORKST01)
        PGM(TSTPGMA) ENTDTALEN(280)
        OUTPUT(*OUTFILE)  OUTFILE(MYLIB/JRNENTFIL1)
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBのJRNLAと関連付けられているジャーナル・レシーバー・チェーン（ライブラリーRCVLIBのレシーバーRCV27からライブラリーRCVLIBのレシーバーRCV30まで）の選択されたジャーナル項目を変換して、ライブラリーMYLIBのデータベース・ファイルJRNENTFIL1の最初のメンバーに入れます。データベース・ファイルが存在していない場合には、QJORDJEの形式で作成されます。この形式の最後のフィールドは280バイトの長さです。順序番号4736のジャーナル項目が、出力ファイルに最初に書き出される項目です。ライブラリーLIB1のファイルAのメンバーMBR3、ライブラリーLIB1のファイルCの最初のメンバー、およびライブラリーLIB2のすべてのファイルのすべてのメンバーに対してジョブ000666/QPGMR/WORKST01のプログラムTSTPGMAによって行われたレコードの更新および削除に関する項目だけが、出力ファイルに書き出されます。

例3:特定のユーザー・プロファイル用のジャーナル項目の変換

```
DSPJRN  JRN(SS/J) FILE(SS1/PF) RCVRNG((SS/R1 *CURRENT))
        JRNCDE(F)  USRPRF(MAC7)
        OUTFILE(FMTLIB/ENTFILE)  OUTFILFMT(*TYPE2)
```

このコマンドは、ジャーナル・レシーバー範囲内の選択されたジャーナル項目を変換します。この範囲は、ライブラリーSSのジャーナル・レシーバーR1から始まり、（ジャーナル項目の変換の開始）時点でライブラリーSSのジャーナルJに接続されているジャーナル・レシーバーで終わります。項目は、ライブラリーFMTLIBのデータベース・ファイルENTFILEの最初のメンバーに入れます。このファイルが存在していない場合には、QJORDJE2の形式で作成されます。この形式の最後のフィールドは100バイトの長さです。ライブラリーSS1のファイルPFの最初のメンバーにユーザーMAC7によって作成された項目だけが出力ファイルに書き出されます。

例4:ヌル値フィールド長が指定されるジャーナル項目の変換

```
DSPJRN  JRN(LIBPROD/PRODJRN) FILE(APPLIB/PFILE)
        OUTFILFMT(*TYPE5)  OUTFILE(JRNLIB/ENTFILE)
        ENTDTALEN(*VARLEN 500 100)  NULLINDLEN(25)
```

このコマンドは、現在ライブラリーLIBPRODのジャーナルPRODJRNに接続されているジャーナル・レシーバーからの選択されたジャーナル項目を（項目の変換が開始された時に）変換します。項目は、ライブラリーJRNLIBのデータベース・ファイルENTFILEの最初のメンバーに入れられます。このファイルが存在していない場合には、QJORDJE5形式で作成されます。項目特定データ・フィールドは、最大フィールド長が500文字で、割り振り長さが100文字の可変長フィールドになります。ヌル値標識フィールドは、25文字の固定長フィールドです。ライブラリーAPPLIBのファイルPFILEのファイルの最初のメンバーの項目だけが出力ファイルに書き出されます。

例5:ヌル値フィールド長が計算されるジャーナル項目の変換

```
DSPJRN  JRN(JRNLIB/JRNA) FILE(FILLIB/FILEA)
        ENTTP(UP DL)  OUTPUT(*OUTFILE)
        OUTFILFMT(*TYPE5)  OUTFILE(ENTLIB/ENTFILE)
        ENTDTALEN(*CALC)  NULLINDLEN(*VARLEN *CALC *FLDLEN)
```

このコマンドは、現在ライブラリーJRNLIBのジャーナルJRNAに接続されているジャーナル・レシーバーからの、ライブラリーFILLIBのファイルFILEAの最初のメンバーのレコード更新(UP)およびレコード削除(DL)ジャーナル項目だけを（項目の変換が開始された時に）変換します。項目は、ライブラリーENTLIBのデータベース・ファイルENTFILEの最初のメンバーに書き出されます。このファイルが存在していない場合には、QJORDJE5形式で作成されます。システムが、固定長、項目特定データ・フィールドの長さを計算します。システムは、また、可変長ヌル値標識フィールドの長さも計算します。このフィールドの割り振り長さは、最大フィールド長と同じです。

例6: *IGNFILSLTおよび*CURCHAINを使用したジャーナル項目の変換

```
DSPJRN  JRN(JRNLIB/JRNA) FILE(FILLIB/FILEA)
        RCVRNG(*CURCHAIN)
        JRNCDE((F *ALLSLT) (R *ALLSLT) (U *IGNFILSLT))
        OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、以下を持つジャーナル項目を変換します:

- ライブラリーFILLIBのファイルFILEAのファイルの最初のメンバーに関するファイル・レベルの情報
- ライブラリーFILLIBのファイルFILEAの最初のメンバーに関するレコード・レベル情報
- 項目がジャーナル処理済みファイル・メンバーと関連付けられているかどうかとは無関係のユーザー生成ジャーナル項目

ジャーナル項目は、ライブラリーJRNLIBのジャーナルJRNAと関連し、最新の連鎖の中断から項目の変換の開始時点で接続されているジャーナル・レシーバーまでの範囲内のジャーナル・レシーバーである、ジャーナル・レシーバーの連鎖から変換されます。変換された項目は印刷ファイルに書き出されます。

例7: データ域、データ待ち行列、および統合ファイル・システム・オブジェクトのジャーナル項目の変換

```
DSPJRN  JRN(LIBPROD/PRODJRN)
        OBJ((APPLIB/D1 *DTAARA) (APPLIB/D2 *DTAQ)
        (APPLIB/D3 *FILE *NONE))
        OBJPATH('/MYDIRECTORY') SUBTREE(*YES)
        OUTFILFMT(*TYPE5)  OUTFILE(JRNLIB/ENTFILE)
```

このコマンドは、現在ライブラリーLIBPRODのジャーナルPRODJRNに接続されているジャーナル・レシーバーからの選択されたジャーナル項目を（項目の変換が開始された時に）変換します。項目は、ライブラリーJRNLIBのデータベース・ファイルENTFILEの最初のメンバーに入れられます。このファイルが存在していない場合には、QJORDJE5形式で作成されます。指定されたオブジェクトに関連付けられた項目だけが変

換されます。これらのオブジェクトは、D1と呼ばれるライブラリーAPPLIBのデータ域、D2と呼ばれるライブラリーAPPLIBのデータ待ち行列、ライブラリーAPPLIBのデータベース・ファイルD3に、ディレクトリー'MYDIRECTORY'およびすべてのディレクトリー、ストリーム・ファイル、およびそのディレクトリーまたはそのサブディレクトリーの1つの中のシンボリック・リンクです。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF7002

ライブラリー&2のファイル&1が物理ファイルではない。

CPF7006

メンバー&3が&2のファイル&1に見つからない。

CPF7007

&2のファイル&1のメンバー&3を割り振ることができない。

CPF701B

中断された操作のジャーナルの回復が行なわれなかった。

CPF705C

INCENT(*ALL)はローカル・ジャーナルに使用できない。

CPF7053

RCVRNGパラメーターの値が正しくない。理由コードは&1です。

CPF7054

FROMとTOの値が正しくない。

CPF7055

最大オブジェクト数を超えた。

CPF7057

*LIBLとFILE(*ALL)またはOBJ(*ALL)を一緒に指定することはできない。

CPF706B

JRN(*INTSYSJRN)の指定は認可されていない。

CPF706C

JRNIDパラメーターの値&1が正しくない。

CPF7060

オブジェクトが見つからず、指定されたレシーバー範囲でジャーナル処理されませんでした。

CPF7061

ジャーナル処理された項目の変換が正常に行なわれなかった。

CPF7062

ジャーナル&1から項目が変換されなかったか、または受け取られなかった。

CPF7065

ジャーナル・コード(JRNCDE)に項目タイプ(ENTTYP)は正しくない。

CPF707A

ENTDTALENに指定された値が正しくない。

CPF7074

指定したSEARCHに対してRCVRNGが正しくない。

CPF708D

ジャーナル・レシーバーが論理的に損傷していることが判明した。

CPF709C

JOB, PGM,およびUSRPRFはレシーバー範囲に正しくない。

CPF70A9

OBJPATHパラメーターはリモート・ジャーナルには無効です。

CPF70AC

ファイルID &1が見つかりませんでした。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

CPF9875

ASP &1で資源を超えています。

[トップ](#)

ジャーナル・レシーバー属性表示 (DSPJRNRCA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル・レシーバー属性表示(DSPJRNRCA)コマンドは、レシーバーが現在接続されているジャーナルの名前または最後に接続されていたジャーナルの名前（レシーバーが現在接続されていない場合）を含む、ジャーナル・レシーバーの作成属性および現行操作属性を表示します。ジャーナル・レシーバーがローカル・ジャーナルと対応していて、最初からローカル・ジャーナルに接続されていた場合には、指定されたレシーバーの前後に接続されていたジャーナル・レシーバーの名前が表示されます。たとえば、ローカル・ジャーナルおよびソース・ジャーナルなどのリモート・ジャーナル関連情報の他に、ジャーナル・レシーバーに入っているジャーナル項目の数、最長項目特定データの長さ、ジャーナル項目中のヌル値標識の最大数、ジャーナル・レシーバーの最初と最後のジャーナル順序番号、およびレシーバーが接続されて切り離された日時などの情報も含まれます。

ジャーナル・レシーバーがローカル・ジャーナルと対応していて、最初からローカル・ジャーナルに接続されていた場合には、コマンドによって提供される画面から、前のレシーバー、次のレシーバー、または二重レシーバーを表示するオプションを選択することができます。さらに、ジャーナル・レシーバーが現在ジャーナルと対応している場合には、対応したジャーナルに関する明細を表示するオプションを選択することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JRNRCA	ジャーナル・レシーバー	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジャーナル・レシーバー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

ジャーナル・レシーバー (JRNRCA)

表示するジャーナル・レシーバーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジャーナル・レシーバー

ジャーナル・レシーバー名

ジャーナル・レシーバーの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジャーナル・レシーバーを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーを指定します。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は表示される（対話式ジョブによって要求された場合）か、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

QSYSのファイルQPDSPRCVが印刷出力に使用されます。

トップ

例

```
DSPJRNRCVA JRNRCV(MYLIB/JRNRCV) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、ジョブのスパール印刷装置出力を使用して、ライブラリーMYLIBのジャーナル・レシーバーJRNRCVの現行操作属性情報を印刷します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF701A

ジャーナル・レシーバーが操作に適格でない。

CPF701B

中断された操作のジャーナルの回復が行なわれなかった。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9804

ライブラリー&3のオブジェクト&2が損傷している。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

JAVAプログラムの表示 (DSPJVAPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

JAVAプログラム表示(DSPJVAPGM)コマンドは、JAVAクラス・ファイルと関連したJAVAプログラムに関する情報を表示します。

JAVAプログラムが指定されたクラス・ファイルと関連していない場合には、エスケープ・メッセージJVAB540が送られます。

制約事項:クラス・ファイルは次のファイル・システムの1つに入っていないければなりません:
QOPENSYS,"ROOT",またはユーザー定義ファイル・システム。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLSF	クラス・ファイルまたはJARファイル	パス名	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

クラス・ファイルまたはJARファイル (CLSF)

JAVAプログラムを表示する元になるファイル名を指定します。ファイル名は1つまたは複数のディレクトリー名によって修飾することができます。

クラス・ファイル名

使用するクラス・ファイルを識別するためのクラス・ファイルの名前を指定してください。名前が修飾されている場合には、アポストロフィで囲まなければなりません。修飾されたクラス・ファイル名の例は、'/DIRECTORY1/DIRECTORY2/MYCLASSNAME.CLASS'です。

JARファイル名

使用するJARまたはZIPファイルを識別するJAVAアーカイブ(JAR)ファイルの名前を指定してください。ファイル名が'.JAR'または'.ZIP'で終わっていると、ファイルはJARファイルであると見なされます。名前が修飾されている場合には、アポストロフィで囲まなければなりません。修飾されたJARファイル名の例は'/DIRECTORY1/DIRECTORY2/MYAPPNAME.JAR'です。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元ワークステーションに表示するか、あるいはそのジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

*
- 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力はジョブのプール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

```
DSPJVAPGM  CLSF('/PROJECTA/MYJAVACLASSNAME.CLASS')  
           OUTPUT(*)
```

このコマンドは、クラス・ファイルMYJAVACLASSNAMEと関連付けたJAVAプログラムの情報を表示します。JAVAプログラム情報は画面に出力されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

JVAB521

ファイル"&1"はJAVAクラス・ファイルではありません。

JVAB540

JAVAプログラムがクラス・ファイルと関連していない

JVAB541

JAVAプログラムまたはクラス・ファイル&2でエラーが検出された。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

[トップ](#)

JVMジョブの表示 (DSPJVMJOB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

JVMジョブの表示 (DSPJVMJOB)コマンドによってユーザーは、活動状態のJAVA仮想マシンを含む、システム上のすべてのジョブを見ることができます。コマンドからの出力は、要求元ワークステーションに表示するか、あるいはそのジョブのプール出力で印刷することができます。各JAVA仮想マシンについては、それぞれに適切な以下の情報が選択可能です。

- ジョブ
- ユーザー
- 番号
- タイプ
- 現行ユーザー
- 状況
- サブシステム
- サーバー・タイプ

制約事項

- このコマンドを使用するためには、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション、定位置 1

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元ワークステーションに表示するか、あるいはそのジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力はジョブのプール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

DSPJVMJOB OUTPUT(*)

このコマンドは、JAVA仮想マシンを含む、システム上のすべてのジョブに関する情報を表示します。情報は表示装置に出力されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

JVAB703

DSPJVMJOBが失敗しました。

CPF222E

&1特殊権限が必要である。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

キーボード・マップ表示 (DSPKBDMAP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

キーボード・マップ表示(DSPKBDMAP)コマンドは、コマンドを入力した3270ワークステーション装置の現行のF-PFマップを表示します。ユーザー割り当て可能キーボード・マッピングの詳細は、REMOTE WORK STATION SUPPORT (SC41-5402)ブックにあります。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

DSPKBDMAP

DSPKBDMAPコマンドは、3270ヘルプ画面を使用して、コマンドを入力している装置の活動PFキー・マッピングを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF8701

指定された装置&1が3270装置タイプでない。

[トップ](#)

LAN アダプター・プロファイルの表示 (DSPLANADPP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ローカル・エリア・ネットワーク・アダプター・プロファイル表示(DSPPLANADPP) コマンドは、活動状態のローカル・エリア・ネットワーク(LAN)アダプターのプロファイルを示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LINE	回線記述	名前	必須, 定位置 1
ADPTNAME	アダプター	名前, *ADPTADR	必須, 定位置 2
ADPTADR	アダプター アドレス	000000000001-7FFFFFFFFFFFF, <u>000000000001</u>	オプション, 定位置 3
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 4

[トップ](#)

回線記述 (LINE)

そのプロファイルを表示するアダプターに接続された回線の名前を指定します。

注: 指定された回線はオンに構成変更しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

アダプター (ADPTNAME)

そのプロファイルを表示するアダプターの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*ADPTADR

アダプターを識別するために、アダプター・アドレスが使用されます。

アダプター名

そのプロファイルを表示するアダプターの名前を指定してください。

これは必須パラメーターです。

アダプターアドレス (ADPTADR)

12文字の16進数アダプター・アドレスを指定します。

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

例

```
DSPLANADPP LINE(DETBANCH) ADPTNAME(PAYROLL)
```

このコマンドは、回線DETBANCHに接続されているアダプターPAYROLLのプロファイルを表示します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8B44

アダプター・アドレスが必要である。

CPF8B46

アダプター・プロファイルを表示できない。ネットワーク・アダプター・ファイルに&29が見つかりません。

CPF8B68

回線記述&23が見つからない。

CPF8B69

要求した処置には回線記述&23は正しくない。

CPF8B70

ネットワーク回線記述&23はオンに構成変更されなかった。

CPF8B74

活動アダプターの表示要求が正常に実行されなかった。

CPF8B75

ネットワーク・アダプター・ファイルにアダプター項目がない。

CPF8B76

アダプターの機能アドレスがない。

[トップ](#)

LAN媒体ライブラリーの表示 (DSPLANMLB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

媒体ライブラリーLAN情報表示(DSPANMLB)コマンドは、通信回線に接続された媒体ムーバーで媒体ライブラリー装置を構成するために必要なAPPCネットワーク情報を表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIND	回線記述	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

回線記述 (LIND)

媒体ライブラリー装置を接続するために使用される回線記述を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 回線記述の名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元ワークステーションに表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのプール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

***PRINT**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

例1:回線記述のLAN情報の表示

```
DSPLANMLB LIND(TRNLINE) OUTPUT(*)
```

このコマンドは、媒体ライブラリー装置に接続された回線記述TRNLINEのLAN情報を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF6708

エラーのためにコマンドが終了した。

CPF672E

回線記述&2は間違ったタイプです。

CPF6745

装置&1は媒体ライブラリー装置でない。

[トップ](#)

LAN状況の表示 (DSPLANSTS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ローカル・エリア・ネットワーク状況表示(DSPLANSTS)コマンドは、活動状態のトークンリングまたは分散データ・インターフェース(DDI)回線の状況を表示します。

注: DDI回線の状況は、ローカル・アダプターから見たネットワークの状況です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LINE	回線記述	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

回線記述 (LINE)

ローカル・エリア・ネットワーク(LAN)管理機能によって使用される活動状態の回線記述名を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

DSPLANSTS LINE(NYBRANCH)

このコマンドは、回線記述NYBRANCHの状況を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8B68

回線記述&23が見つからない。

CPF8B69

要求した処置には回線記述&23は正しくない。

CPF8B70

ネットワーク回線記述&23はオンに構成変更されなかった。

CPF8B74

活動アダプターの表示要求が正常に実行されなかった。

CPF8B75

ネットワーク・アダプター・ファイルにアダプター項目がない。

[トップ](#)

ライブラリー表示 (DSPLIB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライブラリー表示(DSPLIB)コマンドは、指定された1つまたは複数のライブラリーの内容を表示します。すなわち各ライブラリー中のオブジェクトの名前および属性のリストを表示します。ユーザー・プロファイル(*USRPRF)を除くすべてのオブジェクト・タイプの場合、オブジェクトは、オブジェクトに対する権限に関係なくオブジェクトのリストに表示されます。ユーザー・プロファイル(*USRPRF)オブジェクトの場合、オブジェクトに対して*EXCLUDE権限以外の何らかの権限がある場合に限り、オブジェクトがオブジェクトのリストに表示されます。

このコマンドは、ライブラリーのリストを表示するためにも使用することができます。このリストから個々のライブラリーを選択してそのオブジェクトを表示することができます。画面には、各ライブラリーについて名前、タイプ、補助記憶域プール装置名、および記述テキストがリストされます。複数のライブラリーを表示する場合には、一度に1つずつ表示されます。

ライブラリーのオブジェクトの画面から、ライブラリー中のオブジェクトに関するより特定の情報を表示する画面を要求するための全オプションまたはサービス・オプションを指定することができます。

制約事項:

1. ライブラリーの内容を表示するには、指定された各ライブラリーに対する読み取り(*READ)権限が必要です。
2. ユーザー・プロファイル(*USRPRF)を除くすべてのオブジェクト・タイプの場合、オブジェクトは、オブジェクトに対する権限に関係なくオブジェクトのリストに表示されます。オブジェクトの全属性またはサービス属性を表示するには、オブジェクトに対する*EXCLUDE権限以外の何らかの権限が必要です。ユーザー・プロファイル(*USRPRF)オブジェクトの場合、オブジェクトに対して*EXCLUDE権限以外の何らかの権限がある場合に限り、オブジェクトがオブジェクトのリストに表示されます。

注:

1. 印刷出力の場合には、ライブラリーの合計サイズ・フィールドには、ライブラリー中のオブジェクトのサイズとライブラリー・オブジェクト自体のサイズの合計が入ります。この値の後にプラス(+)符号が続いている場合には、ライブラリー中のオブジェクトはロックされているか、損傷しているか、あるいは認可されておらず、そのサイズは合計サイズ・フィールドに示されません。プラス符号は、すべてのオブジェクトの実際の合計が表示された値より大きいことを示しています。ライブラリーがQSYSである場合には、認可されていないユーザー・プロファイルはリストに表示されません。
2. ライブラリー(LIB)パラメーターに*ALL、*ALLUSR、*LIBL、または*USRLIBLが指定されていて、出力が印刷される場合には、ライブラリーの内容が印刷されます。これらの値の1つが指定され、出力が表示される場合には、ライブラリーのリストが表示され、このリストから個々のライブラリーを選択して、その詳しい画面を表示することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	単一値: *LIBL , *USRLIBL, *CURLIB, *ALLUSR, *ALL その他の値 (最大 15 回の繰り返し): 名前	オプション、定位置 1
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *ALLAVL, *CURASPGRP, *SYSBAS	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション、定位置 2

トップ

ライブラリー (LIB)

表示または印刷される1つまたは複数のライブラリーを指定します。指定したライブラリーの読み取り (*READ)権限をもっていない場合には、そのライブラリーは表示されません。このパラメーターは単一値または1つまたは複数の名前のリストとして指定することができます。

単一値

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが表示されます。この値を使用する時に**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターを指定した場合には、**ASPDEV(*)**が唯一の有効な値です。

*USRLIBL

現行スレッドのライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在する場合には、現行ライブラリーとライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが表示されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分のライブラリーだけが表示されます。この値を使用する時に**ASPDEV**パラメーターを指定した場合には、**ASPDEV(*)**が唯一の有効な値です。

*CURLIB

現行スレッドの現行ライブラリーが表示されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、**QGPL**ライブラリーが表示されます。この値を使用する時に**ASPDEV**パラメーターを指定した場合には、**ASPDEV(*)**が唯一の有効な値です。

***ALL** **ASPDEV**パラメーターによって定義された補助記憶域プール(ASP)の中のすべてのユーザー・ライブラリーが表示されます。

*ALLUSR

ASPDEVパラメーターによって定義された補助記憶域プール(ASP)の中のすべてのユーザー・ライブラリーとユーザー・データを含み、文字Qで始まっているライブラリーが表示されます。ユーザー・ライブラリーは、Q以外の文字で始まる名前を持つライブラリーのうち、次のものを除くすべてのライブラリーです。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、これらには一般的によく変更されるユーザー・データが収められます。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、これらも検索されます。

```
QDSNX        QRCLXXXXX    QUSRIJS      QUSRVXRXXM
QGPL         QSRVAGT      QUSRINFSCR
QGPL38       QSYS2        QUSRNOTES
```

QMGTC	QSYS2XXXXX	QUSROND
QMGTC2	QS36F	QUSRPOSGS
QMPGDATA	QUSER38	QUSRPOSSA
QMOMDATA	QUSRADSM	QUSRPYMSVR
QMOMPROC	QUSRBRM	QUSRDRARS
QPFRDATA	QUSRDIRCL	QUSRSYS
QRCL	QUSRDIRDB	QUSRVI

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

その他の値

名前 表示されるオブジェクトが入っている1つまたは複数のライブラリーの名前を指定してください。最大15の名前を指定することができます。

トップ

ASP装置 (ASPDEV)

表示されるライブラリーの記憶域が割り振られている補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。このライブラリーがスレッドのライブラリー名スペースの一部でないASPにある場合には、必ず正しいライブラリーが表示されるようにするために、このパラメーターを指定しなければなりません。**ライブラリー(LIB)**パラメーターに*CURLIB、*LIBL、または*USRLIBLを指定した時にこのパラメーターを使用する場合には、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

* 現在、スレッドのライブラリー名スペースの一部であるASPが、ライブラリーを見つけるために検索されます。これには、システムASP (ASP 1)、すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が含まれ、スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループの中の1次および2次ASPが含まれます。

*ALLAVL

使用可能なすべてのASPが検索されます。これには、システムASP (ASP 1)、すべての定義済みユーザー基本ASP (ASP 2から32)、およびすべての1次および2次ASP (状況が「使用可能」となっているASP 33から255)が含まれます。

*CURASGRP

スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループ中の1次および2次ASPがライブラリーを見つけるために検索されます。システムASP (ASP 1)および定義済みの基本ユーザーASP (ASP 2から32)は検索されません。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

*SYSBAS

システムASP (ASP 1)とすべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が、ライブラリーを見つけるために検索されます。スレッドにASPグループがあっても、1次または2次ASPは検索されません。

名前

検索される1次または2次ASP装置の名前を指定します。1次および2次ASPは(ASP装置をオンに変更することによって)活動化されていなければならず、状況が「使用可能」になっていなければなりません。システムASP (ASP 1)および定義済みの基本ユーザーASP (ASP 2から32)は検索されません。

注: 特定の補助記憶域プール(ASP)装置名を指定するには、ASPグループ中の各ASP装置に対する使用(*USE)権限が必要です。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

* 出力は表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合)、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

例

例1:ライブラリーの表示

```
DSPLIB LIB(QGPL)
```

QGPLライブラリー内にあるすべてのオブジェクトの名前、タイプ、および基本記述は、このコマンドが投入されたワークステーションに表示されるか、コマンドがバッチ・ジョブで実行された場合には、システム印刷装置で印刷されます。

例2:独立補助記憶域プール(ASP)中のライブラリーの表示

```
DSPLIB LIB(INVENTORY) ASPDEV(SALES)
```

このコマンドは、SALESという名前の独立補助記憶域プール(ASP)中のINVENTORY ライブラリーにあるすべてのオブジェクトの名前、タイプ、および基本記述を、ライブラリー内のオブジェクトにある権限に関わらず表示します。SALES ASPは活動化されて (ASP装置をオンに構成変更することによって)、状況が「使用可能」になっていなければなりません。情報は、このコマンドが投入されたワークステーションに表示されるか、コマンドがバッチ・ジョブで実行された場合には、システム印刷装置で印刷されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

CPF210E

ライブラリー&1が使用できません。

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2148

*DELETEDのマークが付けられたライブラリーは見つからない。

CPF2150

オブジェクト情報機能に障害。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2179

ライブラリーを表示することができない。

CPF218C

&1は1次または2次ASPではない。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9833

*CURASPGRPまたは*ASPGRPPRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ライブラリー記述の表示 (DSPLIBD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドは、ライブラリーの記述を表示します。この記述には、ライブラリーのタイプ、補助記憶域プール(ASP)番号、ASP装置、ASPグループ、ライブラリーに作成されたオブジェクトの省略時の共通権限、ライブラリーに作成されたオブジェクトの省略時の監査値、およびライブラリーのテキスト記述が含まれます。

制約事項:

1. ライブラリーの属性を表示するには、ライブラリーに対する*EXCLUDE権限以外の何らかの権限が必要です。
2. オブジェクト監査値の作成で*NOTAVL以外の値を表示するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)または監査(*AUDIT)特殊権限のいずれかが必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

ライブラリー (LIB)

記述が表示されるライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 記述が表示されるライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

* 出力は表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合) , あるいはジョブのスパール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

DSPLIBD LIB(QGPL)

このコマンドは、QGPLライブラリーのタイプ、ASP番号、ASP装置、作成権限值、オブジェクト作成監査値、およびテキスト記述を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF210E

ライブラリー&1が使用できません。

CPF2115

&2のタイプ*&3のオブジェクト&1に損傷がある。

CPF2150

オブジェクト情報機能に障害。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

[トップ](#)

ライブラリー・リスト表示 (DSPLIBL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

ライブラリー・リスト表示(DSPLIBL)コマンドは、システム部分を含む現行スレッドのライブラリー・リストを表示し、さらにプロダクト・ライブラリー、現行ライブラリー項目、およびユーザー部分が存在していれば、それらも表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション、位置 1

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

DSPLIBL

現行スレッドのライブラリー・リストにあるライブラリーの名前、タイプ、補助記憶域プール(ASP)装置名、およびテキストが表示されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2148

*DELETEDのマークが付けられたライブラリーは見つからない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF2179

ライブラリーを表示することができない。

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ライセンス・キー情報の表示 (DSPLICKEY)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライセンス・キー情報表示(DSPLICKEY)コマンドは、キーによる承諾付きのプロダクトのライセンス・リポジトリからソフトウェア・ライセンス・キー情報を表示するために使用することができます。「キーによる承諾」付きのプロダクトでは、ユーザーはライセンス情報の使用限界または満了日を変更するために、ソフトウェア販売会社からのソフトウェア・ライセンス・キーを持っている必要があります。

ライセンス・リポジトリは、固有のそれぞれのプロダクト、ライセンス条件、機能、およびシステムに対してプロダクト・ライセンス情報を記憶します。リポジトリにはシステムのライセンスを入れることができ、プロダクトを導入する必要はありません。

表示される情報には、プロセッサ・グループ、製造番号、ソフトウェア・ライセンス・キー、使用限界、満了日、および仕入れ先データが含まれます。

ライセンス・キー情報表示(DSPLICKEY)コマンドは、ライセンス・キー情報追加(ADDLICKEY)コマンドまたはライセンス・キー情報除去(RMVLICKEY)コマンドへの入力として使用できる出力ファイルを作成するためにも使用することができます。

制約事項:このコマンドは*EXCLUDE権限を共通認可として出荷されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PRDID	プロダクト識別コード	文字値, <u>*ALL</u>	オプション, 位置 1
LICTRM	ライセンス条件	文字値, <u>*ALL</u>	オプション, 位置 2
FEATURE	機能	文字値, <u>*ALL</u>	オプション, 位置 3
SERIAL	システム製造番号	文字値, <u>*LOCAL</u> , *REMOTE, *ALL	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *LICKEYFILE	オプション
LICKEYFILE	ライセンス・キー・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ライセンス・キー・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
LICKEYMBR	ライセンス・キー・メンバー	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	<u>*REPLACE</u> , *ADD	

プロダクト識別コード (PRDID)

ソフトウェア・ライセンス・キー情報を表示するプロダクトの7桁のIDを指定します。

***ALL** すべてのプロダクトIDのソフトウェア・ライセンス・キー情報が表示されます。

総称プロダクトID*

表示するプロダクトの総称IDを指定してください。総称プロダクトIDは、総称名と同じように指定されます。

総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（たとえば、ABC*など）です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていないければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。

プロダクトID

プロダクトの7桁のIDを指定してください。

ライセンス条件 (LICTRM)

ソフトウェア・ライセンス・キー情報を表示するライセンス条件を指定します。

***ALL** システムに見つかったすべてのライセンス条件のソフトウェア・ライセンス・キー情報が表示されます。

ライセンス条件

ライセンス条件をVX, VXRY,またはVXRYMZの形式で指定してください。この場合に、XまたはYは0から9の数字、Zは0から9の数字またはAからZの文字とすることができます。

機能 (FEATURE)

ソフトウェア・ライセンス・キー情報を表示するPRDIDパラメーターで指定したプロダクトの機能を指定します。

***ALL** PRDIDパラメーターで指定したプロダクトのすべての機能のソフトウェア・ライセンス・キー情報が表示されます。

機能 ソフトウェア・ライセンス・キー情報を表示する機能の番号を指定してください。

システム製造番号 (SERIAL)

ソフトウェア・ライセンス・キー情報を表示するシステムの製造番号を指定してください。

*LOCAL

ローカル・システムのソフトウェア・ライセンス・キー情報が表示されます。

***REMOTE**

ローカル・システム以外のすべてのシステムのソフトウェア・ライセンス・キー情報が表示されま
す。

***ALL** すべてのシステムのソフトウェア・ライセンス・キー情報が表示されます。

システム製造番号

ソフトウェア・ライセンス・キー情報を表示するシステムの製造番号を指定してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

このコマンドからの出力を表示するか、印刷するか、またはデータベース・ファイルに送るかを指定しま
す。

***** 出力は、対話式ジョブで要求された場合には画面上に表示され、またバッチ・ジョブによって要求
された場合にはジョブのプール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

***LICKEYFILE**

ソフトウェア・ライセンス・キー情報は、出力ファイルに書き出されます。

トップ

ライセンス・キー・ファイル (LICKEYFILE)

ソフトウェア・ライセンス・キー情報が書き出されるファイルの修飾名を指定します。このファイルが存在
しない場合には、テンプレートとしてファイルQSYS/QALZAKEY を使用して作成されます。このファイル
が存在する場合には、QSYS/QALZAKEYの形式でなければなりません。

ライセンス・キー・ファイルの名前は、次のライブラリーの値の1つで修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラ
リーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが
指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

ライセンス・キー・ファイル

ソフトウェア・ライセンス・キー情報を書き出すファイルの名前を指定してください。

トップ

ライセンス・キー・メンバー (LICKKEYMBR)

出力を書き出すデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。メンバーは次の通りに使用または作成されます。

- メンバーが存在する場合には、システムはこのパラメーターの2番目の要素を使用して新しいレコードを追加する前にそのメンバーを消去するかどうかを決定します。
- メンバーが存在しないでメンバー名も指定されていない場合には、システムはLICKKEYFILEパラメーターで指定された出力ファイルの名前でメンバーを作成します。
- メンバーが存在しないでデータベース・ファイル・メンバー名が指定された場合には、システムはそのメンバーを作成します。

出力を受け取るメンバーに指定できる値は次の通りです。

*FIRST

ファイル内の最初のメンバーが出力を受け取ります。

出力を受け取るメンバー

出力を受け取るメンバーの名前を指定してください。

指定できるメンバーに対して実行する操作の値は次の通りです。

*REPLACE

システムは既存のメンバーを消去して新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

[トップ](#)

例

```
DSPLICKEY PRDID(*ALL) LICTRM(*ALL) FEATURE(*ALL)
          SERIAL(*REMOTE) OUTPUT(*LICKKEYFILE)
          LICKKEYFILE(KEYS) LICKKEYMBR(REMOTE *REPLACE)
```

このコマンドは、このシステムを除くすべてのシステムのすべてのプロダクト、機能、およびライセンス条件のソフトウェア・ライセンス・キー情報を表示します。出力はファイルKEYSのメンバーREMOTEに入れます。既存のレコードは置き換えられます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9E58

ライセンス・キー情報が見つからなかった。

[トップ](#)

回線記述の表示 (DSPLIND)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

回線記述の表示(DSPLIND)コマンドにより、回線記述が表示されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIND	回線記述	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2
OPTION	オプション	*ALL, *BASIC, *SWTNWILST, *CTL, *SWTCTLLST, *ACTSWTCTL, *SSAP, *GRPADR, *FCNADR, *EORTBL, *LGLCHLE, *APPN, *PHYCHAR, *THRESHOLD, *TMRRTY	オプション, 定位置 3

[トップ](#)

回線記述 (LIND)

表示される回線記述名を指定します。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

オプション (OPTION)

このパラメーターによって、情報を選択して表示することができます。すべての情報(*ALL)または特定の情報の表示を選択することができます。

***ALL** この回線と関連したすべての情報が表示されます。

***BASIC**

この回線タイプの基本特性だけが表示されます。

***SWTNWILST**

IDLC回線の作成または変更(CRT/CHGLINIDLC)コマンドの交換NWIリスト (SWTNWILST)パラメーターで指定されたネットワーク・インターフェース記述に関する情報だけが表示されます。

***CTL** この回線の活動状態の制御装置だけが表示されます。

***SWTCTLLST**

この交換回線の制御装置リストだけが表示されます。

***ACTSWTCTL**

この交換回線の活動状態の制御装置だけが表示されます。

***SSAP** この回線のソース・サービス・アクセス・ポイントに関する情報だけが表示されます。

***GRPADR**

ETHERNET回線のグループ化アドレスに関する情報だけが表示されます。

***FCNADR**

このトークンリングの機能アドレスに関する情報だけが表示されます。

***EORTBL**

非同期回線のレコードの終わりテーブルに関する情報だけが表示されます。

***LGLCHLE**

X.25回線の論理チャンネル項目だけが表示されます。

***APPN**

拡張対等通信ネットワーク機能に関する情報だけが表示されます。

***PHYCHAR**

非同期回線の物理特性に関する情報だけが表示されます。

***THRESHOLD**

IDLC回線のしきい値に関する情報だけが表示されます。

***TMRRTY**

この回線のタイマーおよび再試行オプションに関する情報だけが表示されます。

トップ

例

DSPLIND LIND(LINE21)

このコマンドは、LINE21という名前の回線記述についての情報を表示します。情報は、コマンドが投入されたワークステーションの画面に表示されます。コマンドがバッチ・ジョブから入力された場合には、画面からの出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2601

回線記述&1が見つからない。

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2626

回線記述は前に削除されている。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF268A

回線&2には&1は正しくない。

CPF2779

回線記述&1に損傷がある。

[トップ](#)

オブジェクト・リンクの表示 (DSPLNK)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト・リンクの表示 (DSPLNK)コマンドは、ディレクトリー内の指定されたオブジェクトの名前とオブジェクトに関する情報を表示するためのオプションのリストを表示します。

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER)にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項:

注: このコマンドの権限要件は、ファイル・システム、オブジェクト・タイプ、要求される操作などを考えると複雑です。したがって、このコマンドに要求される権限については、ISERIES機密保護解説書 (SD88-5027)を参照してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	パス名, _	オプションル, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT _,	オプションル, 定位置 2
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALL, *ALLDIR, *ALRTBL, *AUTL, *BLKSF, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CHRSF, *CLD, *CLS, *CMD, *CNL, *COSD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DDIR, *DEVD, *DIR, *DOC, *DSTMF, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FIFO, *FILE, *FLR, *FNTRSC, *FNTTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *IMGCLG, *IPXD, *JOBQ, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LIB, *LIND, *LOCALE, *MBR, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODD, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *M36, *M36CFG, *NODGRP, *NODL, *NTBD, *NWID, *NWS, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDLOD, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQR, *QRYDFN, *RCT, *SBS, *SCHIDX, *SOCKET, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *STMF, *SVRSTG, *SYMLNK, *S36, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRPRF, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	オプションル
DETAIL	詳細	*PRV, *NAME, *BASIC, *EXTENDED	オプションル
DSPOPT	表示オプション	*PRV, *USER, *ALL	オプションル

オブジェクト (OBJ)

表示するオブジェクトを指定します。

* 現行ディレクトリーのすべてのオブジェクトが表示されます。

オブジェクト・パス名

オブジェクトのパス名または表示するオブジェクトの名前を突き合わせるパターンを指定してください。オブジェクト・パス名は、単純名、またはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

* 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

表示するオブジェクト・タイプを指定します。

このコマンドについてプロンプトを出す時にオブジェクト・タイプの完全なリストを表示するには、このパラメーターのフィールドにカーソルを位置付け、F4 (プロンプト) を押します。オブジェクト・タイプの記述については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクト・タイプ」を参照してください。

***ALL** 名前が**オブジェクト (OBJ)**パラメーターで指定されているパターンと一致するすべてのオブジェクトが表示されます。

*ALLDIR

すべてのディレクトリー・タイプ(DIR, LIB, FLR, データベースFILE)が表示されます。

オブジェクト・タイプ

表示するオブジェクト・タイプを指定します。

トップ

詳細 (DETAIL)

オブジェクト・リンクの表示 (DSPLNK)リストに表示する情報を指定します。

PRV** 前にこのコマンドを実行したときに表示されたのと同じ情報が表示されます。前にこのコマンドまたはオブジェクト・リンクの処理 (WRKLNK)コマンドを使用していない場合には、値BASIC**が使用されます。

***NAME**

名前だけが表示されます。

***BASIC**

名前と一緒にタイプ、タイプの属性、およびテキストが表示されます。

***EXTENDED**

上記の基本情報に加えて、タイプ・フィールドが拡張され、シンボリック・リンクおよびハードまたはシンボリック・リンクを表示するために使用可能な追加オプションに関する情報の続きが表示されます。

トップ

表示オプション (DSPOPT)

PCシステムおよび隠しオブジェクトを表示するかどうかを指定します。

PRV** このパラメーターには、前にこのユーザーによってこのコマンドが実行された時と同じ値が使用されます。このコマンドが前に使用されていない場合には、USER**が使用されます。

***USER**

PCシステムおよび隠しオブジェクトは表示されません。指定されたパターンがピリオド(.)で始まっていない限り、ピリオド(.)で始まるオブジェクトは表示されません。

***ALL** PCシステムおよび隠しオブジェクトを含めて、すべてのオブジェクトが表示されます。ピリオド(.)で始まるオブジェクトが表示されます (パターンにはアスタリスク(*)を指定)。これにはディレクトリー(.)および親ディレクトリー(..)項目が含まれます。

トップ

例

例1: オブジェクト・リンクの表示

```
DSPLNK OBJ('X/PAY')
```

このコマンドは、現行ディレクトリー内のディレクトリーXにあるオブジェクトPAYを表示します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

[トップ](#)

ログ表示 (DSPLOG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ログ表示(DSPLOG)コマンドでは、システムのヒストリー・ログ(QHST)を示します。ヒストリー・ログには、システムおよびシステム状況の通常の操作に関する情報が含まれます。

この画面には、ログに送られたメッセージ、メッセージが送られた日付と時刻、およびメッセージを送ったジョブの名前が表示されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LOG	ログ	<u>QHST</u>	オプション、位置 1
PERIOD	ログ出力の期間	要素リスト	オプション、位置 2
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 開始日付	日付, <u>*CURRENT</u> , *BEGIN	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, <u>*AVAIL</u>	
	要素 2: 終了日付	日付, <u>*CURRENT</u> , *END	
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *PRTWRAP, *PRTSECLVL	オプション
JOB	表示するジョブ	単一値: <u>*NONE</u> その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 修飾ジョブ名	オプション、位置 3
	修飾子 1: 表示するジョブ	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
MSGID	メッセージ識別コード	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 100 回の繰り返し): 名前	オプション

[トップ](#)

ログ (LOG)

システム上の表示されるログを指定します。

QHST システムのヒストリー・ログQHSTが示されます。

[トップ](#)

ログ出力の期間 (PERIOD)

ログされたメッセージ・データが示される期間を指定します。このパラメーターには、それぞれが2つの要素を持つ2つの要素リストが含まれています。後続の要素値が指定される場合には、パラメーター値順序の中でその位置を保つために、最初の要素には値または*Nを指定する必要があります。PERIODが指定されない場合には、次の値とみなされます。

```
PERIOD((*AVAIL *CURRENT) (*AVAIL *CURRENT))
```

要素1:開始時刻および日付

要素1:開始時刻

次の1つを使用して、その時またはそれ以後データがログされていない開始時刻を指定します。指定された日時以前にログされている項目があっても示されません。

*AVAIL

指定された開始日付に使用可能な、ログされたすべてのデータが示されます。

開始時刻

ログされたデータの表示を示す指定された開始日付の開始時刻を指定します。この時刻は24時間形式で指定され、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(**HHMM**または**HHMMSS**)を指定します。ここで、**HH** =時、**MM** =分、および**SS** =秒です。時、分、および秒はそれぞれ正確に2桁としなければなりません。必要な場合には、先行ゼロを使用してください。**HH**の有効な値の範囲は00から23です。**MM**および**SS**の有効な値の範囲は00から59です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

要素2:開始日付

次の1つを使用して、その日またはそれ以後データがログされていない開始日付を指定します。指定された日付以前にログされている項目があっても示されません。

*CURRENT

本日の指定された開始時刻と終了時刻（指定されている場合）の間にログされたデータが示されます。

*BEGIN

ログの始めからログされたデータが表示されます。

開始日付

開始日を日付区切り文字付き/なしで指定します。この日付は、日付形式ジョブ属性で指定した通り、このジョブで使用する日付形式で入力しなければなりません。日付区切り文字を使用する場合は、日付区切り文字ジョブ属性で指定した通り、このジョブで使用する日付区切り文字と同じでなければなりません。

要素2:終了時刻および日付

注: 出力が表示装置で表示される場合には, 終了日付および時刻に指定された値は無視されます。すなわち, 指定された終了日付および時刻に関係なく, 指定された開始日付および時刻以降にログ中にログされたすべてのデータが表示可能です。

要素1:終了時刻

次の1つを使用して, それ以前にデータがログされていない終了時刻を指定します。

*AVAIL

指定された終了日付に使用可能な, ログされたすべてのデータが示されます。

終了時刻

ログされたデータの印刷を判別する指定された終了日付の終了時刻を指定します。時刻を入力できる形式については, **開始時刻**を参照してください。

要素2:終了日付

次の1つを使用して, それ以前またはその日にデータがログされていない終了日付を指定します。

*CURRENT

現行日が, ログされたデータが示される最後の日です。

END** データがログされた最後の日付が, ログ・データを表示する最後の日付です。END**を指定した場合には, 終了時刻の***AVAIL**以外の値は無視されます。

終了日付

終了日を日付区切り文字付き/なしで指定します。この日付は, 日付形式ジョブ属性で指定した通り, このジョブで使用する日付形式で入力しなければなりません。日付区切り文字を使用する場合は, 日付区切り文字ジョブ属性で指定した通り, このジョブで使用する日付区切り文字と同じでなければなりません。

注: ***PRINT**が指定されたコマンド**DSPLOG**が実行された後で出力が受け取られていない場合には, 一部のメッセージ・データの日付の順序が違っていることがあります。この場合にデータを印刷するには, 次を指定してください。

```
PERIOD((*AVAIL *BEGIN)(*AVAIL *END))
```

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元表示装置に表示するか, あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は, ジョブのスパール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。各メッセージごとに1行のメッセージ・テキストだけが印刷されます。これは、第1レベル・メッセージ・テキストの最初の105文字となります。

***PRTWRAP**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。メッセージが1行に収まらない場合には、第1レベル・メッセージ・テキストの最大2000文字まで収容できるように追加の行が印刷されます。

***PRTSECLVL**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。メッセージの第1と第2レベルのテキストが両方とも印刷されます。第1レベル・テキストの2000文字、および第2レベル・テキストの6000文字までが印刷されます。

出力が印刷される時には、各メッセージごとに2行以上が印刷されます。最後の行には、次の情報が含まれます。

- メッセージを送ったジョブの修飾ジョブ名。これは次の3つのフィールドから構成されます。
 - ジョブ名
 - ユーザー名
 - ジョブ番号
- メッセージが送られた日付および時刻。
- メッセージが送られた時にスレッドが実行されていたユーザー・プロファイルの名前。

トップ

表示するジョブ (JOB)

ログの中のメッセージが表示されるジョブを指定します（ある場合）。指定されたジョブと関連したメッセージが示されるのは、このコマンドで指定された期間にログされている場合に限られます。

単一値

***NONE**

ジョブ名を使用してどのメッセージが示されるかの指示はしません。

その他の値

修飾ジョブ名

ログされたメッセージが示される5つまでのジョブの名前を指定してください。ジョブ名は、最大3つの要素によって修飾することができます。たとえば、次の通りです。

- ジョブ名
- ユーザー名/ジョブ名
- ジョブ番号/ユーザー名/ジョブ名

ジョブ名が修飾されない場合は、ログの中の指定されたジョブのすべてのメッセージが表示されることとなります。

トップ

メッセージ識別コード (MSGID)

表示されるログされたメッセージのメッセージID (もしあれば) を最大100まで指定します。これらのメッセージが表示されるのは、それがログ出力の期間 (PERIOD)パラメーターに指定された期間内に、表示するジョブ (JOB)パラメーターに指定されたジョブの中でログされている場合だけです。

単一値

***ALL** ログされたメッセージは、前のジョブおよび時刻指定に適合している場合は、そのIDに関係なく、すべて示されます。

その他の値

メッセージID

示されるメッセージのIDを指定します。

メッセージの特定の総称タイプを表示するには、メッセージ・ファイルを識別する3文字のコードと、それに続けてすべてゼロを指定します。たとえば、CPF0000は直前のパラメーターの指定を満たすすべてのCPFメッセージが表示されることを指定します。IDをPPPNN00として指定した場合には、指定された5文字(PPPNN)で始まるすべてのメッセージを示すことができます。メッセージIDの詳細については、メッセージ記述追加(ADDMSGD)コマンドのMSGIDパラメーターの説明を参照してください。

トップ

例

例1:現在日付でログされたメッセージの表示

```
DSPLLOG LOG(QHST)
```

このコマンドは、現在日付で活動記録ログ内で使用可能な、ログされたすべてのメッセージ (およびその関連するデータ) を表示します。

例2: 1988年9月にログされたメッセージの表示

```
DSPLLOG JOB(MYJOB) PERIOD>(*AVAIL 090199) (*AVAIL 093099)
MSGID(CPF0000)
```

このコマンドは、1999年9月中にログされた、MYJOBの活動記録ログ内のすべてのCPFメッセージを表示します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2403

&2にメッセージ待ち行列&1が見つからない。

CPF2447

ログの現在のバージョンには項目が存在しない。

CPF2478

ログの要求したバージョンは認可されていない。

CPF2480

ログの要求されたバージョンに損傷がある。

CPF2519

メッセージIDリストの処理中に、エラーが起こった。

CPF2537

&3のファイル&2に書き込まれたレコード数が多すぎる。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

マウントFS情報の表示 (DSPMFSINF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

マウント・ファイル・システム情報表示(DSPMFSINF)コマンドは、マウント・ファイル・システムについての情報を表示します。

このコマンドは、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- STATFS

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項:

1. パス内の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	パス名	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

トップ

オブジェクト (OBJ)

マウント・ファイル・システム内にあり、統計を表示するオブジェクトのパス名を指定します。マウント・ファイル・システム中のすべてのオブジェクトを指定することができます。たとえば、ディレクトリー(*DIR)またはストリーム・ファイル(*STMF)などとすることができます。

パス名を指定するときの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの「オブジェクトの命名規則」を参照してください。

これは必須パラメーターです。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスプール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスプール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

トップ

例

例1: マウント・ファイル・システムの統計の表示

```
DSPMF5INF OBJ('/JSMITH/FILE1')
```

このコマンドは、*/JSMITH/FILE1*が入っているマウントされたファイル・システムの統計を表示します。

例2: QSYS.LIBファイル・システムの統計の表示

```
DSPMF5INF OBJ('/QSYS.LIB/MYLIB.LIB/MYFILE.FILE')
```

このコマンドは、ライブラリーMYLIBの*FILEオブジェクトMYFILEが入っているQSYS.LIBファイルの統計を表示します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

トップ

メニュー属性表示 (DSPMNUA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メニュー属性表示(DSPMNUA)コマンドは、指定されたメニューについて次の情報を表示します。

- メニュー・タイプ
- プログラム・メニューのプログラム名およびライブラリー
- 表示装置ファイル名および表示装置ファイル・メニューのライブラリー
- メッセージ・ファイル名および表示装置ファイル・メニューのライブラリー
- 表示装置ファイル・メニューに表示されるコマンド行のタイプ
 - *LONG
 - *SHORT
 - *NONE (オプション行が使用されます)
- 表示装置ファイル・メニューに、活動状態の機能キーの説明を表示するかどうか
- 現行ライブラリー
- プロダクト・ライブラリー
- 記述テキスト

制約事項:

- メニューに対する使用(*USE)権限、およびメニューが入っているライブラリーに対する*USE権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MENU	メニュー	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: メニュー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

メニュー (MENU)

属性が表示されるメニューを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: メニュー

名前 メニュー・オブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

メニューを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 メニューが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

DSPMNUA MENU(PAYROLL)

このコマンドは、名前PAYROLLのメニューの属性を表示装置に（このコマンドを対話式に実行した場合）表示します。このメニューは、ライブラリー・リスト（省略時の値*LIBL)の検索によって見付けられます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF6ACD

&2のメニュー&1がシステムのバージョンと違っている。

CPF7D41

オーダー援助要求のロギング時にエラーが起こった。

CPF7D42

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9811

ライブラリー&2でプログラム&1が見つからない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9821

ライブラリー&2のプログラム&1は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9831

装置&1を割り当てることができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

モジュールの表示 (DSPMOD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

モジュールの表示(DSPMOD)コマンドは、モジュールに関する情報を表示します。この表示には、コンパイラに関する情報、モジュールを作成した元のソース、モジュールの処理属性、およびモジュールのサイズが含まれます。

制約事項:

- 表示しようとするモジュールに対する使用(*USE)権限およびそのモジュールの保管先のライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MODULE	モジュール	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: モジュール	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
DETAIL	詳細	単一値: *ALL その他の値 (最大 7 回の繰り返し): *BASIC, *SIZE, *EXPORT, *IMPORT, *PROCLIST, *REFSYSOBJ, *COPYRIGHT	オプション, 定位置 2
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプション, 定位置 3
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

トップ

モジュール (MODULE)

情報を表示する対象のモジュールを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: モジュール

名前 情報が表示されるモジュールの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

詳細 (DETAIL)

モジュールのどの情報セットを表示するかを指定します。

単一値

***ALL** 指定されたモジュールに適用可能なすべての情報が表示または印刷されます。

注: DETAIL(*ALL)が有効となるのは、情報を表示または印刷する場合だけです。*OUTFILEが出力(OUTPUT)パラメーターに指定する場合は、無効です。

その他の値 (最大7個指定可能)

***BASIC**

モジュール基本情報、モジュール互換性セクション、およびSQL情報が表示されます。

***SIZE** このモジュールのサイズおよびサイズの限界が表示されます。

***EXPORT**

他のモジュールにエクスポートされる、このモジュールに定義された記号が表示されます。

***IMPORT**

このモジュールの外部的に定義された記号が表示されます。

***PROCLIST**

そのタイプおよび優先順位をもつプロシージャ名のリストが表示されます。

***REFSYSOBJ**

バインドされた1つのプログラムまたはサービス・プログラムにモジュールをバインドする時に、このモジュールによって参照されるシステム・オブジェクトのリストが表示されます。

***COPYRIGHT**

このモジュールの著作権情報が表示されます。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

このコマンドからの出力を表示するか、印刷するか、またはデータベース・ファイルに送るかを指定します。

*
- 対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのプール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

注: 256桁を超えるプロシージャ名が見つかって値*OUTFILEが指定されている場合には、プロシージャ名の最後の253文字が出力ファイルに入れられて、その前に3つの不等号(<<<)文字が付けられます。この不等号(<<<)文字は、この名前が部分名のみであることを示します。ジョブ・ログには、使用可能なすべての情報が戻されていないことを示す診断メッセージCPD5D12が送られます。同じメッセージが、モニター可能なコマンド処理プログラム(CPP)の呼び出し側プログラムに、状況メッセージとして送られます。ユーザーは、モジュール情報検索(QBNRMODI)またはモジュール情報リスト(QBNLMODI) APIを使用して、このプロシージャの完全な名前を見つけることができます。

注: DETAIL(*ALL)が有効なのは、OUTPUT(*OUTFILE)が指定された場合だけです。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

このコマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。出力ファイルが存在しない場合に、このコマンドは、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルを作成します。ファイルが作成される場合には、このテキストは「DSPMODの出力ファイル」となります。このファイルの一般ユーザー権限は、ファイルを作成するライブラリーに指定した作成権限と同じです。出力ファイルのレコード様式は、弊社提供のデータベース・ファイルで使用されるものと同じです。

注: 256桁を超えるプロシージャ名が見つかって値*OUTFILEが指定されている場合には、プロシージャ名の最後の253文字が出力ファイルに入れられて、その前に3つの不等号(<<<)文字が付けられます。この不等号(<<<)文字は、この名前が部分名のみであることを示します。ジョブ・ログには、使用可能なすべての情報が戻されていないことを示す診断メッセージCPD5D12が送られます。同じメッセージが、モニター可能なコマンド処理プログラム(CPP)の呼び出し側プログラムに、状況メッセージとして送られます。ユーザーは、モジュール情報検索(QBNRMODI)またはモジュール情報リスト(QBNLMODI) APIを使用して、このプロシージャの完全な名前を見つけることができます。

弊社提供データベース・ファイルおよびレコード様式は次の通りです。

明細:	ファイル:	レコード様式:
*BASIC	QABNDMBA	QBNDMBAS
*SIZE	QABNDMSI	QBNDMSIZ
*EXPORT	QABNDMEX	QBNDMEXP
*IMPORT	QABNDMIM	QBNDMIMP
*PROCLIST	QABNDMPR	QBNDMPRO
*REFSYSOBJ	QABNDMRE	QBNDMREF
*COPYRIGHT	QABNDMCO	QBNDMCOP

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 このコマンドの出力を受け取るデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力が送られる先のデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。メンバーがすでに存在している場合には、システムがこのパラメーターの2番目の要素を使用して、新しいレコードが追加される前にそのメンバーが消去されるかどうかを判別します。メンバーが存在していなくて、メンバー名を指定しない場合は、システムが**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターに指定された出力ファイルの名前でメンバーを作成します。出力ファイル・メンバー名を指定しているが、メンバーが存在していない場合は、システムがそれを作成します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

***FIRST**

ファイル内の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、ファイル・メンバーが存在していない場合には、システムがOUTFILEパラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。このメンバーが存在していない場合には、システムがそれを作成します。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

***REPLACE**

システムは既存のメンバーを消去して新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

トップ

例

```
DSPMOD MODULE(MYMOD)
```

このコマンドは、ライブラリー・リストからモジュール・オブジェクトMYMODを表示します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF5CE7

*MODULEデータの検索中にエラーが起こった。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

*STATUS メッセージ

CPD5D12

1つまたは複数のレコードに不完全な値がある。

[トップ](#)

モード記述表示 (DSPMODD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

モード記述表示(DSPMODD)コマンドにより、モード記述が表示されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MODD	モード記述	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

モード記述 (MODD)

表示されるモード記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

DSPMODD MODD(CICS2)

このコマンドは、モード記述CICS2についての情報を表示します。コマンドがバッチ・ジョブから入力された場合には、画面からの出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF260A

モード記述&1が見つからない。

CPF262B

モード記述&1は前に削除されている。

CPF262C

モード記述&1に損傷がある。

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

モジュール・ソースの表示 (DSPMODSRC)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

モジュール・ソース表示(DSPMODSRC)コマンドによって、バインド済みプログラムをデバッグするソース・デバッグ画面を表示することができます。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

DSPMODSRC

このコマンドは、デバッグされるプログラムのソース・デバッグ画面を表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

なし

[トップ](#)

モード状況表示 (DSPMODSTS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

モード状況表示(DSPMODSTS)コマンドは、APPC/APPN装置記述に関連したすべてのモードの状況を表示します。画面には、APPC/APPN装置の状況、使用中のソース、ターゲット、および切り離された会話の現在の数、および操作セッションの最大値が表示されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	名前	必須, 定位置 1
MODE	モード	通信名, <u>*ALL</u>	オプション, 定位置 2
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT	オプション, 定位置 3

トップ

装置 (DEV)

APPC装置記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

トップ

モード (MODE)

状況が表示されるモードの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

*ALL 指定した装置で使用されるすべてのモードが表示されます。

モード名

指定した装置に対して状況が表示されるモードの名前（最大8文字）を指定します。

BLANK

8個の空白文字のモード名が表示されます。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*
- 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

例

```
DSPMODSTS  DEV(MINN2)  MODE(CICS2)
```

このコマンドは、装置MINN2によって使用されたモードCICS2の状況を表示します。コマンドがバッチ・ジョブから入力された場合には、画面からの出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2625

オブジェクトを割り振ることができない。

CPF2634

オブジェクトは認可されていない。

CPF2688

装置がモード情報を受け取るための適切な状況にない。

CPF2698

装置にモードが見つからなかった。

CPF2702

装置記述が見つかりません。

CPF2706

装置は*APPCタイプの装置でない。

CPF9850

印刷装置ファイルの一時変更は許されない。

トップ

メッセージ表示 (DSPMSG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メッセージ表示(DSPMSG)コマンドは、指定されたメッセージ待ち行列で受け取ったメッセージを表示するために、表示装置ユーザーによって使用されます。メッセージ待ち行列がこのコマンドの入力されるジョブにも、また他のどのジョブにも割り振られていない場合には、このコマンドの処理中、このコマンドによってメッセージ待ち行列が暗黙に割り振られます。メッセージが表示される時には、ユーザーが待ち行列から1つまたは複数のメッセージを除去したり、各照会メッセージに対する応答を入力したりできるオプションも表示されます。

注: 1つまたは1グループのメッセージ記述を印刷する方法については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「システム操作の基本」情報にある「メッセージの処理」というタイトルを持つセクションを参照してください。

制約事項:

- *EXCLロック状態で作動するALCOBJコマンドを指定することによって別のジョブがすでにメッセージ待ち行列を割り振っている時には、DSPMSGを指定することはできません。
- メッセージ待ち行列が別のジョブに対して*BREAKまたは*NOTIFYモードになっている時には、ユーザーはDSPMSGコマンドを使ってジョブのメッセージを表示できますが、除去することはできません。
- メッセージ待ち行列が別のジョブに対して*BREAKモードになっている時には、ユーザーが照会メッセージに応答できるかどうかは、メッセージ待ち行列の中断処理プログラムによって決まります。PGM(*DSPMSG)が指定されている場合には、ユーザーは照会メッセージに応答できますが、PGM(ユーザー・プログラム)が指定されている場合には、照会メッセージに応答できません。
- 複数のジョブが同じ照会メッセージを表示し、すべてのジョブがそのメッセージに回答した場合には、そのメッセージに対する最初の回答のみが有効となります。他のジョブから後続の回答があると、エラー・メッセージが出されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *WRKUSR, *SYSOPR, *USRPRF, *WRKSTN その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション、位置 1
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *PRTWRAP	オプション
MSGTYPE	メッセージ・タイプ	*ALL, *INFO, *INQ, *COPY	オプション
START	最初に表示するメッセージ	*LAST, *FIRST	オプション
SEV	重大度コード・フィルター	0-99, 0, *MSGQ	オプション
ASTLVL	援助レベル	*PRV, *USRPRF, *BASIC, *INTERMED	オプション

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

表示されるメッセージが入っているメッセージ待ち行列を指定します。

注:このパラメーターに特殊値*WRKSTN, *WRKUSR, *USRPRF,および*SYSOPRを指定する必要があるのは、対話式ジョブを行っている時だけです。

単一値

***WRKUSR**

ワークステーションのメッセージ待ち行列にメッセージがある場合は、メッセージはそこから示されます。ユーザーがその画面を終了した後に、現行ユーザーのユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列からメッセージが示されます。ワークステーションのメッセージ待ち行列にメッセージがない場合は、ユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列からのメッセージだけが示されません。

***SYSOPR**

システム操作員メッセージ待ち行列(QSYSOPR)からのメッセージが表示されます。

***WRKSTN**

メッセージは、ワークステーション自体のメッセージ待ち行列から示されます。

***USRPRF**

現行のユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列からのメッセージが表示されます。

修飾子1: メッセージ待ち行列

メッセージ待ち行列名

表示されるメッセージが入っているメッセージ待ち行列の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

メッセージ待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

* 出力は表示される（対話式ジョブによって要求された場合）か、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。即時メッセージは長さを512バイトとすることができます。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

***PRTWRAP**

出力はジョブのスパール出力を使用して印刷され、メッセージ・テキストをスパール出力の1行に切り捨てる*PRINT値と比較して、切り捨ては行われません。

出力が印刷される時には、各メッセージごとに2行以上が印刷されます。最後の行には、次の情報が含まれます。

- メッセージを送ったジョブの修飾ジョブ名。これは次の3つのフィールドから構成されます。
 - ジョブ名
 - ユーザー名
 - ジョブ番号
- メッセージを送ったプログラムの名前。
- メッセージを送ったプログラム内の命令番号。非プログラム・メッセージ待ち行列の場合には、これは常にゼロです。
- メッセージが送られた日付および時刻。
- メッセージが送られた時にスレッドが実行されていたユーザー・プロファイルの名前。

トップ

メッセージ・タイプ (MSGTYPE)

表示されるメッセージ待ち行列中のメッセージのタイプを指定します。

***ALL** メッセージ待ち行列中のすべてのメッセージが表示されます。

***INFO** 通知メッセージ（応答を必要としないもの）だけが示されます。

***INQ** 照会メッセージ（応答を必要とするもの）だけが示されます。

***COPY**

他のメッセージ待ち行列に送られ、なお応答を必要とした照会メッセージのコピーが示されます。

トップ

最初に表示するメッセージ (START)

最初に示されるのは、メッセージ待ち行列の中の最も新しいメッセージか最も古いメッセージかを指定します。メッセージ・リストが複数の画面を占める場合には、表示装置のユーザーは画面を上方または下方に送って他のメッセージを見ることができます。

***LAST**

中間ビュー（メッセージの表示）が表示される場合には、メッセージ待ち行列上の最後の（最も新しい）メッセージが画面の最下行に表示されます。

基本ビュー（メッセージの処理）が表示される場合には、MSGQ上の最後の（最も新しい）メッセージが画面の最上行に表示されます。表示装置のユーザーはPAGE UP（前ページ）キーを押してより古いメッセージを表示することができます。

***FIRST**

中間ビュー（メッセージの表示）が表示される場合には、メッセージ待ち行列上の最初の（最も古い）メッセージが画面の最上行に表示されます。

基本ビュー（メッセージの処理）が表示される場合には、メッセージ待ち行列上の最初の（最も古い）メッセージが画面の最後に表示されます。表示装置のユーザーはPAGE DOWN（次ページ）キーを押してより新しいメッセージを表示することができます。

トップ

重大度コード・フィルター (SEV)

メッセージがもっている、中断または通知モードでユーザーに配布される最低の重大度レベルを指定します。ここで指定された重大度レベルより低い重大度レベルをもつメッセージがメッセージ待ち行列に到着した場合には、ジョブは中断されず、メッセージ待機中ライトはオンになりません。このようなメッセージはメッセージ表示(DSPMSG)コマンドによって表示されるまで、待ち行列に保留されます。

00 指定されたメッセージ待ち行列中のすべてのメッセージが表示されます。

***MSGQ**

メッセージ待ち行列に指定された重大度コードより大きいか等しい重大度コードを持つすべてのメッセージが表示されます。

重大度コード

メッセージが持つことができ、しかも示され得る最低の重大度コードを指定する00から99の範囲の値を指定します。

トップ

援助レベル (ASTLVL)

表示するユーザー・インターフェースを指定します。

***PRV** 使用された前のユーザー・インターフェースが表示されます。

***USRPRF**

現行ユーザー・プロファイルに記憶されているユーザー・インターフェースが使用されます。

***BASIC**

操作援助機能ユーザー・インターフェースが使用されます。

注: このユーザー・インターフェースはメッセージを次の2つのカテゴリーに分類します。(1)応答が必要なメッセージ、および(2)応答が必要でないメッセージ。新しいメッセージは各リストの先頭に表示されます。

***INTERMED**

システム・ユーザー・インターフェースが使用されます。

注: DSPMSGコマンドのオンライン・ヘルプ情報は、*INTERMEDユーザー・インターフェースが表示されていると見なします。*BASICユーザー・インターフェースが表示された場合には、メッセージ処理(WRKMSG)コマンドのオンライン・ヘルプ情報を参照してください。

[トップ](#)

例

例1:ワークステーション・メッセージ待ち行列およびユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列からのメッセージの表示

DSPMSG

このコマンドは、要求元のワークステーション・メッセージ待ち行列のメッセージに続いて、ユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列のメッセージを表示します。ワークステーション待ち行列にメッセージがない場合には、ユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列がただちに表示されます。

例2:通知メッセージの表示

DSPMSG MSGQ(SMITH) MSGTYPE(*INFO)

このコマンドは、要求元のワークステーションで、SMITHという名前のメッセージ待ち行列のすべての通知メッセージを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2203

ユーザー・プロファイル&1が正しくない。

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2213

ユーザー・プロファイル&1を割り振ることができない。

CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

CPF2225

内部システム・オブジェクトを割り振ることができない。

CPF2401

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2403

&2にメッセージ待ち行列&1が見つからない。

CPF2408

メッセージ待ち行列&1は認可されていない。

CPF2433

システム・ログ・メッセージ待ち行列&1にこの機能を使用することはできない。

CPF2450

ワークステーション・メッセージ待ち行列&1がジョブに割り振られていない。

CPF2451

メッセージ待ち行列&1は別のジョブに割り振られている。

CPF2477

メッセージ待ち行列&1は現在使用中である。

CPF2513

メッセージ待ち行列&1を表示することができない。

CPF2537

&3のファイル&2に書き込まれたレコード数が多すぎる。

CPF8127

&9のメッセージ待ち行列&4に&8の損傷がある。VLICログは&7です。

CPF8176

装置記述&4のメッセージ待ち行列に損傷がある。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

メッセージ記述表示 (DSPMSGD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メッセージ記述表示(DSPMSGD)コマンドによって、メッセージ・ファイル中のメッセージに関する詳細な情報が表示されます。1つのメッセージ・ファイルの特定のメッセージまたはある範囲のメッセージの記述をそのIDによって指定するか、あるいは1つのメッセージ・ファイルのすべてのメッセージを指定することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RANGE	メッセージ識別コードの範囲	単一値: *ALL その他の値: 要素リスト	オプション, 位置 1
	要素 1: 下限値	名前, *FIRST	
	要素 2: 上限値	名前, *ONLY, *LAST	
MSGF	メッセージ・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 位置 2
	修飾子 1: メッセージ・ファイル	名前, <u>QCPFMSG</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL	
DETAIL	詳細	*BASIC, *FULL	オプション
FMTTXT	メッセージ・テキストの形式	*YES, *NO	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

メッセージ識別コードの範囲 (RANGE)

そのメッセージ記述を表示または印刷するために指定されたメッセージ・ファイル中のメッセージIDの範囲を指定します。このパラメーターに*ALLを指定することによって、メッセージ・ファイル (MSGF)パラメーターに指定されたメッセージ・ファイル内のすべてのメッセージ記述を表示または印刷することができます。

開始メッセージIDが指定されていない場合には、メッセージ記述は指定されたメッセージ・ファイル内の最初のメッセージで始まります。

注: DETAIL(*BASIC)がOUTPUT(*)と一緒に指定され、メッセージIDのリストが対話式で表示される場合には、終了メッセージIDは無視されます。

単一値

***ALL** 指定されたメッセージ・ファイルの中のすべてのメッセージ記述が表示または印刷されます。この値はこのパラメーターの最初の要素にだけ指定することができます。

要素1: 下限値

このパラメーターの、開始メッセージIDと呼ばれる最初の要素は、表示または印刷する最初のメッセージ記述のメッセージIDを指定します。

*FIRST

メッセージ・ファイル (MSGF)パラメーターに指定されたファイル内の最初のメッセージが、その記述が表示または印刷される最初のメッセージとなります。

下限値 表示または印刷する最初のメッセージ記述の7文字のIDを指定してください。

要素2: 上限値

このパラメーターの、終了メッセージIDと呼ばれる2番目の要素は、印刷する最後のメッセージ記述のメッセージIDを指定します。OUTPUT(*)が指定されている場合には、この値は無視されます。

*ONLY

開始メッセージIDとして指定されたメッセージIDの記述だけが印刷されます。

*LAST

ファイルの最後のメッセージの記述が、最後に印刷されるメッセージです。

上限値 印刷する最後のメッセージ記述の7文字のIDを指定してください。

[トップ](#)

メッセージ・ファイル (MSGF)

表示されるメッセージ記述が入っているメッセージ・ファイルを指定します。

修飾子1: メッセージ・ファイル

QCPFMSG

メッセージ記述はメッセージ・ファイルQCPFMSGから表示されます。

名前 表示されるメッセージ記述が入っているメッセージ・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

メッセージ・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

*USRLIBL

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

名前 メッセージ・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

[トップ](#)

詳細 (DETAIL)

表示または印刷するメッセージに関する詳細の量を指定します。

*FULL

詳細なメッセージ記述が表示または印刷されます。出力 (OUTPUT)パラメーターに*PRINTが指定された場合には、詳細な記述が印刷されます。出力 (OUTPUT)パラメーターにアスタリスク(*)が指定された場合には、ユーザーが表示する詳細を選択できるメニューが示されます。

*BASIC

指定されたメッセージIDのリスト、それらの重大度、および第1レベルのメッセージを表示または印刷することを指定します。

[トップ](#)

メッセージ・テキストの形式 (FMTEXT)

メッセージおよびヘルプ情報を定様式で表示または印刷するかどうかを指定します。

*YES メッセージおよびヘルプ情報は定様式で表示または印刷されます。

*NO メッセージおよびヘルプ情報は不定様式で表示または印刷されます。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
- 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

例1:記述の表示または印刷

```
DSPMSGD RANGE(CPF1100 CPF3600) MSGF(QSYS/QCPFMSG)
```

このコマンドが表示装置から入力された場合には、指定されたメッセージの記述が表示装置で表示されます。このコマンドがバッチ・ジョブから入力された場合には、メッセージの記述はジョブのスパール出力待ち行列に送られます。

例2:メッセージ記述の印刷

```
DSPMSGD RANGE(*FIRST IDU0571) MSGF(QIDU/QIDUMSG)
          FMTEXT(*NO) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、次の範囲にあるファイルのメッセージ識別コードについてメッセージ記述を印刷します。QIDUMSGメッセージ・ファイルの最初のメッセージから識別コードがIDU0571のメッセージまで。メッセージ記述は不定様式です。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2401

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2407

&2にメッセージ・ファイル&1が見つからない。

CPF2411

&2のメッセージ・ファイル&1は認可されていない。

CPF2483

メッセージ・ファイルは現在使用中である。

CPF2510

&2のメッセージ・ファイル&1に論理的な損傷がある。

CPF2515

メッセージIDの範囲が正しくない。

CPF2516

&2の表示装置または印刷装置ファイル&1をオープンすることができない。

CPF2519

メッセージIDリストの処理中に、エラーが起こった。

CPF2537

&3のファイル&2に書き込まれたレコード数が多すぎる。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

トップ

通称の表示 (DSPNCK)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ニックネーム表示(DSPNCK)コマンドは、システム配布ディレクトリー中のニックネームについてデータベース出力ファイルを表示、印刷、または作成するために使用されます。

ニックネームは、ディレクトリー項目または配布リスト名を短く縮めたものです。ニックネームの詳細については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

このコマンドの出力は次のように送られます。

- 表示出力の場合には、省略時の値はすべてのニックネームのリストの表示です。ニックネームが指定されると、そのニックネームだけの明細情報が表示されます。
- 印刷出力またはデータベース・ファイル出力の場合には、省略時の値はユーザーがアクセスできるすべてのニックネームの書き込みです。ニックネームが指定されると、そのニックネームだけの明細情報が出力ファイルに書き込まれます。

制約事項: 所有者でなければ私用ニックネームを表示することはできません。自分が所有している私用ニックネームまたは共用ニックネームを表示するには特殊権限は不要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NCK	通称	要素リスト	オプションル、位置 1
	要素 1: 通称	文字値, *ALL	
	要素 2: アクセス	*PRV, *ALL, *PRIVATE, *PUBLIC	
TYPE	通称のタイプ	*ALL, *USER, *LIST	オプションル
OWNER	所有者	名前, *ALL, *CURRENT	オプションル、位置 2
OUTPUT	出力	*, *PRINT, *OUTFILE	オプションル、位置 3
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプションル、位置 4
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプションル
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	

トップ

通称 (NCK)

表示, 印刷, またはデータベース・ファイルに書き込むニックネームを指定します。

指定できるニックネームの値は次の通りです。

***ALL** システム配布ディレクトリー中のすべてのニックネームが出力用に送られます。

ニックネーム

明細情報を出力用に送るニックネームを指定してください。

指定できるニックネーム・アクセスの値は次の通りです。

***PRV** ニックネームを表示, 選択, または処理するために現行ユーザーによって指定された最後のアクセスが使用されます。

***ALL** ユーザーがアクセスできるすべてのニックネームが出力用に送られます。これには, ユーザーが所有する私用ニックネームおよびシステム配布ディレクトリー中のすべての共用ニックネームが含まれます。

*PRIVATE

ユーザーが所有する私用ニックネームが出力用に送られます。

*PUBLIC

システム配布ディレクトリー中のすべての共用ニックネームが出力用に送られます。

[トップ](#)

通称のタイプ (TYPE)

表示, 印刷, またはデータベース・ファイルに書き込むニックネームのタイプ (ユーザーまたはリスト) を指定します。

***ALL** ユーザーとリスト・タイプの両方のすべてのニックネームが出力用に送られます。

*USER

ユーザー・ニックネームが出力用に送られます。

***LIST** リスト・ニックネームが出力用に送られます。

[トップ](#)

所有者 (OWNER)

表示, 印刷, またはデータベース・ファイルに書き込むニックネームの所有者を指定します。

***ALL** すべてのユーザー・プロファイルが所有するニックネームが出力用に送られます。これには, ユーザーがアクセスできない私用ニックネームは含まれません。

*CURRENT

現行ユーザーが所有するニックネームが出力用に送られます。

ユーザー・プロファイル名

出力用に送るニックネームを所有する所有者のユーザー・プロファイルを指定してください。

出力 (OUTPUT)

コマンドの出力が要求元のワークステーションに表示するか、ジョブのプール出力で印刷するか、あるいはデータベース・ファイルに書き込むかを指定します。

- * 対話式ジョブで要求された出力は画面上に表示されます。コマンドがバッチ・ジョブの一部として実行される場合には、出力はジョブのプール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、OUTFILEパラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

出力が送られるデータベース・ファイルの名前を指定します。このファイルが存在していない場合には、このコマンドが指定されたライブラリーにこのデータベース・ファイルを作成します。作成されたファイルのテキストは「DSPNCKの出力ファイル」で、共通認可は*EXCLUDEです。

注: OUTPUT(*OUTFILE)が指定された時には、このパラメーターは必須です。

データベース・ファイルの名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は次の通りです。

データベース・ファイル名

出力を受け取るデータベース・ファイルの名前を指定してください。このファイルが存在していない場合には、このファイルは指定されたライブラリーに作成されます。このファイルが存在せず、ライブラリーが指定されていない場合、またはこのファイルが*LIBLで修飾されていて、システムがこのファイルを見つけることができない場合には、このデータベース・ファイルはユーザーの省略時のライブラリーに作成されます。ユーザーの省略時のライブラリーは現行ユーザーのユーザー・プロファイルに指定されます。省略時のライブラリーがユーザー・プロファイルに指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

トップ

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力が送られる先のデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。メンバーがすでに存在している場合には、システムがこのパラメーターの2番目の要素を使用して、新しいレコードが追加される前にそのメンバーが消去されるかどうかを判別します。メンバーが存在せず、メンバー名が指定されていない場合には、システムはOUTFILEパラメーターで指定された出力ファイルの名前でメンバーを作成します。出力ファイル・メンバー名が指定されていて、そのメンバーが存在していない場合には、システムがそれを作成します。

出力を受け取るメンバーに指定できる値は次の通りです。

*FIRST

ファイル内の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがOUTFILEパラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

メンバー名

出力を受け取るファイル・メンバーを指定します。OUTMBR (メンバー名) を指定し、そのメンバーが存在していない場合には、システムがそれを作成します。

メンバーに対するアクションに指定できる値は次の通りです。

*REPLACE

システムは既存のメンバーを消去して新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

トップ

例

例1:ニックネームのリストの表示

```
DSPNCK NCK(*ALL *PRIVATE)
```

このコマンドは、専用ニックネームのリストをニックネームの所有者に表示します。所有者は、表示されたニックネームの追加情報を表示または印刷するように要求することができます。

例2:ニックネームのリストの印刷

```
DSPNCK NCK(MANAGER *PRIVATE) OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、ユーザーの専用ニックネームMANAGERについての詳細情報を印刷します。

例3:ニックネームのデータベース・ファイルへの送信

```
DSPNCK NCK(*ALL *PUBLIC) OUTPUT(*OUTFILE) OUTFILE(ALLNICKS)
      OUTMBR(*FIRST *REPLACE)
```

このコマンドは、ディレクトリー内の共通ニックネームごとに1レコードをデータベース・ファイルALLNICKSに送ります。このソース・ファイルがライブラリー・リスト (省略時のライブラリー修飾子) に見つからない場合には、ユーザーの省略時ライブラリー・リストに、またはユーザーの省略時ライブラリーが指定されていない場合はQGPLライブラリーに作成されます。

例4:所有者のニックネームのデータベース・ファイルへの送信


```
DSPNCK  NCK(*ALL *PUBLIC) OWNER(CDJONES) OUTPUT(*OUTFILE)
        OUTFILE(NICKNAME/CDJONES)
        OUTMBR(*FIRST *REPLACE)
```

このコマンドは、ユーザー・プロファイルがCDJONESであるユーザーが所有している共通ニックネームごとに1レコードをライブラリーNICKNAME内のデータベース・ファイルCDJONESに書き込みます。このソース・ファイルがライブラリーNICKNAME内に見つからない場合には、作成されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9A89

ニックネーム機能が正常に実行されなかった。

CPF9009

システムには&2のファイル&1のジャーナルが必要である。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

トップ

NDSコンテキストの表示 (DSPNDSCTX)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NETWAREディレクトリー・サービス・コンテキスト表示(DSPNDSCTX)コマンドは、現行のNDSコンテキストを表示します。

出力は、OUTPUTパラメーターおよびジョブ・タイプによって指示された通りに、表示装置かまたはスプール印刷装置ファイルに向けられます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

トップ

出力 (OUTPUT)

出力が要求ワークステーションの画面に表示されるか、あるいはジョブのスプールの出力で印刷されるかを指定します。

*
- 対話式ジョブによって要求された出力は、画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスプールの出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスプールの出力で印刷されます。

トップ

例

なし

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

FPE010A

NETWAREディレクトリー・サービスのコンテキストが表示されません。

[トップ](#)

ネットワーク属性表示 (DSPNETA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク属性表示 (DSPNETA)コマンドは、システムのネットワーク属性を表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション、定位置 1

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

DSPNETA OUTPUT(*)

ジョブが対話式である場合に、このコマンドは、ワークステーションのシステムのネットワーク属性を表示します。ジョブがバッチである場合には、ネットワーク属性はジョブのスパール出力を使用して印刷されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

[トップ](#)

ノード・グループの表示 (DSPNODGRP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ノード・グループ表示(DSPNODGRP)コマンドは、ノード・グループ内のシステムまたはノードを、そのノード・グループの区画スキームとともに表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NODGRP	ノード・グループ	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ノード・グループ	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

ノード・グループ(NODGRP)

表示したいノード・グループを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ノード・グループ

名前 表示されるノード・グループの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

* 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのスパール出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

例

例1: ノード・グループの表示

```
DSPNODGRP  NODGRP(LIB1/GROUP1)
```

このコマンドは、GROUP1という名前のノード・グループにあるシステムおよびそのノード・グループに関連した区画スキームを表示します。情報はワークステーションに表示されます。

例2: ノード・グループの印刷

```
DSPNODGRP  NODGRP(LIB1/GROUP2)  OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、GROUP1という名前のノード・グループおよび関連した区画スキーム中のシステムのリストが入っているスパール・ファイルを作成します。

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF2189

&2のオブジェクト&1タイプ*&3は認可されていない。

CPF3166

ノード・グループ&1がライブラリー&2に見つからなかった。

CPF9804

ライブラリー&3のオブジェクト&2が損傷している。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

NETBIOS記述の表示 (DSPNTBD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NETBIOS記述表示(DSPNTBD)コマンドは、NETBIOS記述オブジェクトを表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NTBD	NETBIOS記述	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

NETBIOS記述 (NTBD)

表示されるNETBIOS記述の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

DSPNTBD NTBD(MYNETBIOS)

このコマンドは、MYNETBIOSという名前のNETBIOS記述についての情報を表示します。情報は、コマンドが入力されたワークステーションに表示されます。コマンドがバッチ・ジョブから投入された場合には、コマンドからの出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF26B2

NETBIOS記述&1は前に削除された。

[トップ](#)

NETWARE認証項目の表示 (DSPNTWAUTE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NETWARE認証項目表示(DSPNTWAUTE)コマンドは、サーバーに関する認証項目を表示します。出力は、OUTPUTパラメーターおよびジョブ・タイプによって指示された通りに、表示装置かまたはスプール印刷装置ファイルに向けられます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SVRTYPE	サーバー・タイプ	*NETWARE3, *NDS	必須, 定位置 1
NDSTREE	NDSツリー	文字値	オプション
SERVER	サーバー	文字値	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	名前, *CURRENT	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

サーバー・タイプ (SVRTYPE)

表示されている認証項目のタイプを指定します。

*NETWARE3

項目はNETWARE 3.Xサーバーに関するものです。

*NDS 項目はNETWAREディレクトリー・サービス・ツリーに関するものです。

[トップ](#)

NDSツリー (NDSTREE)

*NDS項目の場合には、表示する認証項目のNDSツリー名を指定します。

[トップ](#)

サーバー (SERVER)

*NETWARE3項目の場合には、表示する認証項目のサーバー名を指定します。

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

認証項目が入っているユーザー・プロファイルを指定します。

*CURRENT

現行ユーザー・プロファイルを使用します。

名前 ユーザー・プロファイルの名前を指定します。このユーザー・プロファイルは現行のユーザー・プロファイルであるか、あるいはユーザーはこのユーザー・プロファイルに対する*USEと*OBJMGT権限および*SECADM特殊権限を持っていないければなりません。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求ワークステーションで表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

* 対話式ジョブによって要求された出力は、画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

例

```
DSPNTWAUTE SVRTYPE(*NETWARE3) SERVER(SERVER03)
```

このコマンドは、現行ユーザー・プロファイルから、NETWARE 3.XサーバーSERVER03のサーバー認証項目を検査します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2217

ユーザー・プロファイル&1には認可されていません。

FPE0215

&2の認証項目を見つけることができなかった。

トップ

NETWARE接続の表示 (DSPNTWCNN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NETWARE接続表示(DSPNTWCNN)コマンドによってユーザーは、活動状態にある特定のNETWAREサーバー接続について詳細な状況データを検索することができます。接続に関する詳細説明は、このコマンドが出された時に表示されます。

出力は、OUTPUTパラメーターおよびジョブ・タイプによって指示された通りに、表示装置かまたはスプール印刷装置ファイルに向けられます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SERVER	サーバー	文字値	必須, 定位置 1
OPTION	オプション	*ALL, *LOCAL, *SERVER, *OPNFILE	オプション
CNNNBR	接続番号	1-65534, *CURRENT	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

サーバー (SERVER)

ネットワークに対して定義された活動サーバーを指定します。

[トップ](#)

オプション (OPTION)

このパラメーターによって、情報を選択して表示することができます。すべての情報(*ALL)または特定の情報の表示を選択することができます。

***ALL** 接続に関するすべての情報が表示されます。

***SERVER**

特定のサーバーに対して**接続番号 (CNNNBR)**パラメーターによって識別される接続に関する情報だけが表示されます。表示される情報は、この接続と関連してサーバーに保存された統計です。

***OPNFILE**

特定の接続についてオープンされているNETWAREサーバーに関する情報だけが表示されます。

***LOCAL**

ローカル・システムから開始された接続に関する情報だけが表示されます。表示される情報は、この接続についてのローカルISERIESの情報です。

[トップ](#)

接続番号 (C>NNNBR)

表示する活動状態のNETWARE接続の接続番号を指定します。

***CURRENT**

現行ユーザー・プロファイルによってローカル・システムから開始された、**サーバー (SERVER)**パラメーターに指定されたサーバーへの接続が表示されます。

I-65534

表示する接続番号を指定してください。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

出力が要求ワークステーションの画面に表示されるか、あるいはジョブのプール出力で印刷されるかを指定します。

* 対話式ジョブによって要求された出力は、画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのプール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

FPE0105

NETWARE接続&1が表示されなかった。

[トップ](#)

NETWAREボリュームの表示 (DSPNTWVOL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NETWAREボリューム表示(DSPNTWVOL)コマンドは、NETWAREサーバーにあるボリュームに関する情報を表示するために使用されます。出力は、OUTPUTパラメーターおよびジョブ・タイプによって指示された通りに、表示装置かまたはスプール印刷装置ファイルに向けられます。

制約事項:このコマンドを使用するためには、*IOSYSCFG特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
VOL	ボリューム	文字値	必須, 定位置 1
SERVER	サーバー	文字値	必須, 定位置 2
OUTPUT	出力	*, *PRINT -	オプション

[トップ](#)

ボリューム (VOL)

表示するボリュームを指定します。

[トップ](#)

サーバー (SERVER)

ボリュームが置かれているサーバーを指定します。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

出力が要求ワークステーションの画面に表示されるか、あるいはジョブのスプール出力で印刷されるかを指定します。

*
- 対話式ジョブによって要求された出力は、画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスプール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

```
DSPNTWVOL VOL(APPS) SERVER(MKTING)
```

このコマンドは、サーバーMKTING上にある名前APPSのボリュームを表示します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

FPE0132

NETWAREボリューム&1が表示されなかった。

[トップ](#)

ネットワーク・インターフェース記述の表示 (DSPNWID)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・インターフェース記述表示(DSPNWID)コマンドはネットワーク・インターフェース記述を表示します。出力は、出力 (OUTPUT)パラメーターおよびジョブ・タイプによって決定される表示装置またはスプール印刷装置ファイルに転送されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NWID	ネットワーク・インターフェース記述	名前	必須, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT _	オプション, 定位置 2
OPTION	オプション	*ALL, *BASIC, *CHLENTY, *DLCIENTY, *LINELIST, *NETDIF, *PCLENTY, *TMRRTY	オプション

[トップ](#)

ネットワーク・インターフェース記述 (NWID)

これは必須パラメーターです。

表示するネットワーク・インターフェース記述の名前を指定します。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスプール出力で印刷するかを指定します。

* 出力は表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合)、あるいはジョブのスプール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

オプション (OPTION)

このパラメーターにより、このネットワーク・インターフェース記述に関する情報を選択して表示することができます。すべての情報(*ALL)または特定の情報の表示を選択することができます。指定できる値は1つだけです。

***ALL** ネットワーク・インターフェース記述のすべての情報が表示されます。

***BASIC**

ネットワーク・インターフェース記述の基本となるパラメーターの値が表示されます。

***CHLENTY**

ネットワーク・インターフェース記述と関連するチャンネル項目が表示されます。この値は、デジタル総合サービス網(ISDN)が使用された時だけ有効です。

***DLCI** データ・リンク接続ID情報(DLCI番号、状況など) および活動または接続回線が表示されます。この値は、フレーム・リレー・ネットワーク(FR)が使用されている場合にだけ有効です。

***NETDIF**

ネットワーク・インターフェース記述中のネットワーク差異パラメーターの値が表示されます。この値はISDNが使用された時だけ有効です。

***PCLENTY**

ネットワーク・インターフェース記述のプロトコル項目を含むプロトコル固有の情報が表示されます。この値はISDNが使用された時だけ有効です。

***TMRRTY**

ネットワーク・インターフェース記述中のタイマーおよび再試行パラメーターの値が表示されます。

トップ

例

DSPNWID NWID(THISONE)

このコマンドは、THISONEという名前のネットワーク・インターフェース記述についての情報を表示します。情報は、コマンドが投入されたワークステーションの画面に表示されます。コマンドがバッチ・ジョブから入力された場合には、画面からの出力は、ジョブのスパール出力で印刷されます。

トップ

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

CPD2637

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF27AA

ネットワーク・インターフェース&1にはこのオプションは使用できない。

CPF27A4

ネットワーク・インターフェース記述&1が見つからない。

CPF27A5

ネットワーク・インターフェース記述&1に損傷がある。

CPF27A8

ネットワーク・インターフェース&1の&2が正しくない。

[トップ](#)

NWS属性の表示 (DSPNWSA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・サーバー属性表示(DSPNWSA)コマンドは、システムのネットワーク・サーバー属性を表示します。

出力は、OUTPUTパラメーターおよびジョブ・タイプによって指示された表示装置またはスプール印刷装置ファイルに転送されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	オプション	<u>*ALL</u> , *WINDOWS, *NETWARE, *WINDOWSNT	オプション、位置 1
OUTPUT	出力	<u>*</u> , *PRINT	オプション

[トップ](#)

オプション (OPTION)

表示される画面を指定します。

***ALL** すべてのサーバー・タイプに適用されるすべての画面が表示されます。

WINDOWS**またはWINDOWSNT**

WINDOWSサーバー・タイプに適用される画面が表示されますが、詳細説明画面は表示されません。

注: *WINDOWSはV5R4およびそれ以降のリリースで使用されていなければなりません。

*WINDOWSNTの値は、V5R4より前のリリースとの互換性のためにサポートされています。

***NETWARE**

*NETWAREサーバー・タイプに適用される画面が表示されますが、追加情報画面は表示されません。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力が要求元のワークステーションに表示されるか、あるいはジョブのスプール出力で印刷されるかを指定します。

*
対話式ジョブによって要求された出力は画面に表示されます。バッチ・ジョブによって要求された出力は、ジョブのスプール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

例

DSPNWSA OUTPUT(*)

ジョブが対話式の場合は、このコマンドはワークステーションにシステムのネットワーク・サーバー属性を表示します。ジョブがバッチの場合は、ネットワーク・サーバー属性がジョブのスプール出力と共に印刷されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ

***ESCAPEメッセージ**

CPFA452

ネットワーク・サーバー属性が表示されない。

[トップ](#)

NWS構成の表示 (DSPNWSCFG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

NWS構成の表示 (DSPNWSCFG)コマンドは、ネットワーク・サーバー構成を表示します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
NWSCFG	ネットワーク・サーバー構成	通信名	必須, 定位置 1
OPTION	オプション	*ALL, *BASIC, *CNNSEC, *RMTSYS, *RMTIFC, *SRVPRC	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

[トップ](#)

ネットワーク・サーバー構成 (NWSCFG)

ネットワーク・サーバー構成の名前を指定します。

THIS IS A REQUIRED PARAMETER.

[トップ](#)

オプション (OPTION)

すべての情報(*ALL)または特定の情報の表示するかどうかを指定します。

***ALL** ネットワーク・サーバー構成に関するすべての情報が表示されます。

***BASIC**

ネットワーク・サーバー構成の基本特性だけが表示されます。

***CNNSEC**

接続セキュリティのネットワーク・サーバー構成の特性だけが表示されます。

***RMTSYS**

リモート・システムのネットワーク・サーバー構成の特性だけが表示されます。

***RMTIFC**

ネットワーク・サーバー構成のリモート・インターフェース特性だけが表示されます。

***SRVPRC**

サービス・プロセッサのネットワーク・サーバー構成の特性だけが表示されます。

出力 (OUTPUT)

*
_ 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいはジョブのspool出力で印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

THE OUTPUT IS PRINTED WITH THE JOB'S SPOOLED OUTPUT.

トップ

例

DSPNWSCFG NWSCFG(MYCONFIG)

このコマンドは、MYCONFIGという名前のネットワーク・サーバー構成に関する情報を表示します。オプションが指定されていないので、すべての情報が表示されます。情報は、コマンドが入力されたワークステーション画面に表示されます。コマンドがバッチ・ジョブから投入された場合には、コマンドからの出力は、ジョブのspool出力で印刷されます。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF96CB

ネットワーク・サーバー構成&1が見つかりません。

CPF96CC

オプション&1はネットワーク・サーバー構成&2には無効です。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

トップ

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとしします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department 49XA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

(C) (御社名) (年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 (C) Copyright IBM Corp. 1998, 2006. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

Advanced Function Printing

AFP

AS/400

CICS

COBOL/400

C/400

DataPropagator

DB2

IBM

Infoprint

InfoWindow

iSeries
LPDA
OfficeVision
i5/OS
Print Services Facility
RPG/400
SystemView
System/36
TCS
WebSphere

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。



Printed in Japan